

豊田工業高等専門学校の自己点検・評価
並びに外部検証・外部評価報告書 (No.12)

平成 26 年 10 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

豊田工業高等専門学校

豊田高専の外部評価にあたって
—今、高専に求められているもの—

校長 高井 吉明

豊田高専では、地域産業界の代表者、豊田市教育長、大学などの学識者、本校同窓会会長、教育後援会会長の皆様に外部評価委員を委嘱し、2年に一度、本校の教育研究制度に関してご意見を伺う外部評価委員会を実施してきた。この外部評価委員会は平成26年度から運営諮問委員会と改称し、再スタートする予定であり、本校外部評価委員会として最後の委員会となった。本校の評価という意味では、この外部評価委員会以外に、本科と専攻科を対象に大学評価・学位授与機構による認証評価を7年に一度、及び本科5学科に相当する5つの専門分野の教育プログラムを対象としたJABEE（日本科学者教育認定機構）認定を5年に一度、それぞれ受審している。

これまでの外部評価委員会では、平成17年度には教育活動と学生支援活動について、平成19年度には研究活動と公開講座について、平成21年度には高専教育の高度化、さらに平成23年度には国際交流、キャリア教育支援室の運営、ものづくり一気通観エンジニアの養成について委員の皆様のご意見を伺った。平成25年度の本外部評価委員会では、産学連携による人材育成事業と教育活動を通じた地域貢献、低学年における学年団再編3ヵ年の歩み、本校学寮における人間教育を評価課題として選び、本校の自己点検・評価並びに外部検証・外部評価報告書の他、学生便覧、豊田高専広報などの参考資料を準備して行われた。

本外部評価委員会では、豊田市教育委員会教育長 笠井保弘様、豊橋技術科学大学学長補佐・高専連携室長 若原昭浩様、小島プレス工業株式会社 専務取締役 鈴木司様、平成25年度本校同窓会長 足立匡徳様、教育後援会長 酒井勝弘様に委員をお願いした。

本校は、昭和38年の創立以来、地域の産業界との密接な連携により、当初は実践的技術者の養成に尽力していたが、最近ではグローバル化など産業界の構造変化に伴う高専生の活躍の場が変化しており、高専生には実践力だけでなく、創造力、リーダーシップ、国際性など高度な技術者に要求される資質が求められている。また、高専に対しては、従来の地域産業界との連携だけでなく、一般市民をも対象とした地域連携・地域貢献を通じて、その地域で期待される存在となることが要求されるようになってきた。

このような高専を取り巻く環境の変化に応じて、今回の「産学連携事業と地域貢献」では豊田市、豊田商工会議所、豊田高専の3者協同による“とよたイノベーションセンター”の産学連携に関する取り組み、「低学年への学生指導」では本校独自に編成された「学年団」の3年に及ぶ学生教育、そして「学寮教育」では全国51の国立高専でトップの寮学生数を誇る本校学寮の自主的運営について報告を行った。これに対して、各委員から、従来から本校で行っている英語教育、また多くの学生が出掛ける長期海外留学に加えて、これらの産学・地域連携教育研究システムが、社会に求められる人材の育成に対して有益な成果をもたらしているとの評価を頂いた。

今回も3月の多忙な時期に各委員の皆様にご出席頂き、本校の活動に関して貴重なご意見を数多く頂きました。頂いたご意見を本校の運営に反映させ、今後の本校発展に繋げていく所存ですので、宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

目 次

第1部 自己点検・評価

- 1. 産学連携による人材育成事業と教育活動を通じた地域貢献・・・・・・・・・・ 1
- 2. 低学年における学年団再編3ヵ年の歩み・・・・・・・・・・ 10
- 3. 本校学寮における人間教育・・・・・・・・・・ 20

第2部 外部検証・評価

- 平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿・・・・・・・・・・ 41
- 豊田工業高等専門学校外部評価委員会規程・・・・・・・・・・ 42
- 平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会日程及び次第・・・・・・・・・・ 43
- 平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会配布資料一覧・・・・・・・・・・ 44
- 平成25年度外部評価委員会議事録・・・・・・・・・・ 45

第 1 部

自己点検・評価

産学連携による人材育成事業と教育活動を通じた地域貢献

地域共同テクノセンター長
情報工学科 教授 稲垣 宏

1. はじめに

愛知県の工業出荷額（製造品出荷額等）は全国1位であり，その中でも突出した「ものづくりの地」である豊田市に本校は位置している．こうした産業的特色より，本校では，就職希望者のうち8割程度が製造業や運輸通信業へ就職し，就職先の多くが愛知県内となっている．このように，活性化の著しい豊田地域ではあるが，製造業の持続的成長に必要な人材の育成は最重点課題であり，実践的・創造的技術者の育成を使命とする本校に対する期待は高い．

このような背景を受け，平成24年4月，豊田市・豊田商工会議所・豊田高専の3者間で協定を締結し，同年6月に，豊田高専「地域共同テクノセンター」（図1）内に，「とよたイノベーションセンター」を開設した．とよたイノベーションセンターは，地域企業の発展を目指し，①ものづくり人材育成，②技術・経営相談，③新技術・新産業創出支援，という三つの役割を担うべく，整備を進めており，徐々に実績を上げつつある．

また，企業を対象とした人材育成活動以外にも，地域の小中学生や一般の方たちを対象とした様々なイベントを企画・開催し，教育活動を通じた地域貢献に尽力している．例えば，子どもたちに科学技術のおもしろさを伝える「公開講座」「出前授業」「科学教室」，また，一般の方たちの生涯学習に向けた「教養講座」など，教員と職員が一体となり，地域における知の拠点として，幅広い活動を展開している．

本稿では，上記の活動（産学連携教育，地域貢献）の中から，特色のある取り組みをいくつかを取り上げ，その概要と成果について説明する．



図1 地域共同テクノセンター

2. 「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラム

2.1 プログラム構築に至る経緯

豊田市およびその周辺地域は，自動車産業を中心としたものづくり産業の一大集積地であり，これまで，わが国の経済発展を牽引してきた．しかし，近年は，グローバル競争の激化に伴い，産業

のピラミッド構造が急激に変化したため、地域のものづくり中小企業は、厳しい状況に置かれている。中堅・中小のものづくり企業に求められるものが、従来の「量産する」技術から、『システム製品』や『高品質・高付加価値製品』を生み出す技術へと変化してきているのである。

そのため、中小企業の技術者においても、商品企画力、技術開発力、問題解決力、技術マネジメント力といったリーダー技術者としての素養が求められ、製造工程全体を見通す能力が必要とされている。

このような背景の下、豊田高専では、文部科学省の「社会システム改革と研究開発の一体的推進」（旧 科学技術振興調整費）における「地域再生人材創出拠点の形成」事業の支援を受け、「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを構築し、平成 22 年度より受講生を受け入れている。

本プログラムでは、①ものづくりの構想・企画から最終工程までの一連のものづくり工程を見通す力を養い、②技術マネジメント力をもった「創造力豊かなリーダー技術者」の育成を目指している。

2.2 プログラムの特長

(1) 工学・実学が一体となった実践的教育

創造的ものづくりに欠かせない工学知識と、製造現場で必要とされる実践的なスキルを融合させることで、多面的に考察する力を育成する。また、ものづくりの一貫工程を実践的に学ぶことで、技術マネジメント力と問題解決力を身につける。

(2) 企業技術者と学生の混成チームによる実習

一つのプロジェクトチームは、6～10 人程度のメンバーからなり、企業技術者と専攻科学生がそれぞれ半数程度となるように編成される。さらに、企業技術者、専攻科学生とも、専門分野ができるかぎり重ならないように振り分け、異分野のメンバーで構成されるチームを作る。これにより、異分野の技術者と協力することの大切さ、チームワーク力の育成、チームにおける自己の役割などを体感してもらう。

また、学生の自由な発想と、企業技術者の経験に基づくコストや納期を意識した考えをぶつけあうことで生まれるシナジー効果にも期待している。

(3) 自動組立設備の構築

本プログラムにおけるカリキュラムの中心は、実践課題研究とよばれるプロジェクト実習である。そこでは、与えられた要求を満たす製品を作り出すための「生産システムの構築」が、課題として課せられる。そして、製造工程の設計から、部品加工・設備製作、調整・運転に至るまでのものづくりの一貫工程を通して、プロジェクトチームのメンバー全員が一丸となって、課題達成に向けて取り組む。本実習で実際に使用する組立ロボット設備（4 班分）を図 2 に示す。



図 2 組立ロボット設備（4 班分）

2.3 課題と成果（1期生）

（1）課題

1期生（全4班）に課せられた課題は、「レゴブロックF1カーの生産システムの開発」である。レゴブロック34個を使ったF1カー（図3）の製造工程を4工程に分け、一つの工程を一つの班が担当することにする（工程分割のしかたも自分たちで考える）。そこでは、自分の担当の工程だけを理解していればよいわけではなく、常に、前工程と後工程を意識する必要がある。この体験によって、製造工程全体を見通す力を養うことを意図している。



図3 レゴブロックF1カーの完成品

（2）成果

担当する製造工程を実現するため、自動組立方法の企画・構想から始まり、スチレンボードを使った組立シミュレーションを経て、治具やロボット部品の開発・設計を行う。その後、機械分野の技術者や学生が中心となって、工作機械による金属加工・樹脂加工を行い、実際の治具やロボット部品を製作する。それらを組立ロボット設備に組み付け、製造ラインを構築する。完成した生産システム（1班分）を図4に示す。



図4 完成した生産システムの1工程

2.4 課題と成果（2期生）

（1）課題

2期生（全4班）のプログラムでは、製造ラインの開発に加えて、その前段階である新商品の企画・構想プロセスも取り入れることにした。商品の企画に当たっては、市場調査から、デザインや作りやすさに至るまで多面的な評価を行った。商品企画案を全班に出してもらい、コンペを実施した。その結果、開発する商品は、「電子日めくりカレンダー」（商品名「日めくるりん」）に決まった。コンペで使ったスチレンモデルを図5に示す。



図5 新商品「日めくるりん」（スチレンモデル）

（2）成果

2期生の課題を達成するためには、自動組立設備の開発に加えて、電子日めくりカレンダーを実現するための電子基板の設計・製作、そして、液晶ディスプレイを制御するマイコンプログラムの開発といった多種多様な作業が必要となる。そのため、プロジェクトチーム内の分業・協力体制・情報共有が成功の鍵を握ることになる。開発した生産システムの運転の様子を図6に示す。



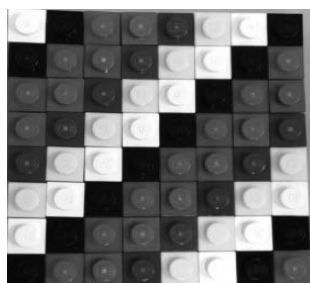
図6 開発した生産システムの運転の様子

2.5 課題と成果（3期生）

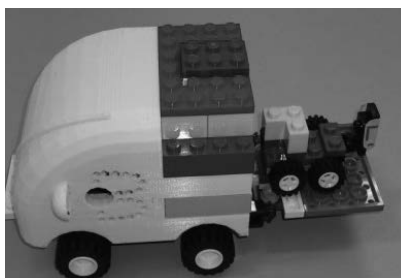
(1) 課題

3期生（全4班）には、「レゴブロックを使った商品の企画と自動組立設備の構築」という課題を設定した。そこでは、レゴブロックを使って、これまでにないコンセプトをもった新しい商品を企画・提案し、その商品を製造するための自動組立設備も自分たちで製作するというものである。

今回は、2期生までと異なり、それぞれの班で企画・提案した商品を、班ごとに、セル生産方式の製造設備として実現することにした。各班で企画・提案した商品を図7に示す。



A班：レゴプリンタ



B班：車いす対応自動車



C班：自動ゴミ収集車



D班：コンパクト3輪自動車

図7 各班で企画・提案した商品

(2) 成果

3期生には、セル生産方式による自動組立設備の開発が課せられており、一つのロボット設備ですべての組立を実現する必要がある。班ごとに、全く異なる製造工程になるため、班内でのディスカッションや作業分担、そして情報共有が非常に大切になる。開発した生産システムの運転時の様子を図8と図9に示す。

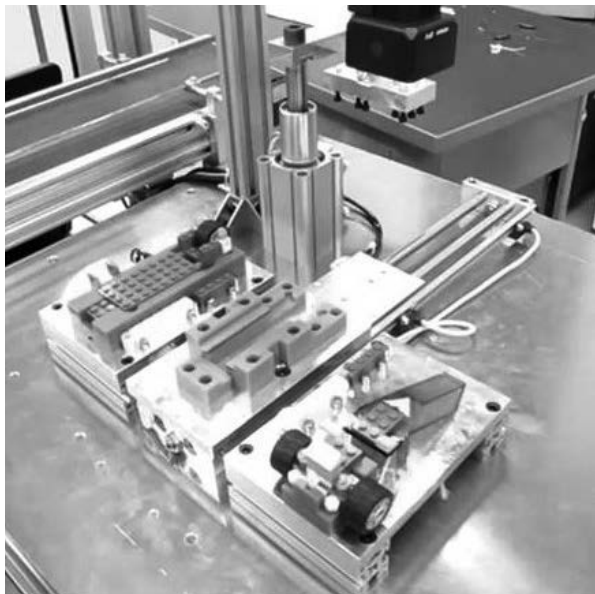


図8 開発した生産システム(1)
 (「コンパクト3輪自動車」の例)

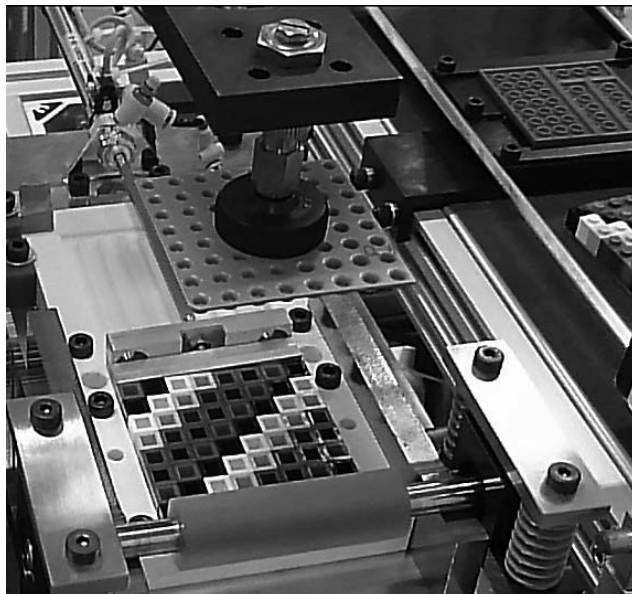


図9 開発した生産システム(2)
 (「レゴプリンタ」の例)

2.6 自立化に向けて

文部科学省の支援を受けた事業としては、本年度が最終年度となる。現在、豊田高専・豊田市・豊田商工会議所の連携組織である「とよたイノベーションセンター」を中心に、来年度からの自立化に向けた体制作りを進めている。

3. 「製造技術者育成」プログラム

「製造技術者育成」プログラムは、とよたイノベーションセンターが実施している企業技術者を対象にした社会人向け講座である。中堅・中小企業の製造現場の初級技術者を対象に、製造現場で必要となる基礎技術について、演習・実験・実習・企業研修を交えて実践的に学ぶことができる講座となっている。今年度は、表1に示す4講座を開講した。いずれの講座も、1回3時間の授業10回から構成されており、1講座当たりの受講費は、一人20,000円(豊田市内企業の場合)である。授業風景を図10に示す。

表1 製造技術者育成プログラム(平成25年度開講分)

講座名	期間	定員	受講人数	修了者数
① 機械製図の基礎	9月6日～11月8日	20名	23名	23名
② 電気・電子回路の基礎	9月17日～11月22日	20名	11名	8名
③ 機械加工・計測評価技術	10月28日～12月23日	20名	16名	16名
④ 生産設備制御・保全技術	11月12日～1月16日	20名	20名	20名



図 10 「製造技術者育成」プログラムの授業風景

4. 教育活動を通じた地域貢献

4.1 公開講座（豊田高専わくわく広場）

本校では、教職員が一体となり、「中学生を対象とした科学技術に関する公開講座」や「地域住民を対象とした幅広い分野にわたる一般教養講座」を実施している。平成 25 年度に実施した公開講座の一覧を表 2 に示す。

表 2 平成 25 年度 公開講座 一覧（実績）

対象	学科	講座名	募集 (名)	申込 (名)	申込率 (%)	許可 (名)	落選 (名)	受講 (名)	欠席 (名)	充足率(%) (受講/募集)
小学 中学	機械	ものづくり体験記Ⅲ	18	41	228	24	17	21	3	117
		とよた高専おもしろ科学教室（4.3 節）	40	70	175	70	0	64	6	160
		小計	58	111	191	94	17	85	9	117
中学	環境	ウルトラマイクロ水力発電モデルの製作	15	15	100	15	0	13	2	87
	情報	ロボットレスキューに挑戦！	16	16	100	16	0	16	0	100
	建築	気分は建築家！？夢のマイホームを設計しよう！	12	19	158	19	0	18	1	150

	電気	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト（１）	30	30	100	30	0	27	3	90
	電気	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト（２）	30	30	100	30	0	30	0	100
	電気	Mathematica で楽しく学ぶ数学体験	10	11	110	11	0	11	0	110
	小計		113	121	107	121	0	115	6	106
一般	環境	「地震災害から身を守るためのヒント」	20	3	15	3	0	3	0	15
	電気	絵本からはじめる英語多読入門	15	7	47	7	0	6	1	40
	小計		35	10	100	10	0	9	1	28
合計			206	242	117	225	17	209	16	101

4.2 出前授業および地域貢献事業

本校では、小中学生を対象とした出前授業や、近隣市町及び県等が主催する科学技術関連イベントへの参加を組織的かつ積極的に推進している。これにより、小中学生の理科離れを食い止め、科学技術に対する興味の喚起を目指している。さらに、地域住民の生涯学習の支援を通して、地域文化の振興に寄与するため、一般教養の講座にも力を入れている。

平成 25 年度に実施した出前授業および地域貢献事業の一覧を表 3 に示す。1 年間で、出前授業 24 件、各種の地域貢献事業 14 件を実施した。例として、本校で開発したロボカップ用小型サッカーロボットを使った体験型セミナーの様子を図 11 に、同セミナーを紹介する新聞記事を図 12 に示す。

表 3 平成 25 年度 出前授業および地域貢献事業 一覧（実績）

	実施日	実施場所	区分	本校担当教員		テーマ
				学科	氏名	
1	7/16	西尾市立白浜小学校	出前授業	C	伊東	地震の液状化実験
2	7/16	名古屋市立内山小学校	出前授業	A	山本	みんなでつくる災害危険箇所マップ
3	7/18	豊橋市立嵩山小学校	出前授業	G	松浦	戦国時代の武将の物語を読もう
4	7/27	トヨタ自動車 三好工場	地域貢献	E, 技	杉浦, 渡辺	フェスタ三好 出展
5	8/3	豊田市科学館	地域貢献	A	山本	サイエンステラス「積み木でアーチ」
6	8/11	豊田市科学館	地域貢献	I	木村	サイエンステラス「君もロボット操縦士」
7	8/31	豊橋技科大	地域貢献	E	杉浦	技科大オープンキャンパスでのサッカーロボット体験
8	9/19	田原市立泉中学校	出前授業	M	兼重, 上木	自動で動く機械のいろいろ
			出前授業	E	吉岡, 大野	ペットボトル風車の製作とコンテスト
			出前授業	C	川西	橋の話と橋模型づくり
			出前授業	A	山田	つくろう！ 耐震・制振・免震
9	9/24	豊田市立平井小学校	出前授業	G	松浦	戦国時代の武将の物語を読もう
10	9/28	豊田スタジアム	地域貢献	C	野田, 山岡	とよたおいでんバス体験乗車会
11	10/1	愛西市立勝幡小学校	出前授業	G	松浦	戦国時代の武将の物語を読もう
12	10/6	トヨタスポーツセンター	地域貢献	E	齋藤	とよたものづくりフェスタ「電子ホテルを作ろう」

13	10/6	トヨタスポーツセンター	地域貢献	E	杉浦	とよたものづくりフェスタ「ロボットサッカー」
14	10/9	名古屋市名北小学校	出前授業	C	松本	身近な水の中の生き物について考えてみよう
15	10/9-11	ポートメッセなごや	地域貢献	I	山本	TECH Biz EXP02013 展示「音声メディア処理技術」
16	10/11	清須市立星の宮小学校	出前授業	E	杉浦	ロボカップ世界大会サッカー
17	10/18	一宮市立尾西第一中学校	出前授業	G	今	割れにくいシャボン玉を作ろう！
18	10/26	豊田市立保見中学校	出前授業	M	若澤, 近藤	空気圧で動く機械
19	10/26	田原市立童浦小学校	出前授業	G	今	割れにくいシャボン玉を作ろう！
20	10/30	刈谷市立住吉小学校	出前授業		末松	からくり人形の知恵と技を知ろう
			出前授業	G	今	割れにくいシャボン玉を作ろう！
			出前授業	E	杉浦	ロボカップ世界大会サッカー
21	11/15	西尾市立中畑小学校	出前授業	G	今	割れにくいシャボン玉を作ろう！
22	11/20	あま市立宝小学校	出前授業	G	今	割れにくいシャボン玉を作ろう！
23	11/30	小牧市	地域貢献	G	松浦	歴史基礎講座『『武功夜話』に描かれた小牧山城』
24	12/3	名古屋市立牧の原小学校	出前授業	G	高津	タグラグビーをやってみよう
25	12/3	豊田市挙母小学校	出前授業	C	小林	災害から身を守るためのヒント
26	12/9	豊田市滝脇小学校	出前授業	A	鈴木	省エネで快適に過ごすための熱のメカニズム
27	12/10	名古屋市立柴田小学校	出前授業	E	杉浦	ロボカップ世界大会サッカー
28	12/12-14	東京ビックサイト	地域貢献	A	伊澤	エコプロダクツ2013 パネル展示・模型展示
29	12/17	あま市立秋竹小学校	出前授業	C	伊東	地震の液状化実験
30	12/21-24	豊田市科学館	地域貢献	I	木村	サイエンステラス 「レスキューロボットに挑戦」
31	12/22	大口町教育委員会	地域貢献	E	杉浦	ロボカップサッカー小型ロボット体験教室
32	1/18-19	とよた科学館	地域貢献	E	杉浦	サイエンステラス 「ロボカップ小型ロボット体験」
33	2/25	名古屋市立豊が丘小学校	出前授業	G	高津	タグラグビーをやってみよう
34	3/6-7	スカイホール豊田	地域貢献	I	稲垣	とよたビジネスフェア:展示「一気通観エンジニア養成」
35	3/8	スカイホール豊田	地域貢献	C	小林	とよた防災フェスタ:パネル展示・液状化体験

出前授業 25

地域貢献 15



図 11 ロボカップ用小型サッカーロボットを使った体験型セミナーの様子



図 12 ロボカップ用小型サッカーロボットを使った体験型セミナーの新聞記事

4.3 とよた高専おもしろ科学教室

日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業の採択を受け、平成 26 年 1 月 11 日に、「とよた高専おもしろ科学教室」を開催した。この事業は、研究機関で行っている最先端の科学研究費助成事業の研究成果について、小学校 5・6 年生、中学生、高校生が、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムである。今年度は、「磁石で楽しい工作」と題して、モータに関する講演「磁石の不思議」（講師：情報工学科 加納准教授）と、「電磁力スペースシャトル」の工作を実施した。講座の様子を図 13 に示す。長野県・滋賀県から参加した親子もあり、子どもたちは熱心に実習課題に取り組んでいた。



図 13 「とよた高専おもしろ科学教室」における「電磁力スペースシャトル」工作の様子

平成 26 年 3 月 14 日
外部評価委員会報告資料

低学年における学年団再編 3 ヶ年の歩み

報告者：第 2 学年主任 金井 康雄

1. 低学年における学年団再編

1) 学年団再編に当たっての確認事項

(平成 23 年 3 月新年度(平成 23 年度)第 1 学年団確認および平成 24 年 3 月校長了承)

① 再編の目的と内容

平成 21 年度 FD シンポジウムにおける教育改善推進室報告、平成 22 年度 FD セミナーにおけるキャリア教育支援についての意見交換報告、教務主事方針などを踏まえて、低学年におけるより効果的・学生指導の必要性とその指導内容が確認される。このために、従来での学年教員団のあり方を再考し、より効果的な指導体制とするため学年主任を指導教員の兼任役職の立場から独立した役職とし、職務内容を明確化し直接校長が選任するものとする。

また、指導教員についても副校長等の意見を参考にして校長が選任するものとする。

② 指導体制における基本的内容

ア) 学年会議を定期的に行う。基本的には月 2 回が望ましいと考える。

○ 指導目標の一つに基本的生活習慣の定着を掲げ、その目標にしたがって集団指導する。そのためには、基本的活動として週 2 回の朝授業前のクラス状況観察あるいは SHR（ショートホームルーム）（できれば月曜日、金曜日）、授業後の放課でのクラス状況観察あるいは SHR を考える。

○ クラス状況観察あるいは SHR の内容：着席、授業準備、清掃、日番義務の履行などの状況把握、および諸連絡など

イ) キャリア教育支援室など学年外機関との連携

2) 再編および試行時における長所と問題点

ア) 長所

○ HR の実施方法の意見交換ができる。始めて指導教員を担当する先生にとっても有益と考える。（実際は、毎週学年会議を開催）

○ 日頃協議や意見交換を重ねているので、学年集会（合同 HR）の内容決定や他機関との協議が円滑に進む。

○ 一般学科での低学年指導が集団で行われていることが他の先生方に理解され易い。

イ) 問題点

○ 学年団による学年指導の必要性は確認されたが、具体的運営方法などが明確にされていなかった。

2. 学年団活動内容

1) 学年団の年度ごとの指導目標・指導方針の設定

2) HR 時における指導計画

ア) HR 計画例

イ) 5 学科合同 HR(学年集会)計画例

ウ) 行事における指導計画例

3) 学生指導指針

(これら項目は下記の議事録にあるように学年会議で了承されたものである)

ア) 基本的生活習慣の定着を目指す

イ) 基本的学習習慣の定着を目指す

ウ) 行事・係などの目的・意義・内容の説明および理解させることに努める

エ) 保護者、教員などできるだけ多く人たちから情報を集め、個々の学生にとって総合的に良いか悪いかの判断を行い、けじめある指導に努める

4) 第 1 学年および第 2 学年学年会議議事録より

* 下線は報告者による。《 》内は上記項目に該当する記号・番号である。

ア) 「平成 23 年度第 1 回 第 1 学年会議議事録(抄)」(平成 22 年 12 月 15 日)

「1. 学年指導目標 《 1 》」

(1) 「時を守り、場を清め、礼を正す」学生育成

(2) 「学びに向いている」学生育成

2. 学年指導方針 《 1 》

(1) けじめある指導

(2) 学生への説明を怠らない指導

3. 年度具体的指導目標 《 1 》

(1) 基本的生活習慣の育成

(2) 基本的学習習慣の育成

4. HR・学年集会年間計画について 《 2 》

(1) 主体的学年団活動

(2) 別紙参照

5. 学年会議のもちかた

(1) 計画性のある会議

(2) 会議と雑談、親交を峻別

6. その他

(1) 教室清掃について 《 3 》ウ)》

(2) 日番について 《 3 》ウ)》

7. キャリア支援室の学年指導内容

- (1) 順次検討
- 8. キャリア支援室からの協力要請項目
 - (1) HR・学年集会年間計画を参照
- 9. 学生主事 G との連携
 - (1) 順次検討
- 10. 寮務主事 G との連携
 - (1) 一日の日程（通生の場合，寮生の場合）を周知（クラス掲示など）
- 11. 次回会議予定
 - (1) 2月10日（木）14:40～ 一般学科研究室（東）」
- イ) 「平成23年度 第25回 第1学年会議議事録(抄)」(平成23年9月22日)

「・・・
- 6. 学年集会 《2) イ)》

注意：以下の計画では，11月9日(水)から11月30日(水)までクラス HR がとれない！

 - 1) 第8回 10月26日（水）14:40～15:30 開催場所未定（HR の可能性あり）
 - ① 14:45 集合完了
 - ② 14:50～15:20 [キャリア教育プログラムー学生生活振り返り講座]
 - ③ 15:20～15:30 [避難訓練：実施の場合は消火器訓練が取り止めになる可能性あり，体育祭の反省，文化祭・こうよう祭の意義]
 - こうよう祭直前の浮かれ気味の時期であるが，前学期の成績を踏まえ，前学期の学生生活を振り返る。
 - ④ 15:30 集会解散
 - 2) 第9回 11月9日（水）14:40～15:30 多目的ホール
 - ① 14:45 集合完了
 - ② 14:50～15:20 [国際・異文化理解講座（1） 海外研修を経験した学生の話]
 - ③ 15:20～15:30 学年団講話
 - ④ 15:30 集会解散
- 7. HR 《2) ア)》
 - 1) 第9回 HR：10月5日
 - ① 後学期の始まりでの留意事項 - 時間割，生活リズムなど。
 - ② 後学期の行事日程
 - 体育祭:開催の目的・意義:心身を健康に保ち鍛えてきた日頃の成果を発揮する。
クラス・学科の団結力を高める（応援合戦あり）。
 - こうよう祭・保護者個別面談：学生の文化的発表会，面談を休日に希望する方が多いので希望通りの日時にならないことがあるので，そのときは再度相談することになる。

- 生活リズム点検を実施している意図・学年団の目標
- 各委員・係(日番等)の仕事内容確認と誠実に遂行するよう依頼する。
- 答案返却・成績通知：前学期成績の反省を必ず行う。

2) 第10回 HR：10月12日

① 成績通知(来週水曜日)：前学期の成績を踏まえて学習方法・時間等を反省し工夫する。学習習慣をつけるため、1週間の学習計画を立てるのもよい。少なくとも毎朝今日の学習科目・現在の学習内容・理解していない項目を確認する習慣を身につける。

《 3) イ) 》

② 避難訓練：意義と目的「居安思危(こあんしき)」の精神：平安無事の時にも、危難に備え、用心を怠らないこと。：3月11日の災害に学ばないと亡くなられた方々の御霊は癒されない。 《 3) ウ) 》

③ 体育祭の準備

ウ) 「平成25年度 第23回 第2学年会議議事録(抄)」(平成25年12月6日)

「・・・」

1. 審議事項

(1) 第2学年目標の確認

① 基本的生活習慣の育成：

具体的目標「時を守り、場を清め、礼を正す」の定着 《 3) ア) 》

② 基本的学習習慣の育成：

具体的目標：学習時間帯の活用、授業中の居眠り防止、課題提出 《 3) イ) 》

③ 2年前学期：

授業開始時に着席しており、課題提出を励行し、生活と学習の習慣をより定着させる。人間力向上として、他人の立場に立てる。《 3) ア) イ) 》

④ 2年後学期： 前学期を継承する。

(2) 課題提出状況と対応、後ろの黒板の利用

2. 意見交換・連絡事項

(1) クラス、学生の動向

(2) キャリア教育支援プログラム：特別講演「人間力講演会」についての反省(再)

- T-ファイルを眺めて

(3) 「スキー教育」合宿説明会日程について

(4) アルバイトの許可手順について(例：冬休み郵便アルバイト) 審議継続

《 3) エ) 》

3. HR・学年集会実施計画

(1) 第11回学年集会 12月11日(水) 14:40～多目的ホール：

前から順に、2I,2C,2A,2M,2Eで着席

① キャリア教育支援プログラム(国際理解・異文化理解講座)

② 諸連絡

(2) 第15回 HR 12月18日(水) 14:40 ～

① 冬休みの過ごし方

② 小テスト・中間試験の結果を踏まえて(再試験などのことも考えて)今後の学習計画を立てる。

③ 緊急連絡確認

④ スキー合宿に関する諸注意(冬季休暇中に代金の振り込み等を行わないといけないこと等) 《3) り》

⑤ 諸報告の徹底確認

⑥ 年が明けると小テスト・再試験・補習そして定期試験、しかし先輩は乗り越えてきた。特に緊張する必要もない。生活リズムが乱れず、学習は特別な場合を除きコンスタントに続ける。

(3) 第12回学年集会 1月8日(水) 14:40~15:10 後に HR 多目的ホールに変更!

① 冬休みを終えて頭・気分の切り替え。

② スキー教育合宿について(その1)

《SHR 内容》

① 学年集会のフォロー

② スキー合宿に関する注意・確認(冬季休暇中にすべきことを完了しているか等) 《3) り》

③ 日程確認

④ 生活基本の確認:日番・清掃など。 《3) り》

5) 長期休暇中における低学年補習の実施

ア) 「(平成24年度)夏季休暇における低学年補習の実施について」より

「

平成24年度6月25日

夏季休暇における低学年補習の実施について

第1学年・第2学年指導教員団

近年、学力不振あるいは学習への関心がない学生が徐々に増加してきているように思われます。このような状況がさらに進んでいかないうちに第1学年・第2学年指導教員団としてそのような学生たちに学習への支援を行い、学習に向かうあるいは向き続けるよう指導すべきだと考えています。個々の教員による指導は以前より実践されていますが、それらを補い、低学年学生全体あるいは学校全体の学習への意欲的な環境を促進する意味でも組織的な取り組みの必要性を考え試行することとしました。この試行による実行性や有効性は直ちに現われるものではありませんが、何か感ずるところがありましたら、ご意見等をお寄せいただければ有難く思います。どうか宜しくお願いします。

1. 補習目的

夏季長期休暇の初めに生活習慣および学習習慣の基本的リズムを着けさせ、補習後の休み生活においても生活が乱れないよう指導することも兼ねて、専門科目にとって基幹となる数学科目の補習を実施し、基礎力の要請を行う。さらに、計画を踏まえて学習習慣を維持させ、9月から再開する授業およびそれに続く定期試験に向けての準備となるよう指導する。

2. 補習科目

数学科4科目（基礎解析ⅠA、線形数学ⅠA、基礎解析ⅡA、線形数学ⅡA）

物理科2科目（物理ⅠA、物理ⅠB）

3. 補習対象者

担当教員から指名された学生を含む各学年30名程度の学生とする。

4. 補習対象者選考手順

5. 補習教材

数学科作成教材、物理科作成教材

6. 補習教材準備手順

7. 補習期間・時間

7月17日（火）から 7月20日（金）

各日 午前10時から12時および午後1時から3時の2ターム

8. 補習会場

9. 補習担当者（各担当係を決め職務内容、活動日時を定める）

10. 指導教員の業務（指導教員の職務内容、活動日時を定める）

11. その他

」

イ)「春季休暇における第1学年補習の実施について」より

「

平成25年2月8日

春季休暇における第1学年補習の実施について

第1学年指導教員団

夏季休暇における補習実施要項にも記しましたが、学力不振あるいは学習への関心がない学生が徐々に増加してきているように思われます。課題が出せないということがそのような学生の一つの特徴となっています。現在課題提出を促す取組を学年団で行っていますが、十分な効果をだしているとは言い難い状況です。春休みはいろいろな体験学習ができるよい機会ではありますが、学力不振の学生には学習習慣定着が基本的な目標であると考え、短い期間ではありますが、補習を実施したいと思います。これは低学年学生全体あるいは学校全体の学習への意欲的な環境を促進するための試行とも考えています。何かご意見がありましたら、ご意見等をお寄せいただければ有難く思います。どうか宜しくお願いします。

1. 補習目的

春季長期休暇の中頃に生活習慣および学習習慣の基本的リズムを取り戻し、補習後の休み生活においても生活が乱れないよう指導することも兼ねて、専門科目にとって基幹となる数学科目の補習を行う。さらに、4月からの学年に新たな気持ち・態度で臨み、目標を持って学習に取り組める準備となるよう指導する。

2. 補習科目

数学科4科目（基礎解析Ⅰ，線形数学Ⅰ）

3. 補習対象者

（以下、「夏季休暇における低学年補習の実施について」と同様の細案を組む）」

6) 各行事での指導内容・方法などを主催部署と確認（上記議事録参照）

7) 学生指導における低学年指導計画の立案

一般学科全体で審議中，一部該当部署への提案を始めている。

8) 各係への指導内容（学生課学生支援係作成資料，学生便覧参考）

- ア) 委員長，イ) 出席簿係，ウ) 清掃当番(日番が兼務)，エ) こうよう祭委員
- カ) 執行委員，ク) その他の委員

3. 反省点・問題点

1) 長所（平成25年度 FD シンポジウム における「テーマ別実践基調報告および意見交換会」での報告資料とするために教員より聞いた意見・感想より抜粋）

- ア) 学生指導に関して担任間の意思統一が図られるようになった（学年会議を通じて）
- イ) 学生にも指導内容が受け入れやすく，また連絡事項が伝わりやすくなったのでは，（SHR や LHR，学年集会を通じて）「週番制」も機能している
- ウ) 全クラスの学生の様子がわかる
- エ) 共通の問題があれば対応に動きやすい（課題提出，補習，授業中の携帯の指導などで実績）
- カ) 他の教員と情報共有，意見交換しての指導
- ク) 個々の教員の精神的負担の軽減

2) 問題点

- ア) 会議が長く，時間が拘束される
- イ) 学生とコンタクトする時間が減った
- ウ) クラスの個性が出にくい
- エ) クラス毎に対応を変えたほうがいいのか？
- カ) 補習の実施，キャリア支援との連携，会議など指導教員の負担が増えた

3) 提案

- ア) 学年団を構成する教員の科目のバランスを整える，また全クラス横並びで担当する教員を配置する
- イ) 会議のやり方，会議時間の短縮

- ウ) 毎回の議題の軽重やキャリア支援との打ち合わせの方法の見直し
- エ) 留年者などへの対応の基盤としてはどうか
- オ) 担任まかせではなく関係する教員が協力する場へ
- カ) 行事や成績システムについて提案してゆく

4. 指導教員を経験された教員が目指す共通認識の例

- 1) 学生の信頼を得るための授業力とコミュニケーション力(カンセリングマインド)の養成に努める。
- 2) 多様な立場に立って話ができるための素養の蓄積に努める。
- 3) 互いに学び合い、人間としてともに成長を目指す関係を学生と構築し、学生に対するけじめある指導・支援ができるよう努める。
- 4) 3) のためには、各教員が人生観、価値観、歴史観などの体系化を不断に心掛ける。
- 5) 組織的協働の有効性と個性的な指導の有効性を自覚し、それらのバランスを良好に保つ工夫に努める。
- 6) 保護者・家庭との情報交換・連携に努め、家庭における問題、学校における問題と学生指導との間に生じる困難な状況に、焦らず大局観も忘れず地道に対応することに努める。

● 平成 25 年度 FD シンポジウム(教育改善推進室主催)における資料

「豊かな人間を共に目指して―指導教員参考資料―」の充実を意見交換しながら進める。

5. 学年団活動および学生指導の規則・法律的基盤

1) 豊田工業高等専門学校教員組織規程

ア) 「第 1 章 総則

第 19 条 学級にそれぞれ 1 名の指導教員を置く。

2 低学年（第 1，2 学年）は学年別にそれぞれ学年主任を置く。

3 高学年（第 3 学年以上）は学科別にそれぞれ指導主任を置く。」

イ) 「第 13 章 指導教員

(資格)

第 71 条 指導教員は、本校教員をもって充てる。

(職務)

第 72 条 指導教員は、次の事項を行う。

- 一 学級経営の計画及び運営に関すること。
- 二 学級の特別教育活動に関すること。
- 三 学級学生の学習指導に関すること。
- 四 学級学生の生活指導に関すること。
- 五 学級学生の保護者との連絡に関すること。

六 その他学級に関すること。

2 専攻科の指導教員は、次の事項を行う。

・・・」

ウ) 「(職務)

第73条の3 学年主任は、当該学年の運営に関し、主事、学科主任、指導教員との連絡調整にあたる。」

2) 関係法規（高等教育機関においても学生指導の必要性を考える基本資料となる。）

ア) 教 育 基 本 法

平成十八年十二月二十二日法律第二十号

「・・・，個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。・・・」

「第一章 教育の目的及び理念

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

(教育の目標)

第二条 教育は、その目的を実現するため、・・・

(生涯学習の理念)

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるように、・・・。

・・・

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

・・・

(教員)

第九条 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

2 前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。

(家庭教育)

第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであ

って、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第十三条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」

イ) 学校教育法施行規則

昭和二十二年五月二十三日文部省令第十一号

一部改正：平成二十一年三月九日文部科学省令第三号

最終改正：平成二四年三月三〇日文部科学省令第一四号

「第一章 総則

・・・

第二十五条 校長（学長を除く。）は、当該学校に在学する児童等について出席簿を作成しなければならない。

第二十六条 校長及び教員が児童等に懲戒を加えるに当つては、児童等の心身の発達に応ずる等教育上必要な配慮をしなければならない。」

本校学寮における人間教育

寮務主事

一般学科 教授 鈴木基伸

1 はじめに

本校学寮は、平成 25 年度に、新寮が増設され、寮生数は 609 名となった。これにより、本校の学寮は、寮生数で全国一となった（資料 1 参照）。

多人数の寮のため、寮生には日々、生活面で様々な不便をかけている。朝、昼、夕の食事の時は、寮食堂に長蛇の列ができる。20 時の点呼前の風呂は大変な混雑である。他にも、洗濯機の順番待ち、開寮・閉寮の荷物搬入・搬出等、とにかく「忍耐」が要求される場面が多い。

それにもかかわらず、本校の学寮は、さほど大きな問題も生じることなく、運営が行われてきた。その一番の要因は、「自分たちの寮は、自分たちで運営する」という、寮生、とりわけ、「寮指導学生（寮生会執行部、指導寮生、フロアリーダー、班長、各種委員会委員長）」の強い思いである。「寮指導学生」には、「自分たちが寮を支える主体者である」という思いが強い。その思いは、低学年寮生にも伝わり、やがて彼らが高学年になった時に、かつて先輩がしてきたように、寮を支えるリーダーとして、活躍する—このような「正のスパイラル」が、本校学寮の伝統を作り、また、人間教育の力となっている。

本校の学寮は、上記のように、寮指導学生の多大な協力のもと運営されている。こうした「自治寮」に近い、本校の寮を、自らの力で運営することに、寮生たちはプライドを持っている。こうした寮生たちの「自己肯定感」を尊重しつつ、側面支援しているのが、本校の教職員、とりわけ、学生課寮務係と寮務運営委員会の教職員である。本校の学寮運営が、比較的円滑に行われている大きな要因は、こうした、寮生を寮運営の主体者とし、教職員は、それを側面的にサポートするという体制にあると言える。

以下に、まず、本校の「学寮組織」「日課および主な年間行事」「4 つの柱」を記述した後、「寮指導学生の研修」を解説し、最後に、「学寮における様々な連携・交流」を述べて、本校学寮の「人間教育」について浮き彫りにしたいと思う。

2 学寮組織

2-1 寮生組織

寮生会が、学寮の全体を統括し、その下に 12 の委員会がある。寮生会と委員会委員長は 4 年生以上の高学年が務める。低学年（1、2 年）寮の各フロアでは、指導寮生（4、5 年生）2 名と班長（3 年生）2 名（棟によっては 4 名）が低学年の生活のサポートをする。高学年寮の各フロアでは、フロアリーダー（4、5 年生）が寮生と教職員との橋渡し役を

務める。

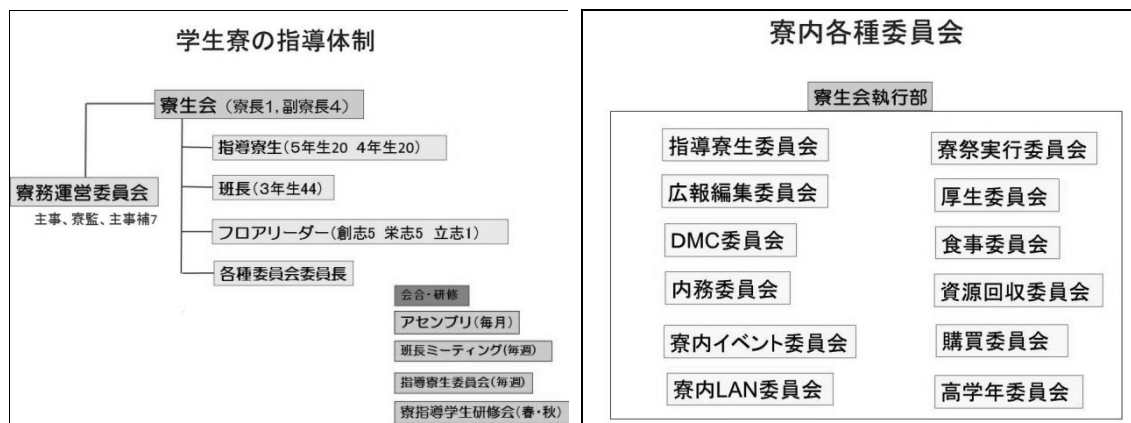


図1 学生寮の指導体制

図2 寮内各種委員会

2-2 教職員組織

寮務担当教員は、寮務主事（寮務担当副校長）と寮監（一般学科教員）と7名の寮務主事補（一般学科教員2名、専門学科教員各1名）、計9名で構成されている「寮務運営委員会」の教員と、「学生課寮務係」（寮務係長、寮務係員1名、学寮指導員3名、寮母1名）で構成されている。学寮指導員のうち、1名は日勤、2名は夜勤、寮母は、平日の17時から20時の勤務である。

3 日課および主な年間行事

3-1 日課（平日）

ここでは、低学年寮生（および、低学年をサポートする指導寮生・班長）の日課を簡単に記述する（詳細は、別添の「学寮のしおり」を参照）。

寮生の1日は、朝7:20に鳴るチャイムと寮内放送で始まる。朝体操の時間である。班長は、当直室で点呼簿を受け取った後、グラウンドに向かう。指導寮生は、棟の外やグラウンドに向かう通路に整列し、グラウンドに向かう低学年に「おはよう」と声がけをする。7:30より低学年、班長、指導寮生で朝体操（通称「朝タイ」）を行う。ストレッチの要素を取り入れた、ゆっくりとした体操である。終了後、全員、朝礼台前に集合し、ミーティングを行う。進行役は、指導寮生がローテーションで担当する。ミーティングの内容は、日々の連絡事項・注意事項に加え、班長による「今週の目標」（ユーモラスなスキット形式の場合が多い）や、寮生のネタ見せなどもあり、毎回、朝のグラウンドに楽しい笑い声が起る（詳細は、別添のDVD「豊田高専の朝体操」を参照）。

朝体操後、グラウンドから食堂に行き、朝食を摂る。高学年は、朝体操の時間帯に朝食を済ませるので、このタイムラグにより、昼食時よりも混雑は少ない。

8:40に出校。昼食は、毎日、長蛇の列ができる。現在のところ、午後の授業に遅刻するほどの状況ではないが、寮生に不都合をかけていることは否めない。

午後の授業と部活動を終えた低学年は、20:00 の点呼までに、夕食と入浴を終えなければならない。特に男子風呂の混雑は大変なものであるので、高学年は、20:00 以降に入浴をするなど、配慮をしてくれている。

点呼後、22:30 までの 2 時間半は、「学習時間帯」（通称「ガクタイ」）と呼ばれている。特にその中の 21:00 から 22:00 までの 1 時間は「完全学習時間帯」（通称「カンガク」）といい、低学年は必ず、宿直教員が巡回しやすいように居室のドアを開け、机に向かい、部屋移動・階移動も禁止し、勉強に集中する時間となっている。

「学習時間帯」の終了後 1 時間は、自由時間があり、23:30 に消灯・就寝となる。

低学年			高学年		
	日 課	時 刻		日 課	時 刻
朝 の 日 課	起 床	7:20	朝 の 日 課	起 床	
	グラウンド集合	7:27		食事・清掃	7:40～
	朝の点呼・朝体操	7:30～7:50		施錠・登校	
	食事・清掃	7:50～8:40			
	施錠・登校	8:40			
	昼食時間帯	12:00～13:00		昼食時間帯	12:00～13:00
夜 の 日 課	夕 食	17:30～19:10	夜 の 日 課	夕 食	17:30～19:10
	入浴時間帯	17:30～19:50		入浴時間帯	17:30～22:00
	夜の点呼	20:00		点 呼	20:00（女子寮生） 22:00（男子寮生）
	学習時間帯	20:00～22:30		天井灯消灯	23:30
	自由時間	22:30～23:30		玄関施錠	23:30
	消 灯	23:30			

図 3 平日の日課

3-2 主な年間行事

月例で行われるものとして「アセンブリ」がある。これは、低学年と高学年の寮生がそれぞれ一堂に会して開催されるミーティングである（詳細は、資料 2 参照）。

主な年間行事は、以下の通りである。

4月：寮生総会 5月：寮祭 6月：流しそうめん 9月：部屋替え
12月：寮生総会、いも祭 1月：もち祭&新年会 2月：バレンタインイベント



寮祭

中でも、寮祭は最大のイベントである。4年生の寮祭実行委員長を中心に、パートリーダーを班長が務め、「ドミトリー大賞（通称「ドミタイ」）」（フロアごとにパフォーマンスを披露し、その出来栄を競う）、模擬店、ステージ・イベント、花火、ファイアー・パートのパフォーマンスの後、フィナーレは、営火の回りを音楽に合わせて歌い、踊る。この時点で、寮生の心は一つとなり、豊田高専寮生としての団結・一体感が生まれる。特に、4月に入寮したばかりの1年生にとって最高の思い出となるのが、寮祭である。「ドミタイ」のための練習を通して、フロアの団結が生まれる。またイベントを企画・運営する班長にとって、寮祭は、リーダーとしての成長の場となっている。



流しそうめん



いも祭

寮祭以外にも、イベント委員会が、寮生活が楽しいものになるように、様々なイベントを企画・運営している。

4 「4つの柱」

本校の学寮を支える「4つの柱」がある。それは、これまで本校の学寮の礎となってきたものであり、今後も継承していくべきものである。それは、次の4つである。

- (1) 朝体操
- (2) 学習時間帯
- (3) 指導寮生・班長制度
- (4) アセンブリ

「朝体操」は、平日の月曜日から金曜日まで、雨天時を除いて、毎日行われている。この体操の教育的効果には、計り知れないものがある。まず、グラウンドに向かう低学年寮生を整列した指導寮生が、挨拶で出迎えることに大きな意味がある。先輩から心を開き、挨拶をする姿から、低学年は挨拶の大切さを学ぶ。本校を訪問される来賓から「豊田高専の学生はよく挨拶をしますね」とお褒めの言葉をいただくことがあるが、それは、一つには朝体操の時に培われたマナーであるのかも知れない。次に、グラウンドでの点呼によって、寮生の体調の把握ができるという点が挙げられる。体調不良で朝体操に出られない寮生は、学寮指導員が直ちに居室を訪問し、看護師と連携を取る。一方、グラウンドに集合した寮生は、ゆっくりとしたストレッチ体操を行い、その後に朝食を摂ることで健康の維持を図る。また体操終了後の、ミーティングでは、自己紹介で必ず1回は朝礼台に立ってスピーチをすることになっている。前述のように、諸連絡・諸注意、あるいは週目標、ネタ見せなど硬軟織り交ぜた内容をいかに多くの人の中で効果的に伝えるかというコミュニケーションのトレーニングの場にもなっている。また、朝体操には、寮務主事と寮監が参加するが、その場で、当直した教員や学寮指導員、あるいは寮生から問題点を聞き出すことができることも、寮内の問題の早期発見・対応につながっている。朝体操後には、指導寮生や班長との短時間のミーティングが行われ、日々の連絡がその場で徹底できる。



朝体操



体操終了後のミーティング

「学習時間帯」と「アセンブリ」については、前述の通りである。

「指導寮生・班長制度」は、本校の寮、とりわけ低学年寮を支える礎である。「豊田高専の寮が好き。寮生の笑顔が好き。皆が喜ぶことをするのが好き。この寮をよりよくするためには協力は惜しまない。」といった思いを共有しているのが、指導寮生（40名）と班長（44

名)である。低学年寮生は、日々の点呼、朝体操、自由時間での団らん、寮祭をはじめとする様々なイベント、フロアでのパーティー等を通して、指導寮生・班長と親しくなり、多くのことを吸収する。指導寮生・班長は、低学年寮生にとって、よき、「兄」、「姉」、「ロール・モデル（行動の規範となる存在）」である。



平成 25 年度 寮指導学生研修会参加者

5 リーダー研修

以上述べてきたように、本校の学寮の運営は、寮指導学生に負うところが大きい。以前、ある本で「大人が1センチ成長すると、子供は1メートル成長する」ということばに出会った。このことばは、そのまま、「寮指導学生が1センチ成長すると、低学年寮生は1メートル成長する」と置き換えてもよい。すなわち、本校学寮の命運は、すべて、リーダーである寮指導学生にかかっていると言える。本校学寮の特徴として、寮指導学生の研鑽に力を注いでいる点が挙げられる。具体的には、次のような研修会や講習会を開催している。

5-1 寮指導学生研修会（春）

「春の研修会」は、入学式の直前の週末に本校学寮で、2泊3日で行われる。参加対象は、寮生会執行部、指導寮生、フロアリーダー、班長、各委員会委員長の総勢約110名である（詳細は、資料3参照）。

研修会の目的は、「新指導寮生・新班長をはじめとする寮指導学生の仕事、寮内ルールおよび防災意識の重要性を研修し、全体の交流を通して、寮指導学生のチームワークの向上

を図る。また、寮生会執行部を筆頭とする各種委員会および高学年寮生の運営方針を検討する」(研修会要項より)である。

新年度の寮運営を開始するにあたり、寮指導学生が一堂に会し、運営方針・予算案の検討、各フロア的环境整備を行う。また研修の2日目は、新入寮生(新1年生)の荷物搬入をサポートする。点呼簿の準備、ネームプレートの作成もすべて寮指導学生で行う。レクリエーションも組まれており、寮リーダー達の交流も行う。また防災・減災の意識を喚起するために、平成23年度には、東日本大震災を体験された寮生保護者を講師に招き、被災の体験談を語っていただいた。また、平成24年度は、学寮指導員(豊田系企業で安全管理の担当をされていた方)を講師に、本校の学寮における安全管理上の問題点について話していただいた。

5-2 寮指導学生研修会(秋)

「秋の研修会」は、前期定期試験の最終日に行われる部屋替えの翌日から3日間、外部施設で行われる。初日・2日目の1泊2日が、班長、2日目・3日目の1泊2日が指導寮生の研修会で、2日目の午前・午後は、班長・指導寮生合同の研修会を行っている(詳細は、資料4参照)。

研修会の目的は、「①教育寮の指導学生としての役割を確認する。②緊急時対応の具体策を協議する。③相手を思いやるコミュニケーション能力を習得する。④意見交換を通じて、指導学生が相互にそれぞれの個性を理解する。⑤寮担当教員と寮指導学生の親睦を深める。」(研修会要項より)である。



寮指導学生研修会(秋)
指導寮生・班長合同研修



寮指導学生研修会(秋)
グループ・ディスカッション

新年度から半年が経過し、後期の部屋替えを終えた時点で、半年の寮運営の総括をしつつ、後期に向けて、新たな気持ちで、指導寮生・班長が寮運営をスタートさせるという意義を持つ研修である。また2日目の合同研修は、外部講師を招き、指導寮生・班長にとって啓蒙・触発の機会となっている。平成23年度は、千葉浩司氏(日本ホテル協会友誼団体

全国 BMC 認定司会者）を講師に、「効果的な話し方」の基本を学び、平成 24 年度は、夏目勝弘氏（前アイスランド大使、西武文理大学特命教授）を講師に、「グローバル化時代の人材育成」と題しての講演を聞き、平成 25 年度は、杉本薫氏（NLP(神経言語プログラム)国際トレーナー）を講師に「コーチングに役立つコミュニケーション」をテーマにワークショップを開催した。なお、平成 26 年度は、柴原智幸氏（同時通訳者、神田外国語大学講師、NHK ラジオ「攻略！英語リスニング」講師）を講師に、本校の寮生のリーダーたちが国際人として成長していくためにどのような研鑽を積んでいくべきか、熱く語っていただく予定である。

5-3 赤十字救急法講習会

平成 25 年 3 月 13 日(水)から 15 日(金)の 3 日間にわたり、本校のインキュベーションセミナー室において赤十字救急法基礎講習会および救急員養成講習会を開催した。講習会には指導寮生および班長を含めた学生 25 名が参加した。本講習は日本赤十字社から講師を招き、一次救命処置や応急手当などについて学ぶものであり、試験合格者は赤十字救急救急員の資格を取得することができる。

今回の講習会は明石高専が主管校として実施している高専改革推進事業「震災・復興経験を活かした安心安全まちづくり教育ネットワークの構築」の一環として行われた。近年多発する自然災害を受け、高専においても有事の際に救急活動を行える人材を養成することが急務となっている。また、学生が共同生活を営んでいる学寮においては、指導寮生や班長を中心とした防災・減災対策が重要となる。このため、今回の講習は寮生保護者部会による支援も得て、実施した。

本年度の 9 月に、この救急法講習会に参加した寮生達を中心となって、一人の寮生の命を救った出来事があった（詳細は、資料 5 を参照）。改めて、このような講習会を開催する必要性を痛感した。そこで、昨年度同様、今年度も、指導寮生・班長 29 名が、講習を受講する予定である（平成 26 年 3 月 13・14・17 日）。



赤十字救急法基礎講習会および救急員養成講習会 2013.3.13-15

6 寮生の連携・交流

人間教育の「人間」を、「人」の「間」と書くことが示す通り、人は人の間に立ち、人の輪の中にいることで人間らしい生活を送ることができる。本校学寮には、様々な形の「人と人とのつながり・ネットワーク・連携・交流」がある。そして、それらが、本校学寮の「人間教育の土壌」となっている。

6-1 寮生間の連携・交流

まず、寮生同士の連携・交流として、次のような場がある：「日々の点呼」、「各棟ミーティング」、「班長ミーティング」、「役員会」、「マテカ(MATECA)」、「留学サポート」。

「日々の点呼」は、フロア同士の日常的な交流の場である。廊下での点呼の後、リーダーたちは楽しい話をして、雰囲気盛り上げる。フロアごとに明るい笑いが起こることもしばしばある。「各棟ミーティング」は、毎週水曜日に棟ごとに指導寮生・班長、あるいはフロアリーダーが集まり、当座の問題点について話し合う。その結果は、指導寮生委員会や役員会、あるいは、寮務運営委員会との連絡会で報告される。場合によっては、翌日の朝体操で報告される。「班長ミーティング」は、毎週水曜日の点呼後に行われている。このミーティングのリーダーは、正副「班長長」（指導寮生から選出された4年生の寮生）である。班長は、将来の指導寮生候補であり、このミーティングを通して、リーダーとしての資質を磨いていく。「役員会」は、毎週日曜日の夜、開催され、参加対象は、寮生会執行部、各種委員会委員長である。低学年寮と高学年寮の連携、委員会活動の企画等が検討される場である。「マテカ(MATECA)」は、高学年の有志が、定期的に集会室で低学年の学習のサポートをするグループである。最近では、本校の物理の教員と連携し、物理の補習受講者のサポートも行っている。本校は、AFSやYFUの留学制度で、毎年40名ほど海外留学をするが、その多くが寮生である。留学後、復寮する先輩から話を聞いて、触発を受け、留学を志す低学年も多い。「留学サポート」は、現在準備段階であるが、帰国した留学経験者が、今後留学を目指す低学年と語学（主に英語、ドイツ語）を研鑽し合うグループである。「マテカ」も「留学サポート」も寮生からの発案で、自主的に運用されている。

6-2 寮生と教職員間の連携・交流

寮生と教職員の連携・交流の場として、次のようなものがある：「朝体操」、「指導寮生委員会」、「寮生会と寮務運営委員会との連絡会」、「高学年フロアリーダーとの意見交換」、「寮務係・看護師・学寮指導員・寮母との連携」。

「朝体操」は、前述の通り、寮生間のみならず、寮生・教職員間の連携・交流の場になっている。「指導寮生委員会」（毎週木曜日 20:15～21:00）には、寮務主事と寮監も出席し、寮内の諸問題や今後の運営について意見交換を行っている。この話し合いの内容は、翌週月曜日に開催される寮務運営委員会の議事に取り上げることも多い。ある意味で「指導寮生委員会」と「寮務運営委員会」の連携が、本校の寮運営の生命線であると言える。寮務

運営委員会（毎週月曜日 17:00～）に先立って、「寮生会と寮務運営委員会との連絡会」（毎週月曜日 16:30）を行っている。この連絡会では、寮生会から、役員会（前述）の報告が行われ、寮務運営委員会からは、寮生会や各委員会に要望することを伝える。この「寮生会」と「寮務運営委員会」との連携が、本校の寮運営のもう一つの生命線である。毎月のアセンブリの終了後に、高学年寮担当のフロアリーダーと寮務教職員とで意見交換を行っている。フロアリーダーは、その月の目標を発表し、先月の目標の総括を行う。また、高学年寮での問題点を報告する。もちろん、最も頻繁に寮生への対応を日夜（文字通り「日夜」）しているのは、学生課寮務係と看護師である。そして、学寮指導員3名と寮母である。こうした職員の手厚いサポートがあって、寮生は安心して寮生活を送ることができる。

6-3 他高専・他校種の学寮との交流

他高専の学寮との交流も積極的に行ってきた。本校の寮生がこれまで訪問・交流した学校は以下の通りである：仙台高専、沼津高専、石川高専、長野高専、鈴鹿高専、和歌山高専、舞鶴高専、津山高専、阿南高専。また、本校を訪問し、交流した学校は以下の通りである：石川高専、福井高専、沼津高専、鈴鹿高専、和歌山高専、津山高専、阿南高専、久留米高専、沖縄高専。同じ「高専生」であること、同じ「寮生」であること—これだけで、交流会で出会った学生たちは、すぐに旧知の友のように親しく会話を始める。お互いの学寮を紹介し合い、見学する中で、自分の寮の良さを再認識する場合もあれば、改善点を発見する場合もある。

平成23年度には、海陽学園中等教育学校（全寮制）の「ハウスマスター」（「舎監」）と「フロアマスター」（大手企業から派遣された社員。寮生の生活をサポート）が本校学寮を訪問し、指導寮生・班長とジョイント・カンファランスを行った。「社員」と「学生」という立場の違いはあっても、「低学年学生の生活サポートをする」という「役割」や「使命感」には共通するところも多く、意見交換が熱心に行われた。



第6回全国高等専門学校寮生会連合会(全寮連)会議
(本校 主幹) 2013.9.8-9



鈴鹿高専・久留米高専との3校合同交流会
2013.6.14

6-4 近隣との交流・地域貢献

これまで何度も、地域住民の方から、「夜、寮生の騒ぎ声がうるさい」「寮のチャイムの音がうるさい」「寮祭でのマイクの声や花火の音がうるさい」といった苦情が寄せられてきた。地域住民の方々に迷惑がかからないように、平成 23 年度の後期より、寮のチャイムの使用時間帯や自由時間帯の行動に制限を加え、近隣住民への配慮をした。

その後、寮生会と指導寮生委員会は、上記の「近隣住民への配慮」から、一步踏み込んで、「近隣住民との交流」について真剣に考え始めた。まず、指導寮生有志で本校周辺のゴミ拾いを始めた。年に 2 回行われる町内環境美化にも参加していくことを決めた。また、平成 25 年 4 月 6 日には、西山自治区の区長さんから招待を受け、「西山自治区 桜を見る会」に指導寮生・班長 23 名と教員 3 名で参加した。料理を囲んで、地元の方や区長さんとも意見交換ができ、大変有意義なひとときとなった。寮祭実行委員も、寮祭のチラシを配りながら、寮祭への参加をお願いした。「桜を見る会」には、西山区民館の南側にある「ひまわり邸（認知症のお年寄りのための施設）」の住民と職員の方々も参加されており、寮生は、食事をしながら、お年寄りと歓談した。また、「桜を見る会」の始まる前に、代表の寮生がひまわり邸を訪問し、施設見学をした。このことを契機として、指導寮生委員会を中心にひまわり邸の住民の方へのボランティアを行うことになった。今後も、「地域清掃」と「ひまわり邸のボランティア」を柱に地域との交流・貢献を続けていく。



地元西山区の住民との交流（「桜を見る会」西山区民会館にて 2013.4.7.）

7 おわりに

以上、「本校学寮における人間教育」について述べてきた。資料 6 は、指導寮生委員会で「教育機関としての寮の良さ」について話し合った結果を副指導寮生委員長がまとめたものである。それを見ると、上述した内容とかなり重なり合っていることが分かる。

最後に、付記したいことがある。本報告は、「学生の人間教育」に焦点をあてたが、実は、寮指導学生の日ごろの振る舞いや言動から、我々教職員も学ぶべきことも多いので、本校学寮の「人間教育」は、「学生（寮生）」・「教職員」双方の「人間教育」であることを強調しておきたい。

資料1 全国の高専の寮生数（「施設白書 2013」（H.25.3 高専機構発行）より抜粋）

学生寄宿舍の人数と入寮率

（※在学生に留学生は含まない）

平成25年5月1日現在

学校名	保有面積 (㎡)	入寮定員(人)					入寮者数(人)					入寮率
		男子		女子		合計	男子		女子		合計	
		在学生	留学生	在学生	留学生		在学生	留学生	在学生	留学生		
函館	4,668	179	8	40	1	228	140	6	37	0	183	80%
苫小牧	7,621	347	15	57	3	422	319	7	52	1	379	90%
釧路	6,723	303	16	48	0	367	300	3	54	1	358	98%
旭川	5,962	259	9	34	1	303	241	6	17	0	264	87%
八戸	10,157	427	19	58	7	511	411	3	58	5	477	93%
一関	6,238	279	3	51	0	333	282	3	45	0	330	99%
仙台(広瀬)	5,815	134	20	40	10	204	107	0	23	1	131	64%
仙台(名取)	4,753	158	8	54	1	221	140	0	34	1	175	79%
秋田	5,470	200	18	40	5	263	128	2	18	6	154	59%
鶴岡	8,832	416	16	33	3	468	392	10	36	1	439	94%
福島	5,146	147	14	55	18	234	142	0	60	1	203	87%
茨城	4,433	161	9	45	10	225	127	7	30	4	168	75%
小山	6,030	266	15	36	9	326	112	7	18	6	143	44%
群馬	3,894	140	7	40	5	192	101	7	40	5	153	80%
木更津	7,332	332	10	54	6	402	274	8	48	5	335	83%
東京	4,523	164	10	25	5	204	154	5	20	3	182	89%
長岡	7,205	309	0	61	0	370	267	7	30	9	313	85%
富山(本郷)	4,493	161	6	44	8	219	109	3	27	4	143	65%
富山(射水)	7,035	202	12	72	6	292	108	4	68	1	181	62%
石川	5,977	220	12	72	4	308	211	6	58	2	277	90%
福井	5,387	183	10	46	6	245	179	6	46	0	231	94%
長野	8,777	402	8	65	5	480	388	12	51	0	451	94%
岐阜	5,996	249	12	48	2	311	219	5	30	1	255	82%
沼津	10,281	485	11	74	2	572	474	8	73	2	557	97%
豊田	11,511	505	3	103	2	613	504	3	100	2	609	99%
鳥羽	4,925	140	6	28	3	177	147	1	19	2	169	95%
鈴鹿	10,633	326	15	79	10	430	268	7	63	10	348	81%
舞鶴	11,828	513	12	60	4	589	484	7	51	0	542	92%
明石	4,211	169	4	27	5	205	125	2	27	4	158	77%
奈良	3,341	100	12	21	9	142	82	9	8	2	101	71%
和歌山	9,487	424	14	78	4	520	431	12	76	4	523	101%
米子	6,194	236	15	54	10	315	177	10	78	2	267	85%
松江	8,233	368	12	50	8	438	329	9	54	0	392	89%
津山	6,717	314	16	36	4	370	305	14	27	4	350	95%
広島	9,879	411	4	60	6	481	380	4	52	0	436	91%
呉	6,799	287	13	50	4	354	232	3	35	1	271	77%
徳山	2,968	111	9	18	6	144	83	3	15	2	103	72%
宇部	8,460	363	8	56	7	434	227	5	52	5	289	67%
大島	8,060	223	3	127	0	353	204	3	34	0	241	68%
阿南	8,893	351	24	61	15	451	344	7	63	0	414	92%
香川(高松)	3,556	145	6	27	1	179	134	4	21	1	160	89%
香川(詫間)	7,720	292	6	82	6	386	188	2	27	3	220	57%
新居浜	9,386	432	0	60	0	492	274	0	54	0	328	67%
弓削	8,147	320	1	55	2	378	314	0	48	0	362	96%
高知	9,983	412	10	88	2	512	350	3	82	0	435	85%
久留米	4,331	198	12	28	2	240	144	5	26	2	177	74%
有明	5,495	243	6	49	1	299	235	3	49	1	288	96%
北九州	4,387	125	12	24	4	165	91	3	14	2	110	67%
佐世保	8,425	390	0	80	0	470	342	2	67	2	413	88%
熊本(八代)	8,537	302	11	81	1	395	254	1	81	1	337	85%
熊本(熊本)	4,174	126	14	58	2	200	116	1	32	2	151	76%
大分	6,195	236	4	79	1	320	159	4	29	1	193	60%
都城	7,229	298	3	82	4	387	249	2	57	1	309	80%
鹿児島	11,848	565	12	47	2	626	526	3	44	1	574	92%
沖縄	10,198	410	3	141	1	555	408	3	141	1	553	100%
合 計	384,498	15,458	538	3,081	243	19,320	13,431	260	2,499	115	16,305	84%

入寮率： ■50%未満 ■60%未満 ■70%未満

アセンブリ

学寮だより

寮務主事 一般学科教授 鈴木 基伸

本校学寮には、毎月1回、全寮生が集うミーティングがあり、この集いを「アセンブリ」と呼んでいます。今年度の7月のアセンブリの企画会議の時に、出席していた指導寮生から、「アセンブリの意義を話してほしい」という要望がありましたので、この集いの目的について改めて考えてみることにしました。以下は、7月のアセンブリで話した内容です。

「アセンブリ(assembly)」の定義を、英英辞典で調べますと、次のように書かれていました—A meeting of the teachers and students in a school, usually at the start of the day, to give information, discuss school events or say prayers together. (学校における教師と学生との集会。通常一日の初めに行われ、情報の伝達や学校行事の協議、あるいは祈禱が行われる)。

「アセンブリ」という名称が、いつ、誰によって付けられたのかわかりませんが、この定義を読んだとき、このネーミングはなかなかいいと思いました。その理由は、アセンブリの目的の中に、「情報の伝達」「学校行事の協議」に加えて、「prayers(祈禱)」があったからです。prayersの意味を、「皆で気持ちをひとつにすること」と、とらえてみると、「アセンブリ」の意義が浮かび上がってくるように思います。

アセンブリに集まってくる寮生諸君の姿を眺めていると、寮祭のドミタイの開会式の時の姿がよみがえってくることがあります。その姿には、「この寮が大好きで、寮の友達的笑顔を見るのが大好きで、だから、この寮のために自分も頑張ろう!」という「思い」が満ち満ちています。この「思い」を新たにすることが、毎

月のアセンブリであってほしいと思います。なぜなら、この「思い」が本校の学寮を支えているからです。また、毎月のアセンブリは、寮生としてどうあるべきかを確認し合い、(ゆるみがちな)自分の生活態度の軌道修正をする場と

いう側面もあると思います。したがって、アセンブリは、「毎月の初めに、全寮生が集い、本校の学寮がよりよい寮になるように、気持ちをひとつにする集まり。寮生としての原点に立ち返る集まり」ととらえたいと思います。

さて、本年度4月より、既設の6棟に、創志寮を加えた7棟、寮生数609名という全国の高専でも最大規模の学寮が「船出」しました。日々、試行錯誤の連続ですが、寮生諸君の協力と教職員の皆様のご支援のおかげで、これまで大きな問題や混乱もなく寮が運営されています。これも本校学寮を支えてきた「伝統の力」があったからこそ、と先人の努力に感謝の思いが込み上げてきました。先代、先々代の寮務主事からは「3つの柱を守ってほしい」と言われてきました。それは、「学習時間帯」「指導寮生・班長制度」「朝体操」です。私は、これらの柱に4つめの柱を加えたいと思います。それが「アセンブリ」です。この4つの柱を本校学寮の「よき伝統」と位置付けて、皆様のご協力のもとに寮運営をしてまいりたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

なお、今年度より、宿直業務補佐として、2名の学寮指導員さんをお迎えしました。以下は、お二人のプロフィールです。



み た し ろ う
三田 敏郎

静岡県伊豆出身で、沼津高専機械工学科6期生。トヨタ自動車に定年まで勤務。内3年間は、豪州事務所(メルボルン)で車両総合評価に従事。学寮指導員の応募動機は若き高専生が将来、人柄の良い、優秀な技術者になれるよう少しでもお役にたてば、との思いから。



い ま い ゆ み お
今泉 保男

昭和43年、豊田高専機械工学科に入学。全寮制が開始された年に寮生活を体験。5年間陸上競技部に所属。グラウンドで初代校長の須賀太郎先生、体育の小栗達也先生に指導して頂いたことが人生の宝物。「二度目の入寮」の思いで、大好きな豊田高専の皆さんにエールを送り続けていきたい。

資料3 2013年度 寮指導学生研修会（春）スケジュール

3月30日（土）（指導寮生・班長・高学年・2年生寮生 荷物搬入日）

9:00～18:00	参加者各自の荷物搬入
18:00～19:00	夕食と休憩
19:00～20:30	研修会 開会式 場所：（多） 司会：副寮長
19:00～	寮務主事・担当教員の話 （※ 階ノート，個人ノート配布）
20:00～20:10	休憩
20:10～	寮長の話
20:15～	指導寮生委員長の話
20:20～	高学年代表の話
20:30～21:00	荷物搬入の説明 場所：（多） 司会：副寮長 担当：寮長
	*ネームプレート作成，懐中電灯に名簿を添付する等の作業
21:00～	点呼 入浴 寮内清掃 （補食室や掃除道具等の備品チェック）

3月31日（日）（新入寮生 荷物搬入日）

8:30～	食堂集合
9:00～10:00	新入生用駐輪場の整理
9:00～14:00	荷物搬入（学寮食堂に集合後，各自配置）（途中昼食：昼食会場は、食堂 12:00 - 13:00）
10:00～12:00	M科，A科，女子の荷物搬入
12:00～14:00	E科，I科，C科の荷物搬入
14:00～14:30	休憩
14:30～15:00	入学式打ち合わせ 場所：（多） 司会：副寮長 担当：指導寮生委員長
15:00～15:30	任命式 場所：（多） 任命：校長 司会：寮監
15:30～17:30	全体研修 今後の寮運営について 場所：（多） 担当：寮務主事、岩田学寮指導員
17:30～18:00	休憩
18:00～19:00	夕食と休憩
19:00～20:30	合同レクリエーション（一体） ドッジボール
21:00	点呼 入浴

4月1日(月)

9:00～10:00	研修1 場所:(多) 司会:副寮長 *内容:寮生会を中心に高学年幹部寮生,指導寮生,班長と寮運営について協議
10:00～12:00	研修2 参加者はノートと筆記用具持参! *内容:指導寮生(多)各階の目標を発表 班長(イ)自己紹介およびルール・仕事内容の確認 高学年(講411)ルール決定 委員長(講412)昨年度の反省、新年度の仕事内容の確認
12:00～14:00	昼食 全体写真撮影 (花見弁当)
14:00～16:00	研修3 *内容:指導寮生(多)ディベート 班長(イ)ディベート 高学年(講411)ルール決定 委員長(講412)各委員会の目標および予算案の話し合い
16:00～17:30	研修の報告とまとめ 研修会 閉会式 場所:(多) 司会:副寮長
17:30～	夕食と休憩
20:00～21:00	第一回各棟ミーティング *内容:ルール確認など
21:00～	点呼 入浴

4月2日(火) (入学式, 新入寮生 荷物搬入日)

8:30～	食堂集合
9:00～10:30	荷物搬入
11:00～11:40	入学式
11:40～14:00	保護者・新入生昼食(食堂への誘導,配膳・下膳)
14:00～17:30	自由時間
17:30	点呼
17:30～18:30	夕食(点呼後速やかに夕食を済ませること)
18:40～19:30	学寮オリエンテーション(指導寮生・班長の挨拶を含む) 司会:副寮長
19:30～22:00	入浴・自由時間
22:00	点呼
22:00～23:30	自由時間
23:30	消灯

資料 4 2013 年度 寮指導学生研修会（秋）スケジュール

班長

9 月 28 日（土）

8：45 集合（図書館前）

9:00～ 高専発

～10:30 美浜少年自然の家着

10:30～11:00 入所式，ガイダンス

11:00～11:30 荷物移動

11:30～13:15 ウォークラリー（昼食）雨天：創作活動

13:30～14:00 主事，寮監，寮生会の話

14:00～16:15 自己紹介

グループ・ディスカッション「理想の班長」「現状はどうか」「これからどうすればいいか」

16:30～17:30 レクリエーション（フットサル 雨天：室内ゲーム）

17:40～18:20 夕食

18:40～19:20 入浴

19:30～21:00 発表「後期の目標」

21:00～22:00 就寝準備

22:00 消灯・就寝

9 月 29 日（日）

7:00～7:15 朝のつどい

7:15～7:45 清掃

8:00～8:40 朝食

9:00～10:45 グループ・ディスカッション「それぞれの寮を四字熟語で表すと？」

研修の反省・まとめ

11:00～13:15 野外炊飯

13:30～15:45 合同研修

講演「コーチングに役立つコミュニケーション」

講師：杉本 薫 氏（米国 NLP 協会認定トレーナー）

16:00～16:30 退所式

16:30～ 美浜少年自然の家発

～18:00 高専着

指導寮生

9月29日(日)

8:45 集合 (図書館前)

9:00～ 高専発

～10:30 美浜少年自然の家着

10:30～11:00 入所式, ガイダンス, 荷物移動

11:00～13:15 野外炊飯

13:30～15:45 合同研修

講演「コーチングに役立つコミュニケーション」

講師: 杉本 薫 氏 (米国 NLP 協会認定トレーナー)

16:00～17:00 レクリエーション (ドッジボール)

17:00～17:40 夕食

18:00～18:40 入浴

19:00～19:30 主事, 寮監, 寮生会の話

19:30～21:00 グループ・ディスカッション「班長・指導寮生試験について」

21:00～22:00 就寝準備

22:00 消灯・就寝

9月30日(月)

7:00～7:15 朝のつどい

7:15～7:45 清掃

8:00～8:40 朝食

9:00～10:45 グループ・ディスカッション「寮生が多いのはなぜか？」

11:00～13:00 ウォークラリー (昼食) 雨天: 寮内修繕ポイントまとめ

13:15～15:45 グループ・ディスカッション「ルールについて」

16:00～16:30 退所式

16:30～ 美浜少年自然の家発

～18:00 高専着

資料 5 本校全寮生に豊田市消防本部より感謝状（豊田高専広報 第 113 号 2014.3.発行に掲載予定）

本校全寮生に豊田市消防本部より感謝状

寮務主事 鈴木基伸

2013 年 9 月 3 日（火）—この日は、本校の寮生の皆さんの素晴らしさを改めて知った日となりました。

この日の朝。寮食堂で列を作って順番待ちをしていた寮生が突然倒れました。1 年生の男子寮生は、すぐさま AED を取りに福利厚生会館に走りました。2 年生の女子寮生は、グラウンドでミーティングをしている指導寮生の方に走って連絡にいきました。AED の講習を受けたことのある指導寮生 3 名が、AED の操作・人工呼吸・心臓マッサージを行いました。指導寮生委員長は、寮食堂の入場場所を入口から出口に変更するよう寮生に指示し、救急救命がしやすいようにした後、指導寮生を学校の何方所かに配置させ、救急車の誘導をするように指示しました。

こうした寮生の連携が功を奏して、一人の命が救われました。搬送先の病院の医師もその対応の的確さに感嘆しておられました。AED に記録されたデータをもとに、適切な処置をすることができました。倒れた寮生も現在は元気に学生生活を送っています。

この救急救命に対して、11 月 13 日(水)に豊田市消防本部より感謝状が贈られました。感謝状は「豊田高専寮生一同」に贈られ、寮生を代表して、当時の指導寮生委員長の中安巧君(5C)と副指導寮生委員長の安藤万頌君(5A)が授与しました。

表彰式の模様は、翌 11 月 14 日(木)の朝日・中日各新聞で掲載され、さらに、地元ケーブルテレビ局のひまわりネットワークでも 11 月 15 日(金)の「豊田ナウ」で放映されました(<http://www.city.toyota.aichi.jp/toyotanow/>)。なお、この感謝状と記念品は 11 月 20 日(水)の学生総会で校長より、全学生に披露されました。

AED を取りに行った 1 年生は、地元で、心肺蘇生を行った指導寮生は、本校で、心肺蘇生法の講習を受けていました。講習を受けていても実際に行うには勇気が要ったと思います。緊急時のとっさの判断と勇気を持ち合わせた本校の寮生を本当に誇りに思います。



学生総会での表彰披露
2013.11.20

救命・詐欺被害防止に感謝状

豊田高専 寮生が連携、心肺蘇生

校内で倒れた寮生の男子学生(16)を迅速な救命処置で救ったとして、豊田工業高等専門学校(豊田市栄生町)の寮生一同に13日、豊田市消防本部から感謝状が贈られた。

授与式には、600人が生活する寮を代表し、1、2年生を指導する寮生委員長だった中安巧さん(20)と副委員長だった安藤万領さん(20)も5年生が出席した。

男子学生は9月3日、朝食のため並んでいた食堂入り口で倒れた。最後尾にいた安藤さんら4、5年生3人が駆けつけ、心肺蘇生法を実施した。別の学生は別棟にAED(自動体外式除細動器)を取りに走った。中安さんは119番通報し、学生たちに救急車の誘導をするよう指示。数十人が誘導し、倒れた学生は、いまは元気に寮生活を送っているという。

同校の学生は毎年、救命の講習を受けている。安藤さんは「周りのみんなが『落ち着いて』と声をかけてくれたので心肺蘇生が出来た」と話す。

碧南西端郵便局 80代の100万円守る



感謝状を受け取った学生代表の中安巧さん(左)と安藤万領さん＝豊田市消防本部

朝日新聞 朝刊 33 面 愛知(三河)版

豊田高専全寮生に感謝状

市消防 突然倒れた仲間の命救う

鈴木消防長から感謝状を受け取る中安さん＝豊田市長興寺の市消防本部で

部は十三日、同市栄生町の豊田工業高等専門学校に感謝状を贈った。

同校によると、寮生活をしている男子学生が九月三日午前八時ごろ、朝食を食べようと食堂の入り口前で並んでいたところ、突然倒れた。居合わせた学生数人は心臓マッサージや人工呼吸を試み、自動体外式除細動器(AED)を施した。ほか、携っていたたたえの学生も同校に到着した。

(諏訪慧)



感謝状は寮生一同あて。当時、指導寮生委員長だった中安巧さんが代表し、同市長が九月三日午前八時ごろ、興寺の市消防本部で鈴木消防長から受け取った。同校では、寮生や体育系クラブに所属する一部学生らが救命講習を受けている。鈴木消防長は「見事な連携で、寮生が命を救った。感謝している」と話した。

中日新聞 朝刊 20 面 豊田版 (2013.11.14)

資料6 指導寮生委員会提出の資料

平成 25 年度 1 月 14 日 指導寮生委員会

「教育機関として寮の良さ」

学習面、人間面の二つの側面から話合った

学習面

- ・ MATECA による学習会
- ・ 学習室の配備
- ・ 階にいる高学年の先輩
- ・ 学習時間が確立されている
- ・ 学校との距離が近い(先生の所に行きやすい、時間が増える)

人間性面

- ・ 集団生活による協調性の学習
- ・ あいさつなどのモラルを身に着ける
- ・ 班長、指導寮生制度による人間教育
- ・ 自主性、自立力を身に着ける
- ・ リーダーシップ、マネジメント力
- ・ 寮祭により団結力の向上
- ・ 朝体操の自己紹介による話す力の向上

第 2 部

外部検証・評価

平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属 等
あだち まさのり 足 立 匡 徳	豊田工業高等専門学校 同窓会長
かさい やすひろ 笠 井 保 弘	豊田市教育委員会 教育長
さかい かつひろ 酒 井 勝 広	豊田工業高等専門学校 教育後援会長
すずき つかさ 鈴 木 司	小島プレス工業株式会社 専務取締役
わかはら あきひろ 若 原 昭 浩	豊橋技術科学大学 学長補佐・高専連携室長

豊田工業高等専門学校外部評価委員会規程

制 定 平成16年4月1日

全部改正 平成19年4月1日

最終改正 平成20年4月1日

(趣旨)

第1条 豊田工業高等専門学校自己点検及び評価等実施委員会規程第8条第2項の規定による豊田工業高等専門学校外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の運営に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(目的)

第2条 外部評価委員会は、校長の諮問に応じ、豊田工業高等専門学校自己点検及び評価等実施委員会（以下「実施委員会」という。）が自己点検・評価した豊田工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営、教育・研究に関する事項を検証し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 外部評価委員会の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱した委員をもって組織する。

- 一 大学、高等専門学校等教育機関の教員又は経験者
- 二 本校の所在する地域の教育関係者
- 三 地方自治体の関係者
- 四 地域産業界等の関係者
- 五 本校の同窓会長
- 六 本校の教育後援会長
- 七 その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 外部評価委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、外部評価委員会の会務を総理する。

(運営)

第6条 外部評価委員会は、校長が招集する。

- 2 外部評価委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 外部評価委員会に関する事務は、総務課企画・地域連携係において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後、最初に委嘱される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会日程及び次第

1. 日 時 平成26年3月14日（金）13時30分～16時

2. 場 所 豊田工業高等専門学校記念会館会議室

3. 開 会

- 1) 開会挨拶
- 2) 委員及び教職員紹介
- 3) 配付資料の説明
- 4) 議 事
 - ①委員長の選出
 - ②本校の教育研究活動等の状況説明
 - ③評価課題の説明
 - ・「産学連携事業と地域貢献」
 - ・「低学年への学生指導」
 - ・「学寮教育について」

休憩

④検証（質疑応答及び意見交換）

4. 閉 会

- 1) 校長謝辞
- 2) 閉会の言葉

【資料】

別紙「平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会配付資料一覧」のとおり

平成 2 5 年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会配付資料一覧

- ・平成 2 5 年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会座席表
- ① 平成 2 5 年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿 【資料 1 - 1】
豊田工業高等専門学校列席者名簿【資料 1 - 2】
- ② 豊田工業高等専門学校概要説明【資料 2】
- ③ 平成 2 5 年度豊田工業高等専門学校評価課題資料（パワーポイント資料含む。）
 - 産学連携による人材育成事業と教育活動を通じた地域貢献【資料 3 - 1】
 - 低学年における学年団再編 3 ヶ年の歩み【資料 3 - 2】
 - 本校学寮における人間教育【資料 3 - 3】
- ④ 平成 2 5 年度学校要覧
- ⑤ 平成 2 5 年度学生便覧
- ⑥ 豊田工業高等専門学校の自己点検・評価並びに外部検証・外部評価報告書(No.11)
- ⑦ 専攻科パンフレット
- ⑧ 豊田高専広報 113 号
- ⑨ 「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」パンフレット
- ⑩ とよたイノベーションセンターパンフレット
- ⑪ 学寮のしおり
- ⑫ 豊田高専の朝体操（DVD）

※校長，副校長及び事務部長以外の職員には④～⑧は，配付を省略しています。

平成25年度外部評価委員会議事録

日 時：平成26年3月14日（金）13時30分～16時20分

場 所：豊田工業高等専門学校記念会館会議室

出席者：【外部評価委員】

足立 匡徳 豊田工業高等専門学校 同窓会長
笠井 保弘 豊田市教育委員会 教育長
酒井 勝広 豊田工業高等専門学校 教育後援会長
鈴木 司 小島プレス工業株式会社 専務取締役
若原 昭浩 豊橋技術科学大学 学長補佐・高専連携室長

【本校出席者】

高井校長，塚本教務主事（副校長），齋藤総務主事（副校長），
鈴木寮務主事（副校長），安藤情報工学科長，忠環境都市工学科長，
鈴木建築学科長，稲垣テクノコンプレックス長，
仲野メディアコンプレックス長，松浦図書館長，近藤技術部長，
金井教育改善推進室長，山本事務部長，柴川総務課長，梅村学生課長，
河合技術長，山盛総務課課長補佐，水野総務課課長補佐，
三宅学生課課長補佐，小山学生課課長補佐，小林企画・地域連携係長

開 会： 議事に先立ち，高井校長から挨拶があり，次いで，豊田工業高等専門学校外部
評価委員の紹介及び本校出席者等の紹介等があった。

次いで，柴川総務課長から，配付資料及び本日のスケジュール等について説明
があった。

議 事

○委員長の選出

高井校長から，「委員長の選出については，豊田工業高等専門学校外部評価委員規
程第5条に基づき，委員のうちから互選することになっているが，特段ご意見がなけ
れば，若原委員にお願いしたい。」との発言があり，審議の結果，これを了承した。

【若原委員長】 それでは，ただいまご指名いただきました豊橋技術科学大学の若原でござ
います。僭越ながら本日の外部評価委員会の司会進行を務めさせていただきます。よろ
しくお願いいたします。

まず，議事進行ですが，高井校長先生から豊田高専の教育研究活動状況をご説明いた
します。その後，質疑応答を行いまして，次に評価課題を担当された3名の先生方からご
説明いただきたいと思います。

その後休憩といたしますが，休憩中には，用意いたしましたその他の資料をご覧いただ

きたいと思います。休憩後は、3件の評価課題についてまとめて質問や全体評価について伺うことにさせていただきたいと思います。また、時間が許せば、評価課題以外についてのご意見、ご助言等についても伺っていききたいと思います。

それでは、早速ですが議事に入らせていただきたいと思います。

それでは、高井吉明校長先生、豊田工業高等専門学校の教育研究活動等状況についてご説明をお願いいたします。

【高井校長】 それでは、本校の概要につきまして説明させていただきます。

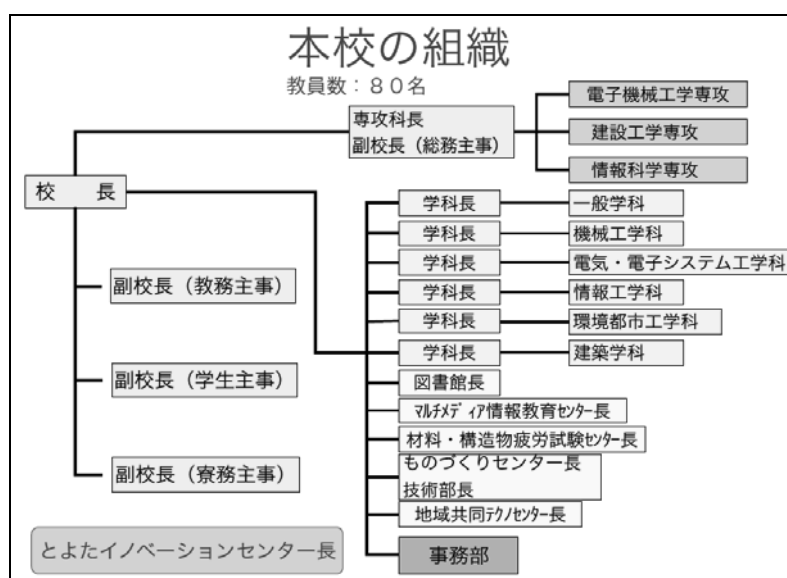
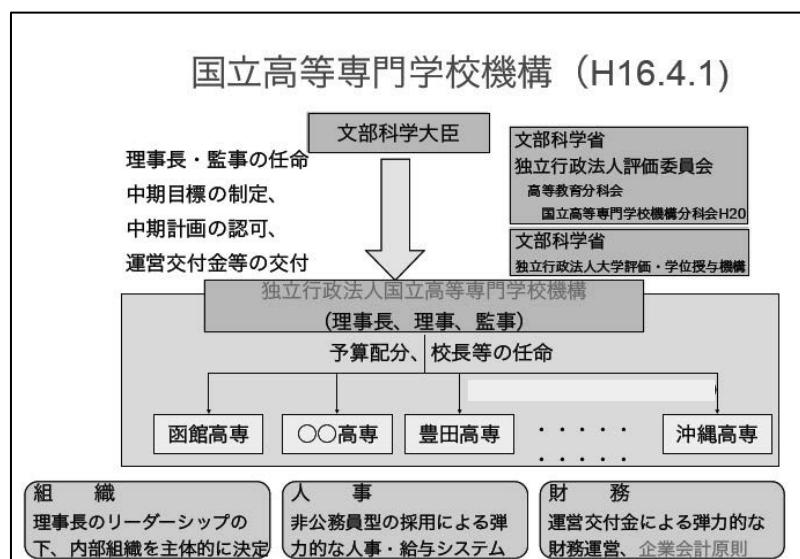
最初に、本校の沿革を1枚にまとめてございます。本校ができて50年と少したったところでございますが、最初は機械、電気、建築の3学科で、その後、土木ができます。しばらくして情報工学科ができて、これで一応5学科の編成になっております。その後は学科名の改称の他、専攻科が平成6年にできておりますが、この3つの各専攻科ができて、一応学科と専攻科の体制ができ上がりました。

その他いろいろなセンターが設置され、あるいは名前が変わっていますが、平成14年に地域共同テクノセンターが設置されております。また、平成24年6月には、とよたイノベーションセンターが本校の中に置かれております。これはまた後ほど詳しい説明があると思います。



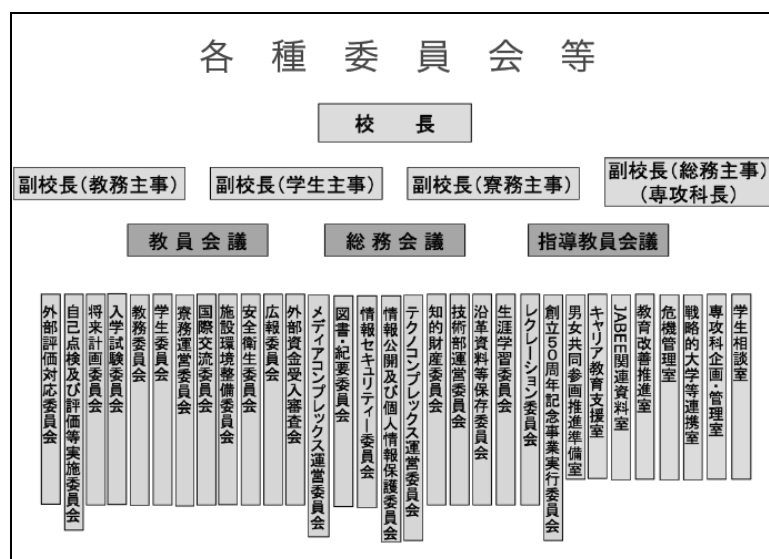
平成16年になりますと、いわゆる行政法人に一本化されまして、高等専門学校機構ということで、現在は51の国立高専が一つの機構の中にまとまっております。

ここでは組織、あるいは人事、財務も機構の中で統一して運営がなされているというところで、まだなかなかスケールメリットを生かすというところまでは行っておりませんが、その方向を目指して機構が全体の高専を運営しているという形です。

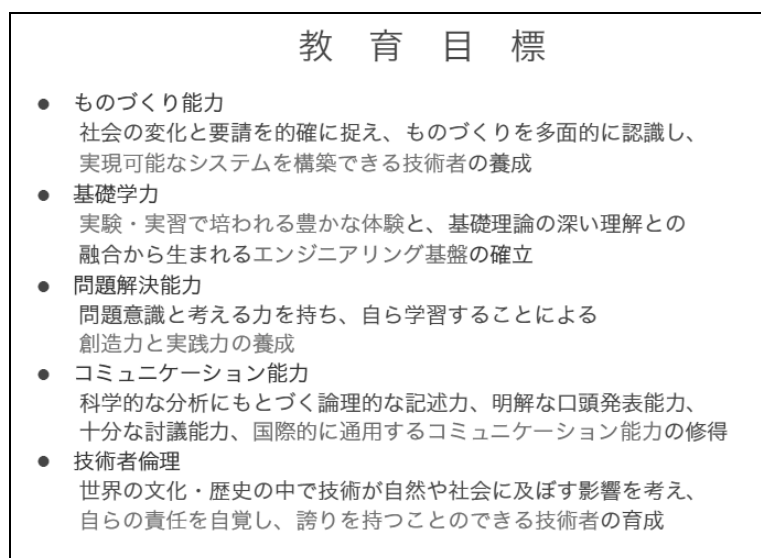


本校には、いくつかの委員会がございます。それから、4月には「準備」が取れますけれども、男女共同参画推進準備室のようないくつかの室というもの、それから、先ほどの自己点検及び評価等実施委員会、また、外部評価等を受けまして、それに対応する外部評価対応委員会もございます。

その他には、教員の一番大きな会議としては教員会議がありますし、また、学科長、専攻科長、センター長等が集まる総務会議があります。それから、中学校・高校では担任と言われますが、豊田高専では指導教員と呼んでおり、その指導教員が集まる会議がございます。

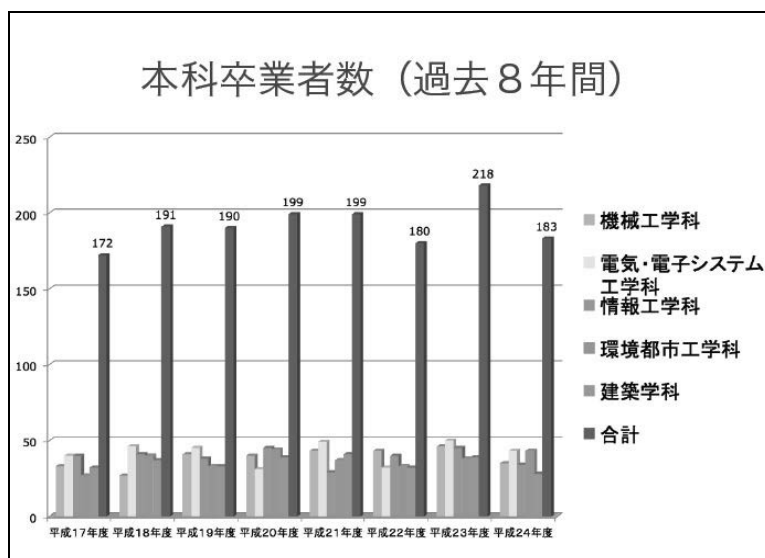


教育目標につきましては、大きく分けて5つ、ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、技術者倫理と、これだけの5つの項目をキーワードとして教育の中で達成していこうということで、よく言われているのは想像力と実践を備えた学生ですが、最近はコミュニケーション能力ということで、いわゆる国際的にも通用する学生を世の中に出すという使命も帯びております。



これは本校の全体図ですが、比較的広い12万平米というような大きなキャンパスを持っております。それから、特徴としては、このようなスポーツ施設ですね。このようなグラウンドがありますし、2つの大きな体育館がございます。そのようなスポーツ施設が他の高専等に比べまして比較的充実しています。学生寮はこの辺にありますね。このあたりが校舎、あるいは先生たちの研究室等がございます。こちらが職員宿舎ですが、この他にもキャンパス外に2カ所ございます。

1年留まるとか、あるいは途中で卒業できなくなるとか、そのようなことがありますので、卒業時には、学生の数も年によっては多い少ないがございます。



学生教育における大きな特徴としては日本技術者教育認定機構 J A B E E の認定を受けております。実際には5学科5コースですね。平成16年から現在、5つのコースで認定を受けておりまして、次回は27年度に5つのコースを同時受審する予定でございます。



それからもう1つは、先ほどコミュニケーション能力と言いましたが、豊田高専の学生の一つの特徴として、異文化の理解活動、つまり海外留学を長期にわたって行っております。大体ここをご覧になりますと30名から50名近い学生がいろんな国に出かけている。一番多いのはもちろん英語圏のアメリカとか、そういうところですが、言葉は大丈夫かなと思うような所に学生たちは出かけて行って、1年間過ごしてまいります。学生はやはり1年間体験してきますと、いろんな能力といいますか、元々このような所に行きたいという学生ですけれども、率先的にいろんなことを行うということで、学生会、あるいは寮生会、あるいは地域のボランティアにリーダーシップを発揮しております。

実はこれは2年生、3年生ですので、留学先では、ハイスクールに入っているのですね。

ホームステイしながら通っているのですが、最近は大学にも留学をする学生が増えてきて、ドイツのアーヘン大学に今留学をしている学生がおります。

以上は留学ですが、必ずしも外に出ていなくても、本校では英文多読・多聴という教育を推進しておりまして、一昔前は高専の学生は英語に弱いと言われておりましたけれども、本校の学生は皆さん語学力に長けた学生がどんどん増えてきているという状況です。

世界に目を向ける豊田高専生									
■異文化理解活動									
YFU-AFSによる海外留学（本科2-3年生）									
年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
留学生数	40名	34名	26名	33名	38名	37名	37名	49名	
留学先									
アメリカ、オーストラリア、ドイツ、ベルギー、スイス、スウェーデン、イタリア、デンマーク、チェコ、フィンランド、ノルウェー、ハンガリー、ポルトガル、スペイン、ニュージーランド、香港、中国、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ブラジル、メキシコ、アルゼンチン、エクアドル、パナマ、チリ、ホンジュラス、コスタリカ..									
帰国後の学生は、学生会、寮生会、地域ボランティアで活躍									
■大学留学									
ドイツ国立アーヘン大学留学（本科5年生）									
■多読・多聴による英語教育改善の全学展開									

課外活動には、いろいろな活動がありますが、有名なのはこの高専ロボコンです。また、ロボカップもあり、2050年に人間のサッカー選手と対決して勝つという目標を掲げながら、推進していますが、2012年ではベスト3に入っております。そのようなことで、いろいろな表彰を受けております。このようなクラブ活動には他に、吹奏楽部、野球部、弓道部等もあります。また、学生個人では、ドイツ語の弁論大会において賞をもらったり、プログラミングコンテストとか、いろいろな受賞の経験がございますし、また、今専攻科にいる学生については、日本学生陸上競技対抗選手権大会で、男子400メートル第4位という非常に輝かしい成績をおさめています。

課外活動

■ 毎日午後4時30分から6時30分まで



ロボコン



ロボカップ



ハンドボール



吹奏楽部定期演奏会



野球部



弓道部

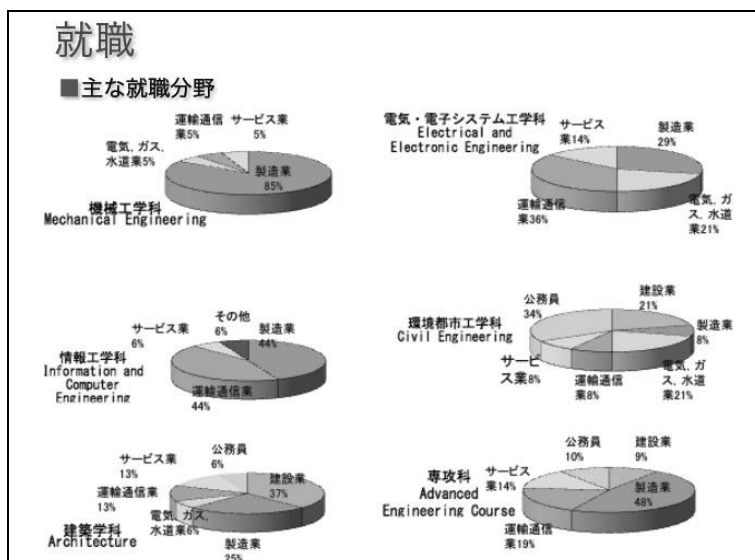
2012国際ロボカップベスト3位：日本学生支援機構優秀学生顕彰学術部門で大賞、全日本学生ドイツ語弁論大会ドイツ学術交流会賞、プログラミングコンテスト 特別賞 住宅設計コンクール優秀賞、日本学生陸上競技対校選手権大会男子400m第4位

卒業後の進路ですけれども、それぞれの高専により差がございますが、本校では約半分の学生が進学で、約半数が就職しています。これは専攻科ではなく本科の学生ですが、このような形で半分ぐらいが進学をしているということでございます。就職に関しましては、求人率が2桁ありますが、先生方は非常に苦労を重ねつつ求人先を紹介したり、学生の就職に尽力をしております。国立大学へは多くは3年生に編入をいたします。それから、進学する学生の中にも、もちろん本校の専攻科に入学する学生もおります。試験科目はいろいろありますけれども、英語については先ほど言いましたように、皆さんかなり力をつけてきているようです。

卒業後の進路

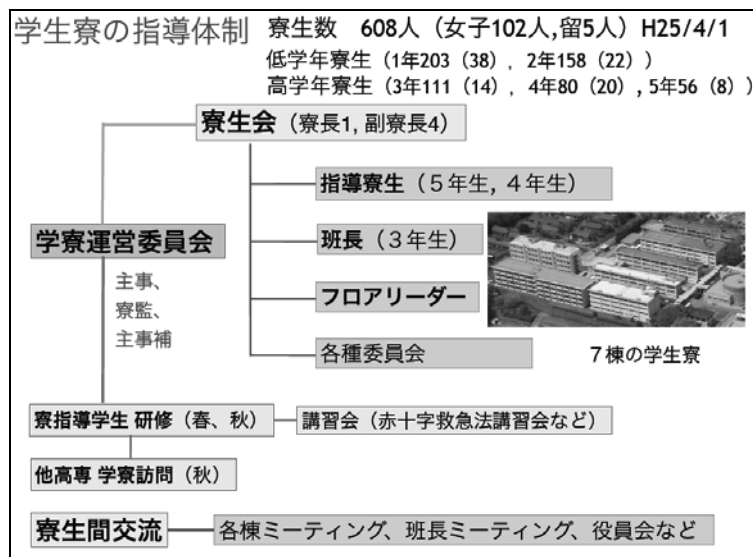
- 約半数が進学／約半数が就職
 - ・ 進学・就職先で高い評価
 - ・ 1.5倍ほどの求人状況
- 就職
 - ・ 多くが全国的に有名な一流企業や官公庁
 - ・ 希望者のほとんどが現役で就職
- 進学
 - ・ 国公立大学の3年生へ編入学
 - ・ 国立高専の専攻科へ入学
 - ・ 希望者のほとんどが現役で合格
 - ・ 試験科目は専門科目、理数科目、英語など

それから、就職先ですが、機械、情報、建築、電気、環境都市、それぞれの学科によって少しずつカラーが違いますが、機械は圧倒的に製造業が多いですね。電気系でいうとある程度のバランスがとれて、製造業、運輸通信、サービス業に就職しています。情報は運輸通信に製造業のところが多いですね。建築はやはり建設業プラス公務員というのも結構あります。環境都市とか建築は公務員になる学生が特徴的というところですよ。こちらは専攻科ですね。専攻科は大体このような製造業に入っていく形になっております。



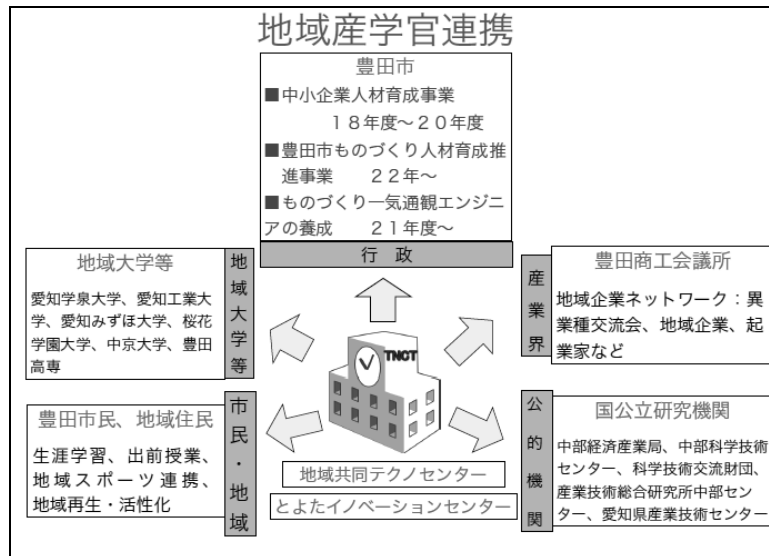
これは大学への編入の様子を示しています。これは本校の専攻科です。うちの専攻科に入っていく学生たちが一番多いですが、その他、豊橋技術科学大学、多いところかというと岐阜大学とか名工大とかにも入っていると。最近は東大にも3人ほど入っていますが、このような形で皆さん進学をしているというところです。

進学						
■過去5年間の大学・専攻科合格者数						
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計
豊田高専専攻科	34	30	26	34	41	165
豊橋技術科学大学	17	21	21	40	26	125
長岡技術科学大学	1	1	2	1	3	8
名古屋大学	4	4	0	7	2	17
名古屋工業大学	5	2	5	7	8	27
岐阜大学	7	7	6	11	10	41
三重大学	2	6	5	5	9	27
金沢大学	0	0	2	1	1	4
筑波大学	2	3	1	3	4	13
東京大学	1	1	1	0	3	6
東京工業大学	0	4	2	3	1	10
電気通信大学	0	0	2	3	3	8
京都大学	1	1	2	1	1	6
神戸大学	2	1	0	0	0	3
その他	56	89	81	28	25	279
合計	132	170	156	144	137	739



これは寮ですが、また鈴木先生から詳しく説明があると思いますので、少し省略をさせていただいて、外部との連携というところで、豊田高専の所在地は豊田市ですので、豊田市との連携が非常に活発になってきております。中小企業人材育成事業というプロジェクトは一応終わっていますが、その後もずっと引き続いて行われていますし、それからこれもまた後ほど詳しい説明がありますが、一気通観エンジニアの養成プログラムというのもの

あります。あとは産業界、商工会議所ですね、こういったところとも連携協定を結んでおります。商工会議所を通じていろんな企業との連携を図っている。それから、地域の大学ですね。愛知学泉大学とか愛工大とか中京も含めてこの地域の大学と、それから豊田市、昨日も豊田市長を囲む会がありましたけれども、このように地域の大学と連携していこうという動きもございます。それから、もちろん一般市民あるいは地域との連携ということで、本校の設備を使っていただいて、例えば、テニスコートでテニスを楽しんでいただくとか、体育館を使っていただくとか、それから生涯学習、また、小学校等に行き、授業を行う出前授業もございます。



それから、豊田市は中山間地の面積が非常に多いのですが、来年度に向けて、地域再生・活性化ということで、その地域の再生あるいは活性化の支援を目的として、小水力発電ということで、中山間地の水路を利用してエネルギーを利用しようという形で実施していこうかという予定です。

それらを束ねて窓口になっているのは、地域共同テクノセンターとか、あるいはこれも後ほど説明があると思いますが、とよたイノベーションセンターでございまして、豊田市と豊田商工会議所と豊田高専の3者がここでセンターを運営しているということです。



社会貢献の一例ということで、実は私が本校に来て「おもしろ科学教室」をやり始めたのですが、全国ネットで募集するので東京からも小学生が来たこともあります。講義を行い、ロボコンを見て、工作をして高専を見学して、最後は未来博士号をもらって帰る形で高専に来ていただきます。小学生ぐらいから高専ってどのようなものかを見ていただくには良いの機会かと思います。

地域連携・社会貢献

■低学年向け理科啓発活動

とよた高専おもしろ科学教室

全国から募集

小学5年生以上

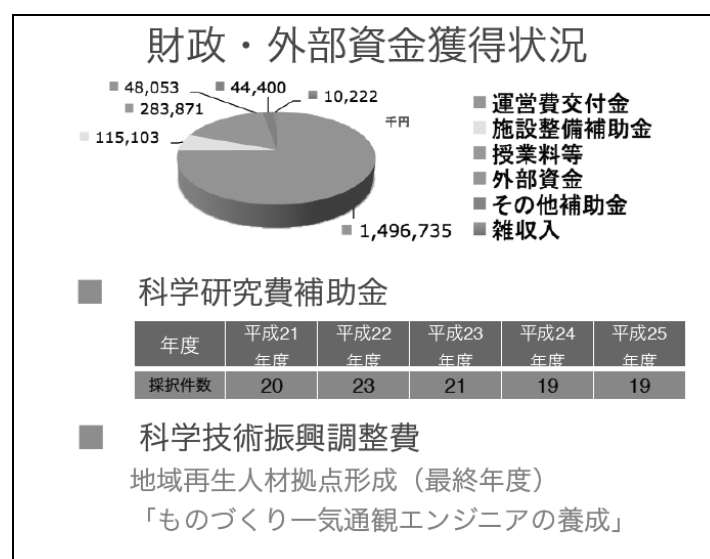
定員40から70名

- ・講義
- ・ロボコン展示
- ・工作
- ・高専見学
- ・未来博士号




それから、財政の話ですけれども、一番多いのは運営費交付金ということで、4分の3近く、約15億円入っていますが、それ以外に外部資金、あるいは科学研究費等の補助金といったものがございまして、科学研究費補助金につきましては、皆さん先生方が毎年たくさん申請していただいております。若干数字は下がってきていますが、全国の高専の中でも科学研究費補助金の申請率という数字で言えば、片手、あるいは両手の中に入るくらいの申請をいただいております。

それから、これは今回が最終年度になります科学技術振興調整費の中から地域再生人材育成拠点形成ということで支援を受けた、「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムがあります。



ということで、まとめてございますが、高専全体については、少し古いですが、平成19年に中教審の特別委員会での報告がございます。高専は50年たってはいますが、やはり時代や地域の要請に応じた新しい機能を備えた高専であり続けるということだろうということです。

それから、ある時期には、もう高専は要らないのではないかという議論もされたという時期もあるのですが、逆に産業界からは高い評価を受けていて、むしろ高専を拡大したほうがいいのではないかという意見も出ております。創造的、実践的技術者の育成というのは従来と同じですが、ここにプラスすれば、やはり国際性豊かなというキーワードが入ってくると思います。

それから、もう1つは、このような社会人コースということで、一旦卒業、あるいは一般の社会人の方に高専で学んでいただくというコースを設定したらどうかと。あるいは技術者の再教育と、このようなものがあるべきではないかというようなお話もございます。

現在、このような答申を受けながら、高専機構としては長岡、それから豊橋の両技科大の連携を強化していこうということが特にこの3者連携ということで、またさらに強化したいろいろな事業がこれから始まろうとしておりますし、それから高専の高度化ということですね。これもいろいろな地域産業の構造が変化しておりますが、一つはグローバル化ということで海外インターンシップだとか、あるいは海外からの留学生と一緒に学ぶとか、そのようなことでこういうグローバル化に対応していきます。

それからもう1つ、カリキュラムの面から言いますと、このモデルコアカリキュラムというものが導入されようとしております。これは高専と一口で言ってもいろんな学生がいるのですが、高専生として身につけるべき共通到達目標というものを基準化しようと、そのような理念でモデルコアカリキュラムが導入されようとしております。

高専全体について

中教審特別委（H19）

- ❖ 時代や地域の要請に応じた新たな機能を備えた高専
- ❖ 異なる分野の特色ある学校同士の相互補完・統合、広域での連携
- ❖ 産業界からの高い評価、むしろ高専を拡大すべき
- ❖ 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍できる多様な創造的で実践的技術者の養成へ
- ❖ 技術者養成以外に、卒業生進路の多様化顕著
- ❖ 企業技術者への再教育、社会人コースの設定
- ❖ 意欲ある質の高い入学者の確保、保護者らへの広報活動、小中学生を対象とした理科実験教室の開催、教育委員会と連携した理数科教育支援などに積極的に取り組むべき

独立行政法人の制度・組織・教育見直し

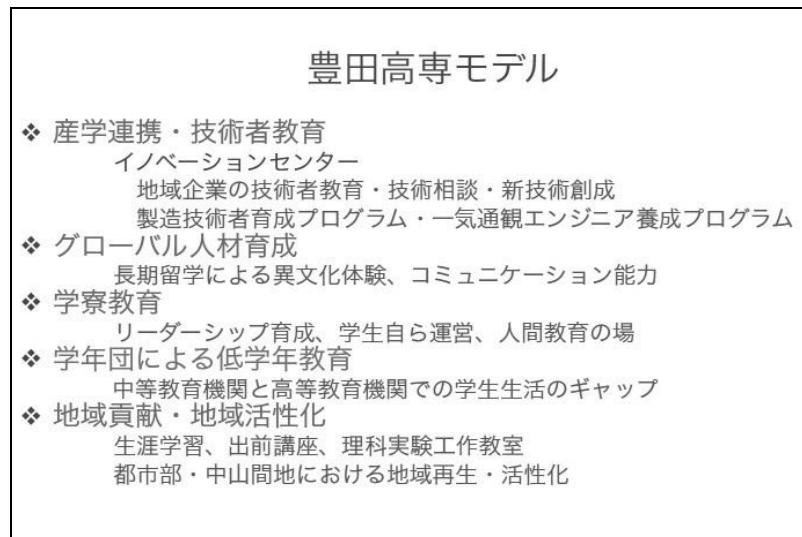
成果目標達成法人

- ❖ 専攻科の意義の明確化
両技術科学大学との連携強化、国立大学工学研究科との連携推進
- ❖ 高専高度化
地域産業構造変化、グローバル化
- ❖ モデルコアカリキュラムの導入
高専生として身につけるべき共通到達目標の基準化

本校の特徴というものをもう1回ここで挙げますが、一つは産学連携・技術者教育と、とよたイノベーションセンターを通じてこのような取り組みをしています。それから、先ほどの英文の多読あるいは多聴、それから海外留学、このようなものを含めてグローバル人材育成を行っていきます。これは詳しく説明しませんでしたでしたが、学寮教育も本校の特徴

の一つとして、後ほど鈴木先生から説明いただけたと思いますが、全国の高専で600人を超える寮生を抱えているのは本校だけですね。それから学年団、これも後ほど説明をいただけたと思いますが、1年生、2年生、低学年のサポートを学年団がしているというのが一つ。あとは、地域貢献、地域活性化ということで、これはどの高専でも行っていることではありますが、特に豊田で言えば中山間地を今後支援していくというような活動を本校の活動として実施しようとしているというわけでございます。

以上でございます。



【若原委員長】 高井校長先生、ありがとうございました。

それでは、ご質問をお受けしたいと思います。いかがでございましょうか。

無いようですので、ちょっと私のほうから。

モデルコアカリキュラムについては、他の委員の方はお耳にしたことないと思います。もう少し補足説明をいただき、豊田高専は大体何年度あたりから導入される予定かという情報もいただければと思います。

【高井校長】 いろんな科目があり、高専によってある学科、例えば化学系の学科は本校にはないですね。そのようなバラエティーには富んでいるのですが、基本的に高専を卒業した学生にはこの程度は知ってほしいというスタンダードを作ろうというのがモデルコアカリキュラムということです。具体的に言うと、実は豊田高専に関しては若干苦しいのかなという点があり、選択科目が非常に多い学科があったりします。他の高専はかなりの科目が必修になっていますので、それほど対応が難しいわけではないのですが、本校の場合は選択科目が多いということで、モデルコアカリキュラムの中でこのような科目を必ず学習することというようなことを言われると、非常に困るということがございますが、それは実際にはどういう内容を学んでいっているかという項目の観点から見直して、本校では対応しようと検討しております。

塚本先生、何か補足することがあったらお願いします。

【塚本教務主事（副校長）】 今の予定では平成28年度の入学生からモデルコアカリキュラム対応のカリキュラムを走らせようとしています。

【若原委員長】 それは既に取り組まれている高専もあるわけですか。

【塚本教務主事（副校長）】 はい、全部の高専で実施するのではなく、モデル校に当たっているところ、例えば函館高専とか確か7校ぐらいが先行して始めていますが。その情報を少し本校にいただきながら、対応していこうと思っています。

【若原委員長】 わかりました。

他にいかがでしょうか。

【鈴木委員】 ここにあります到達目標というところですけども、目標値の設定というのはどのように行われるのでしょうか。企業側から少しお願いすると、高専の方にこれぐらいの技術、技能を身につけていただくとすると、即戦力になるという思いがあったりするものですから、例えば企業側とディスカッションをした中で目標値を入れられるのか、それともあくまでもそれは目標値の観点から決められてくるのか、どのような方向で行かれるのか。

【塚本教務主事（副校長）】 モデルコアカリキュラム自体は全国の高専の中で、例えば機械系の先生が何人か集まって、高専の機械工学科を卒業した場合は、この法則とか理論とか技術は必要だよね、ということで目標値は設定されていると思います。そこでは多分、企業側の意見も聞いているとは思いますが、本校からは委員が出ていないものですから、細かいところまでの情報は今のところありません。

【鈴木委員】 ありがとうございます。

【高井校長】 実際には、創造力、あるいは実践力の養成というのは、ロボコン等を通して行っていますし、後ほどまた説明があります一気通観エンジニアのプログラムも行っています。また、コミュニケーション能力についても英文多読により養成しています。英文多読については、最初は電気系の学科が始めましたが、今は全学科に広がって、取り組んでいます。これらをそれぞれの学科に落とし込んで、いろんな授業の中で行っているという形ですね。

【若原委員長】 ほか、いかがでございましょうか。

笠井委員、いかがでございましょうか。

【笠井委員】 特にありません。

【若原委員長】 酒井委員、いかがでございましょうか。

【酒井委員】 特にこの部分では質問ありません。

【若原委員長】 では、皆さん質問は出尽くしたということでございますので、高井校長、ありがとうございました。

それでは、引き続きまして評価課題の説明をお願いしたいと思います。最初に、産学連携事業と地域貢献につきまして、稲垣宏教授、ご説明をお願いいたします。

【稲垣教授】 地域共同テクノセンター長の稲垣です。よろしくお願いいたします。

産学連携による人材育成事業と教育活動を通じた地域貢献について紹介します。

これは経済産業省による製造品出荷額のデータです。断トツで愛知県が1位です。また、市町村別に見ると、豊田市が2位をかなり引き離して1位になっています。このようにこのあたりは全国の中でも突出したもののづくりの地域であります。

製造品出荷額(平成24年)

		製造品 出荷額等 (百万円)
1位	愛知	40,033,226
2位	神奈川	17,461,302
3位	大阪	16,022,741
4位	静岡	15,707,724
5位	兵庫	14,347,022
6位	千葉	12,388,483
7位	埼玉	12,139,338
8位	茨城	11,097,744
9位	三重	10,136,969
10位	広島	8,342,810

外から見ると、活性化著しい豊田地域ではありますが、その中の製造業を持続的に成長していくためには人材育成が欠かせません。特に実践的、創造的な技術者の育成を使命とする豊田高専に対する期待は非常に高くなっております。

- 活性化の著しい豊田地域ではあるが、
- 製造業の持続的成長のためには、
人材育成が欠かせない
- 実践的・創造的技術者の育成を使命とする
本校に対する期待は高い

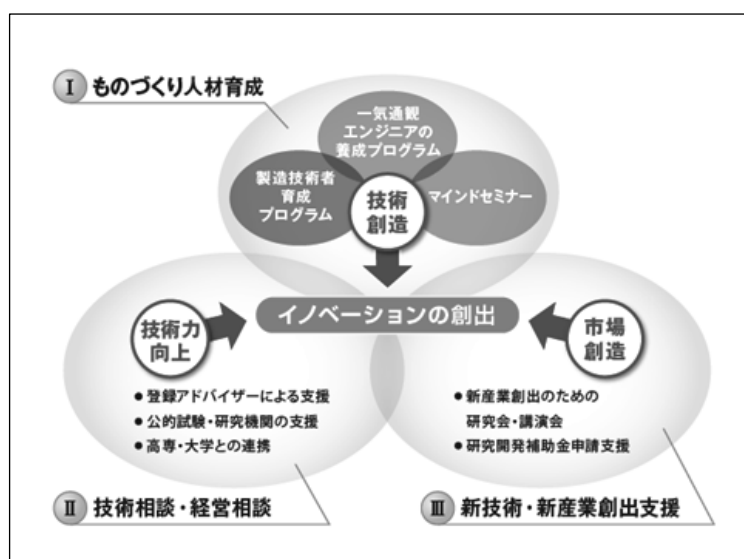


そのような背景を受けて、豊田市、豊田商工会議所、豊田高専が連携してとよたイノベーションセンターという機関をつくりました。平成24年6月のことです。場所としては、平成14年にできました地域共同テクノセンターの中に当センターを開設しました。その後豊田信用金庫さんとも連携を結びました。

「地域企業の発展を目指してものづくり人材を育成する」、それから「技術・経営相談に乗る」、そして、次のステップとして「新しい技術や新しい産業の創出を支援する」という3本の柱がとよたイノベーションセンターの設立目的になります。

とよたイノベーションセンター

- ・ 豊田市・豊田商工会議所・豊田高専が連携
- ・ 平成24年6月、地域共同テクノセンター内に開設
- ・ 地域企業の発展を目指し
 - ①ものづくり人材育成
 - ②技術・経営相談
 - ③新技術・新産業創出支援
 を行う



本日はこの人材育成の中から、「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」、それから「製造技術者育成プログラム」について紹介いたします。

また、豊田高専では、このような企業を対象とした人材育成活動以外にも、地域の小・中学生や一般の方々を対象としたさまざまなイベントを企画、開催しています。そして、教育活動を通じた地域貢献に尽力しています。例えば、子供たちに科学技術のおもしろさを伝える公開授業、公開講座、出前授業、科学教室といったもの、それから一般の方々が対象の市民講座のようなものです。このように、教員と職員が一体となり、地域における知の拠点として幅広い活動を展開しています。その中から特色のある取り組みをいくつか紹介したいと思います。

- ・ 企業を対象とした人材育成活動以外にも
- ・ 地域の小中学生や一般の方たちを対象とした様々なイベントを企画・開催し
- ・ 教育活動を通じた地域貢献に尽力している
 - － 子どもたちに科学技術のおもしろさを伝える「公開講座」「出前授業」「科学教室」
 - － 一般の方たちの生涯学習に向けた「市民講座」
- ・ 教員と職員が一体となり、地域における知の拠点として、幅広い活動を展開している
- ・ 特色のある取り組みをいくつか紹介する

まずは、「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」です。外から見ると非常に順調そうに見える豊田地域ですが、中は激震が走っている、厳しい状況にあります。どの企業もグローバル競争にさらされ、産業のピラミッド構造が急激に変化しているのです。従来、トヨタピラミッドと呼ばれる堅固な産業構造であったものが、グローバル化の影響で、その構造が崩れかけているのです。「激動トヨタピラミッド」と題した「NHKスペシャル」が放映される、そういう状況なのです。

豊田地域産業界の課題

地域企業は、グローバル競争激化に伴い、産業のピラミッド構造が急激に変化し、厳しい状況にある。



そのような状況下でどのようなことが要求されているのでしょうか。そこでは、中堅や中小企業に求められるものがこれまでの量産という要請から、もっと付加価値のあるシステムとしての製品、高品質、高付加価値の製品を生み出すものへの転換が要求されているのです。中小企業においても、商品企画力、技術開発力、問題解決力といった能力を備えた創造的開発技術者が求められている、そういった背景のもと、このプログラムは生まれました。ここでは、製品の企画から最終工程までを俯瞰できる一気通観エンジニアを養成します。この「俯瞰できる」というところが「一気通観」という言葉が表している意味なのです。

中堅・中小企業に求められるもの

「量産」から
「システム製品」「高品質・高付加価値製品」への転換が
要求されている

地域が期待する新たな技術者ニーズ

中小企業技術者に対して、
「商品企画力」「技術開発力」「問題解決力」等を
備えた創造的開発技術者が求められている



地域が期待する新たな技術者ニーズ

「製品企画」から「最終工程」までを俯瞰できる
「一気通観エンジニア」の育成が期待されている



本プログラムの目標としては、ものづくりの構想・企画から最終工程までの一連の工程を見通す力を育てたい、さらに技術マネジメント力を持ったリーダー技術者を養成したいということです。そのために、次のような特長のあるプログラムを構成しました。

「ものづくり一気通観エンジニアの養成」

目標

- ものづくりの「構想・企画」から「最終工程」までの一連の工程を見通す力を育成する
- 技術マネジメント力を発揮できる「創造力豊かなリーダー技術者」を養成する

1つ目は、「工学の知識，それから実践技術力，知識とスキルを一体的に育成しよう」ということです。

「ものづくり一気通観エンジニアの養成」

特長(1)

- 工学知識と実践技術力の一体的習得
 - 新技術への複眼的視野
 - プロジェクト課題の達成を通して得られる
チームワーク力・課題解決力

それから2つ目の特長として、これは全国的にも非常に珍しい取り組みですが、「企業の技術者と本校の学生がプロジェクトチームを作り、プロジェクト課題に取り組む」ことです。

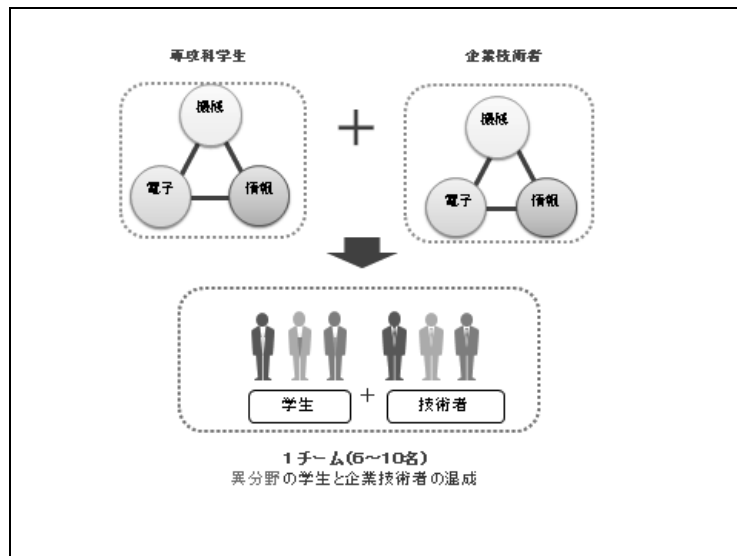
「ものづくり一気通観エンジニアの養成」

特長(2)

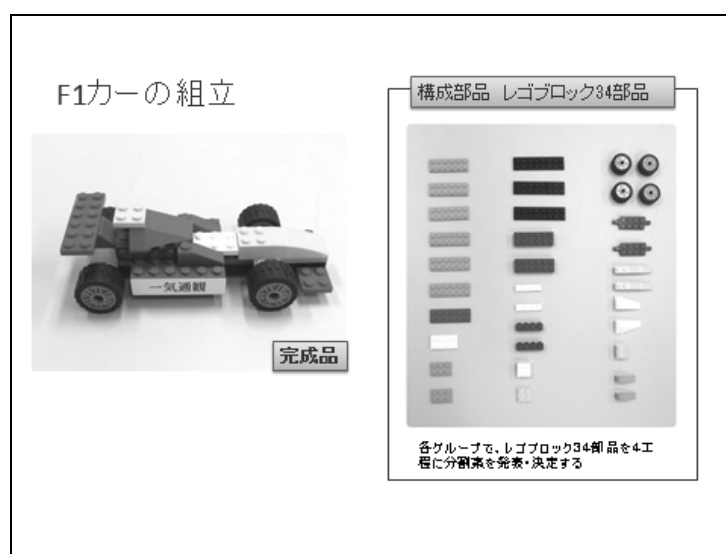
- 企業技術者と学生の混成プロジェクトチームを編成
 - 企業技術者の「経験に基づいた発想」と
学生の「フレッシュな発想」の融合
 - 分野の異なるメンバーとの作業を通して、
「チームワーク」の重要さ・「自己の役割」を
自覚する

これによって、企業の技術者の持っている「経験に基づいた発想」と、学生の「自由でフレッシュな発想」を融合させ、そこからシナジー効果が生まれないか、ということを目指しています。さらに、学生も企業の方もできる限り、分野の異なる人たちを一つのチームにしています。電気、機械、情報、それぞれの分野の専門家でチームを作ることで、チームワークの重要さ、自分の役割といったものを体験できればいいな、と思っています。図に示すとこのような感じです。

なお、一つのチームは6名から10名ぐらいのメンバー構成になります。



1期生の課題としては、このようなレゴブロックを使ったF1カーを組み立てるロボット設備を自分たちで作る，ということです。そこでは，全工程を4工程に分け，それをつなげて，第1工程から第4工程まで終わると完成する，といった生産ラインを構築します。これが実際の作業場所です。地域共同テクノセンターの1階にあります。



とはいっても、最初からすぐにはできませんので、まずは、どのように分割をすればいいか、工程分割をどうすればいいか、といったところから始めます。工程分割案はみんなで決めました。決めたらそれに従って、自分のグループに与えられた工程の作業，組み立ての方法を考えていきます。製造設備で必要な治具などは，最初から金属とか樹脂で作るのではなく，まずはスチレンボードを使って検討します。様々な部品をどう供給するか，どのような治具の上に乗せるのかを検討します。その後，スチレンボードでできた治具等をロボット組み立て設備に持って行って，ロボットと干渉しないかということをチェックします。それが終わると，金属や樹脂材料の加工に移ります。この段階は，機械工学科の学生並びに製造現場の技術者の方がメインとなって作業を進めます。それと並行して，情報系または電子系の学生は制御プログラムを書くとか，ロボットのプログラムを書くという作業を行います。







「実践課題研究」
F1カー組み付けライン完成

F1カー完成

第1工程	第2工程	第3工程	第4工程
シャーシ組付	車軸組付	ボディ組付	キャビン組付
担当 A班	担当 D班	担当 C班	担当 B班

これを2年間、週に1日ですが、水曜日の朝から晩までを2年間かけて行いました。そして、最後には、発表会を行い、上司の方に来ていただいて成果を見てもらいました。

2期生は、さらに「商品の企画・開発も自分たちで行う」ことにしました。電子商品を対象に「エコ・ハイブリッド・卓上」といったキーワードを満たす独自の製品を考え、商品企画から始めました。まずは、班ごとにいろいろな製品を企画し、さらにその後コンペをしてどれを作るかを決めました。商品企画では、ターゲットは誰か、自分たちが目指している市場のマーケット規模はどのくらいか、競合製品は何かというようなことを、自分たちで調べて考えてもらいました。コンペでは、スチレンモデルを作成してプレゼンを行いました。コンペの結果、選ばれたのは「電子日めくり」という装置です。その後、設計図を書いて、製造における工程分割をしました。

次年度の3期生は、自立化を視野に入れ、1年半に期間を短縮しました。そのために、ひとつの班で生産が完結するセル生産方式に変えました。これにより、班同士の調整が不要となり、簡素化が図られました。

なお、3期生では、生産する製品は任意としました。A班は、レゴプリンターという新しい製品を考え出しました。レゴの一番小さいブロックを使ってドット絵を作ろう、それもカメラで撮った画像を自動的にドット絵に変換して、それをレゴブロックで作ろうという非常に高度なもので、とてもできるとは思っていませんでしたが、何とか完成させてしまいました。すごいなと思います。かなり大がかりな装置になりましたが、最終的には完成しました。素晴らしかったです。

B班は、車椅子に乗りながらそのまま運転ができるような車を考え出しました。C班は、自動ごみ収集ロボットを考え出しました。D班は、三輪バイクです。非常に構造は簡単ですが、この班はいかに早くできるかというコンマ何秒の世界で組み立ての速さを追求していました。

次年度の4期生ではさらに期間を短縮し、1年間にしました。1年では、商品企画から始めるのは難しいので、1期生と同じレゴブロックのF1カーにしました。F1カーの生産設備を作るという課題を1年で行います。動画をお見せします。ついこの前、先々月にできたものですが、このようにこの辺の治具を全部自分たちで手作りです。アルミ建材、それから樹脂を使う。それから、このようなロボットの先に付けるチャックも自分たちで全部作ります。どのようなチャックを作れば様々な部品が持てるか、また組みつける工程の中で、スマートセンサー、画像センサーを使った色や形のチェックも行っています。最後はタイヤが動くかどうかをチェックして完了です。これが1班分です。

ひまわりネットワークをはじめ、中日新聞でも何度か取り上げられています。中部経済新聞では「一気通観技術者養成」という特集記事も組まれました。

ここで、2つ目の「製造技術者育成プログラム」の紹介に移ります。

ここでは、企業の技術者のみが対象です。仕事が終わってから、夜5時から8時まで行う社会人向け講座です。中小企業製造現場の初級技術者を対象としています。製造現場で必要となる基礎技術をできる限り実践的に学ぼうという講座です。

- ・ 企業技術者を対象にした社会人向け講座
- ・ 中堅・中小企業の製造現場の初級技術者を対象
- ・ 製造現場で必要となる基礎技術について、演習・実験・実習・企業研修を交えて実践的に学ぶ

今年度は4講座を開講しました。「機械製図」、「電気・電子回路」、「機械加工・計測評価技術」、「生産設備制御・保全技術」です。1講座は、3時間の授業が、10回で構成されます。講座の受講費は、豊田市内の企業の場合、1人当たり2万円で、市外は少し高目になります。

今年度の開講した講座

講座名	期間	定員	受講人数	修了者数
① 機械製図の基礎	9月6日～11月8日	20名	23名	23名
② 電気・電子回路の基礎	9月17日～11月22日	20名	11名	8名
③ 機械加工・計測評価技術	10月28日～12月23日	20名	16名	16名
④ 生産設備制御・保全技術	11月12日～1月16日	20名	20名	20名

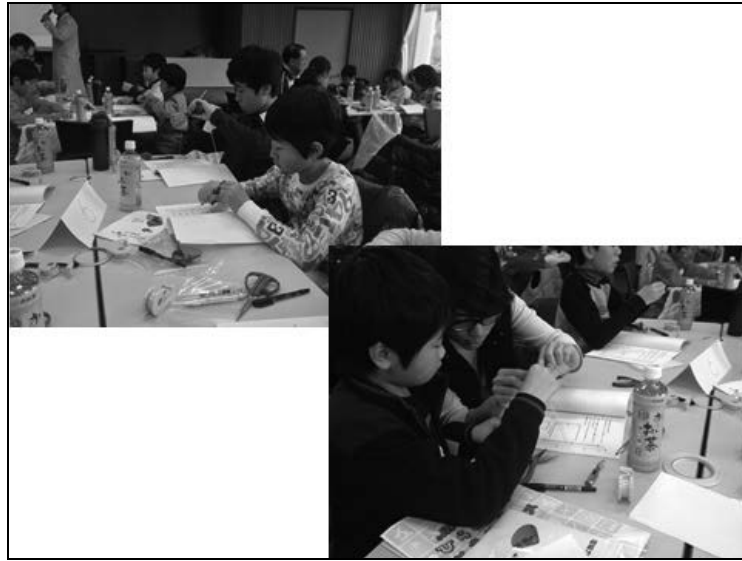
- 1回3時間の授業10回から構成されており
- 1講座当たりの受講費は、一人20,000円
(豊田市内企業の場合)



次は、教育活動を通じた地域貢献です。今年度、206名の募集に対して申込みが242名です。申込率は、117%で、毎年、数多くの公開講座を行っています。

それから「出前授業」といって、いろいろな小学校、中学校、科学館等に行き、授業することも精力的に行っております。出前授業は、今年度は25件行い、いろいろな地域のイベントに参加する地域貢献を15件行いました。

「とよた高専おもしろ科学教室」というのは、日本学術振興会の採択を受けて実施した科学イベントです。前回は、「磁石で楽しい工作を」と題して工作を行い、長野県や滋賀県のような遠くからの参加者もありました。これが実際の様子です。



さらに、今年度は、本校が世話校となって8月に名古屋で全国高専テクノフォーラムを開きました。これは高専を核とした産学官連携，地域連携の推進を図ろうというもので，高専関係者，企業関係者，自治体関係者等399名の参加があり，メインのホールに入り切らないほどの盛況ぶりでした。基調講演，パネル討論，パネル展示，技術相談，プレゼンテーションといった多彩な企画を催され，産学官それぞれの立場から高専における産学官連携活動のあり方について活発な議論が交わされました。

以上となります。ありがとうございました。

【若原委員長】 稲垣先生，ありがとうございました。

それでは，次に低学年への学生指導について，金井康雄教授，ご説明をお願いします。

【金井教授】 第2学年の学年主任をしている金井と申します。学年団が編成を変えまして，3年前から学校教育目標達成の支援のためにより良い活動をしていこうということで再編させていただきました。その報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

このような題名としましたが，再編の目的は，学習生活支援の充実が念頭にあります。

なぜ再編するようになったかということをお話しさせていただきますと，4年ぐらい前，各委員会等で低学年をしっかりと指導していこうという問題意識が上がりまして，何とかしていこうという提言がされております。ちょうど平成23年，あるいは平成22年ぐらいからそのような問題意識が出てきてまして，組織的に活動していこうということで再編することになりました。その再編の前は，担任，指導教員の個々の活動に任せられ指導していこうということで長年行っておりましたが，それよりも組織的に協力して，もう1つの目標である意見交換とか，情報共有ができるようにしようということで再編したという経緯があります。

先ほど平成23年と書いていましたけれども，これは，本当は24年7月ごろに確認し合った内容です。先ほどの再編する動機，きっかけという問題意識を踏まえて，平成22年に学年団が再編に向けて走り出したのですが，その時までは指導教員5名のうちの1名が学年主任をして兼任をしていたわけです。ある意味事務的な作業を行っていたという感じがあります。他の部署との調整等を行っていたのですが，単純な再編内容は，学年主任を独立

した役職にした，つまり，兼任を外したということです。それが再編の実質の内容ですが，それに伴っていろいろな活動内容もきっちり決めていったということです。1年目は単に意見交換とか情報共有という形で，あるいは学年主任を単独に役職として設けたということで進んだのですが，その1年後にやはり学年団としての活動を明確化する必要性があるということで，校長の了解を得て，このようにまとめた次第です。逆に言いますと，今まで学年会議を定期的に行うようなことが無かったということです。

指導目標にも明確に位置づける。基本的生活習慣，あるいは基本的活動という週2回の朝授業前のクラス状況の観察とか，あるいは朝にショートホームルームを行うなどの活動をしていこうという活動内容の基本をしたためました。これで皆さんと意思統一をしたということです。

1. 学年団再編の理由

学校における人づくり実践

(1) 学年団再編とは

A. 一般学科会議資料より

「低学年における学年団再編について(平成23年3月)」

(1) 再編の目的と内容

平成21年度FDシンポジウムにおける教育改善推進室報告，平成22年度FDセミナーにおけるキャリア教育支援についての意見交換報告，教務主事方針などを踏まえて，低学年におけるより効果的・効率的な指導の必要性とその指導内容が確認される。このために，従来の学年教員団のあり方を再考し，より効果的な指導体制とするため学年主任を指導教員の兼任役職の立場から独立した役職とし，職務内容を明確化し直接校長が選任するものとする。また，指導教員についても副校長等の意見を参考にして校長が選任するものとする。

(2) 指導体制における基本的内容

- ① 学年会議を定期的に行う。基本的には月2回が望ましいと考える。
- ② 指導目標の一つに基本的生活習慣の定着を掲げ，その目標にしたがって集団指導する。そのためには，基本的活動として週2回の朝授業前のクラス状況観察あるいはSHR(ショートホームルーム)(できれば月曜日，金曜日)，授業後の放課でのクラス状況観察あるいはSHRを考える。
 - クラス状況観察あるいはSHRの内容：着席，授業準備，清掃，日番義務の履行などの状況把握，および居る連絡など
- ③ キャリア教育支援室など学年外機関との連携

今までの話は，学年団の再編の経緯と目標をお話ししましたが，今から活動内容についてお話しします。本校の規則と学年会議の議事録ですが，従来は議事録を作成していません

んでしたが、再編とともに作成し、それを資料にいたしまして、どのような活動をしてきたかということ報告したいと思います。その後に学年団の再編と成果についてご紹介したいと思います。最後に時間がありましたら、このような学生指導を各教員が行うわけですが、信念といいますか、心の支えとなるようなこととして共通認識として理解できれば良いなという項目も資料として付け加えさせていただきました。メインは今紹介しました学年団の再編経緯、目的、内容です。今から報告させていただきます実際の活動内容、成果、この場合、成果ということは反対に問題点になりますが、そのような順番で報告をさせていただきます。

まず、この規定の内容です。ここに指導教員の役職事項、遂行事項が書いていますけど、これを5学科全体の指導教員で行っていかうということです。それが規定から見た学年団の活動内容、全体からは学年経営になりますけれども、学級の特別教育活動、ホームルーム等の計画です。実際の実践ということです。学級活動の学習指導、生活指導等を学年全体で協議しながら行っていかうということです。当然クラスは指導教員が行うことになりますけど、それが規定に盛られた学年団の活動内容です。実際の内容を議事録を通して報告させていただきます。

(2) 豊田工業高等専門学校教員組織規程

第1章 総則

第19条 学級にそれぞれ1名の指導教員を置く。

2 低学年(第1, 2学年)は学年別にそれぞれ学年主任を置く。

3 高学年(第3学年以上)は学科別にそれぞれ指導主任を置く。

第13章 指導教員

(資格)

第71条 指導教員は、本校教員をもって充てる。

(職務)

第72条 指導教員は、次の事項を行う。

一 学級経営の計画及び運営に関すること。

二 学級の特別教育活動に関すること。

三 学級学生の学習指導に関すること。

四 学級学生の生活指導に関すること。

五 学級学生の保護者との連絡に関すること。

六 その他学級に関すること。

2 専攻科の指導教員は、次の事項を行う。

...

(任命)

第73条 指導教員は、校長が任命する。

4

第13章の2 学年主任

《資格》

第73条の2 学年主任は、本校教員をもって充てる。

《職務》

第73条の3 学年主任は、当該学年の運営に関し、主事、学科主任、指導教員との連絡調整にあたる。

《任命》

第73条の4 学年主任は、校長が任命する。

5

これが議事録です。先ほど年度が不確かでしたけれども、23年度といたしますのは第1回の学年会議を平成22年12月15日に開きました。だから、この翌年の4月から学年団として実際に実践を開始するわけですが、その前年の12月に準備として会議を始めたということです。それは今まで行っていなかったということで試行ですから、試行錯誤の面がありますので、何か皆さんの心がはやったのかわかりませんが、早く開いて決めていこうということです。学年指導目標として、当時の教務主事がこのような目標を掲げられましたので、それを踏襲しまして、「時を守り、場を清め、礼を正す」と、教育学者の森信三さんの言葉ですが、学年の学びとして、1番に人間として基本的なものを育成していこうということです。2番が、学びに向いているよう学生としての意識を持たそうということです。さらに指導指針、現場でこういうことを頭に明記して指導していこうということです。けじめある指導、これは学生との接触を、叱るときは叱り、褒めるときは褒め、けじめあるように行っていこうということです。もう1つ、3番目は行事がある場合、「集まりなさい」だけではなくて、なぜそのような行事を行うかについて説明して、そのようなことを省略しないで頑張りましょうということを確認しました。よくある目標として、基本的生活習慣、これは先ほどの1番に対応するものです。基本的学習習慣、2番に対応するものです。そのようなことを学年団の共通理解、活動目標として、指針として掲げたということです。

2. 学年団の取組

(1) 第1学年学年会議議事録より

平成23年度 第1回 第1学年会議会議録
(平成22年12月15日)

「議題：平成23年度第1学年団基本方針

1. 学年指導目標
 - (1) 「時を守り、場を清め、礼を正す」学生育成
 - (2) 「学びに向いている」学生育成
2. 学年指導方針
 - (1) はじめある指導
 - (2) 学生への説明を怠らない指導
3. 年度具体的指導目標
 - (1) 基本的な生活習慣の育成
 - (2) 基本的な学習習慣の育成

○ 反対意見なし。検討継続。概ね賛成の様子。

6

以下項目として、

4. HR・学年集会年間計画について
5. 学年会議のもちかた
 - (1) 計画性のある会議
○当面（前学期）は、週に1回開くことが確認された。
6. その他
 - (1) 教室清掃について
○毎日実施。清掃時間の固定、清掃点検表の作成などを検討。
検討継続。
 - (2) 日番について
○3名一組の週番にしようか。検討継続。

7

学年会議の持ち方、先ほど定期的に関くということだけがありましたけれども、それはこの段階では会議をどのくらい実施するかということはまだ決まっております。試行でどのように行うかを議論しています。このような会議を踏まえて、校長の了解を得たわけですが、まず当面、週1回ということがここで確認されました。また、いろいろな細かいこと、例えば3人1組で日番を1週間やらせましようということなどを決めたわけではす。

これが1年たって、さらにまた最初の学年団、第2学年。1年後じゃない、2年後です。といいますのは、ちょっと私も成績悪くて留年してしまいました。1年を2回、学年主任しましたので、先ほどの1年と学生は違うのですけれども、2年たった第2学年の報告をさせていただきます。

先ほどと同じような学年目標を掲げております。少し違うところを紹介します。第1学年だったら、ある程度抽象的な目標でまあまあ行えるわけです。ところが第2学年になりますと学校に慣れまして、手を抜くところ、抜けるところを目ざとく察知して、先生はこ

の辺まで実施したら怒らないとか、そのようなことをやり出すのです。そのようなことで、目標をこのように具体化させました。小学校みたいなことと言われますが、授業開始時に着席しているなどです。このような具体的な目標を掲げた理由は生活習慣です。これを徹底すれば自ずと生活習慣がある程度形成されていくだろうという思いで行いました。課題提出の励行、これは学習習慣です。これがきっちりできたら学習習慣が形成されていくだろうということで、このような具体的な目標を掲げました。

最後ですが、担任の立場。無謀に少し入れた面があるのですが、いじめ等の可能性も考慮し、このようなことを実際に目標に入れて指導していきたいという思いでここに入っております。いじめか慣れ合いなのか、なかなか難しい面もあるのですが、やはり先ほどのけじめある指導を行わないと増長といいますか、だんだんエスカレートする面がありますので掲げております。結局は前期にそのようなことを掲げたのです。後期も継承するとなっていますのは、なかなかこのような具体的な事柄でも100%は無理です。90%行けたかなという感じで、さらに徹底していきたいということですね。なかなか難しいです、やっぱり徹底するというのは。そういうことです。あと細かいこともあります。

活動内容を報告させていただいておりますが、それとともに会議でどのようなことを議論しているかについてもお話をさせていただきます。

まず、メインはこれです。学力不振者の確認、指導、意見交換が非常に時間をとります。学力不振の原因はいろいろあります。単に怠けているとか、ところがよく指導教員から、学生との面談報告を聞きますと、家庭に問題があるとか、あるいは友人関係、もう1つはここに書いていませんが、留年した学生の同じクラスメートとの触れ合いの問題ですね。ちょっと孤立化していないかということです。その辺が逐次、毎回報告されます。同じことであっても、局面が変わったということがありますので報告させていただいてます。これがメインです。

あとは、このような内容ですけれども、各週のホームルームが水曜日の4コマ目にありました。4コマ目といってもその半分の45分間ですけれども、その計画を互いに確認しております。どのようなホームルームをするか。ただ、ホームルーム活動も1年はかなり統一的にできたのですが、第2学年になりますとクラスの雰囲気、当然専門科目がかなり1年2年蓄積されて違ってきていますから、学ぶ科目が学科によって少し違ってきております。それも影響するかはわかりませんが、1年、2年と進んできたら、クラスの雰囲気とか注意したい事柄、今褒めたい事柄がクラスによって異なってきます。そういう意味で2年の後半になりますと、学校全体の行事は当然同じになりますけど、それ以外かなり学年団の自由裁量でホームルームが計画される時は、時折学科サイドといいますか、少なくともこれだけは連絡しましょう、少なくともこれは学生に注意しましょう、あるいは報告しましょう、褒めましょう、それを決めてあと残り時間は学科で適当に行ってくださいますかというようなホームルームが増えてきました。今言いましたように、学力不振の確認とか意見交換、このような指導をしたい。もう1つはホームルーム計画の確認です。それが2大メインです。あと雑多なことが少し、それは後で言います。ここら辺に多分出てくると思います。

(2) 第2学年学年会議議事録より

平成25年度 第1回 第2学年会議議事録
(平成25年4月4日)

「1. 審議事項

(1) 第2学年目標の確認

- ① 基本的生活習慣の育成：具体的目標「時を守り、場を清め、礼を正す」の定着
- ② 基本的学習習慣の育成：具体的目標：学習時間帯の活用、授業中居眠防止、課題提出
- ③ 2年前期：授業開始時に着席しており、課題提出を励行し、生活と学習の習慣をより定着させる。人間力向上として、他人の立場に立てる。
- ④ 2年後期：前学期を継承する。

(2) 課題提出状況と対応、後黑板の利用

8

2. 意見交換・連絡事項

(1) 平成25年度HR計画の確認 ⇒ 次回継続

- 4月17日はキャリア教育支援プログラム「目標設定・確認講座」を実施
- 4月24日は各クラスでHRを実施。内容は後日意見交換
- 5月8日は内容を「HR（寮祭の意義、球技大会の選手選出）」に変更
- さらに次回詳細を豊田カレンダーで意見交換をする。
- 夏季長期休暇の初めに補習をするならば、校舎の改修工事があり、補習会場を考えないといけない。

(2) 学生不振者の確認と指導方法の意見交換

- 次回より、留年生や留年が危ぶまれる学生の情報連絡、対応の意見交換が常に必要と思われる。

9

(3) 春季休暇における学生の動向

(4) 各教室整備・整理状況

- ゴミ捨てがなされていなかった。休暇中に使用したクラブが原因かもしれない。

(5) 新入生学力検査の意義

- 学力不足な箇所を把握し、今後の学習計画の参考にする。取り敢えずの数学補習選考資料ともなる。選考は一時きなものであまり気を病むことがないように。

(4) 学年団の会議の持ち方 ⇒ 次回

- 週間に1回、2週間に1回、木曜日の4コマ目

(5) 留年生指導

- 履修方法と計画的な履修の必要性。1単位不足での留年者も少なからずいる。
- 学校で支援してほしい事柄の聴取
- クラスへの溶け込みへの悩み聴取
- 健康診断・HR終了後に指導教員のところへ行くよう連絡する。

(6) 春休み補習の反省 ⇒ 次回

10

3. 確認・検討・意見交換項目

(1) 日番の役割・清掃指導

(2) 清掃用具の確認表貼付

(3) 日誌指導

(4) 各ガイダンス日程(確認)

① インターネットの危険 5月1日 講師 愛知県警察本部

② 人間関係ガイダンス 講師 山本先生

● 5月8日(水) 2M

● 5月13日(月) 2E,

● 5月20日(月) 2I,

● 5月27日(月) 2C,

● 5月22日(水) 2A,

⇒ 学年集会とバッティングしており、変更が必要。

11

これは学校行事のことがあるのですが、学校行事に関する目的とか対応、学生の連絡の仕方の統一を図っています。それが学年会議の3番目の主な項目かと思います。例えば夏休みに行かれた場合の学生主事グループからおりてくる注意事項以外にどのようなことを学生に注意されたか、そのようなことが入ってきます。大体それが学年単位で意思統一とか意見交換する内容です。

今から会議の内容と活動内容を簡単ですが報告させていただいて、総じてどのようなだったかという話に少し移っていきます。

1つは、このように2つの学年がそろって意見交換会を開くことができました。ある意味で組織的活動に慣れたのかと思います。そのような意味で2学年、つまり2学年集まると低学年指導の意思統一といったことになりますが、問題点の情報共有が2つの学年で揃ってできます。そのような意見交換会を開きました。この辺に出てくる留年とか、自戒の念というか、いろいろ教員が注意すべき点等がたくさん出てきます。教員が感じる問題です。

この辺の項目を一つ一つお話ししてもいいのですが、私が報告したいのは2学年揃ってできたということが一つの成果ではないかと思います。

もう1つの成果といいますか、例えば、数学は、毎週1年生に対して定期的に補習をしています。しかし、長期休業の初め、例えば7月の後半ですね、夏休みにするということです。そのときに数学の補習をしていました。ところが、学年団がこのように組織的活動を開始しますと、数学と物理は共同で、かつ学年団のサポートを得て1・2年共同で補習をしました。これがなぜ重要かといいますと、組織的活動ができているという点の一つありますが、もう1つは、揃って補習すると学校の低学年の学習への雰囲気を変えていけるのではないかと期待があります。学習、補習に対して全体が動いているということです。学校の学習雰囲気が少し良い方向に向かっているのではないかなと。これは推測ですけども。少なくともこのような多くの教員が集まった活動が少し増えてきたという成果があるのではないかと思います。

(3) 第1学年・第2学年意見交換会要旨より

1. 日時：平成25年3月19日（火）15:15～16:50
2. 場所：共同会議室1

- 「1）「留年」の言葉を慎重に使う必要がある。学生はその言葉でメンタル的に参る場合がある。特に、新入生ガイダンスの内容や新入生学力検査の結果等と相まって学生にかなりのプレッシャーを与える場合もある。
- 2）威圧的な教員の言動が「いじめ」のような感情を学生に与える場合があり、注意が必要である。
- 3）ある専門科目の内容・評価が、学生のレディネスからして不適切、難しいものになっていると思われるものがある。それが学生の学習意欲の低下に繋がっているのではないかと思う。
- 4）専門学科によって学生への対応が低学年におけるものとかなり異なっている場合もあり、時間的流れを考えて適切な指導が行なわれていないのではないか。
- 5）専門科目と理数系一般科目連携がさらに必要と思われる。

12

- 6）3）の内容とともに、第2学年から本格的に講義される専門科目を考えて、学科で学習を続けることに迷いが生じる学生もいる。楔形教育課程の意義を再確認、再検討する必要があるのではないか。低学年の専門科目は学科の帰属意識を高まらせ、徐々に専門科目の面白さ、進路を踏まえた学習意義・意欲を持たせるものではなかったのか。
- 7）留年をさせない指導として「一番苦手な科目を指導教員が、担当教員とも連携して、ケアすること」があると思う。
- 8）留年生の日直・掃除での明確な扱い・指導が必要である。留年生に疎外観を与えない。
- 7）留年生のためのHRも必要と思う。

13

もう1つは、先ほど学年会議の項目もありましたが、行事の時の目的を確認して、各学科主体のところが多いですが、このような内容で学生に説明していいかを了解を得て意思統一して行っています。

今はさらに進んで、先ほどの2学年の意見交換会から発展したものかどうか分かりませんが、2学年合同で2カ年間の学生指導プログラムを構築しているところです。まだ審議途中だと思いますが。その中には学年当初、入学生に対する説明の仕方等も含まれて、今プログラムを作っているところです。

(4) 低学年での組織的活動へ

A. 学習支援

- ① 夏季長期休暇初めの数学・物理補習
- ② 春季長期休暇初めの数学補習（第1学年対象）

B 各部署への提言

- ① 各行事の目的・意義の確認
- ② 各指導項目に対する要望と取り組み方の了承依頼

C. 第1学年・第2学年での 学生指導プログラムの作成

14

これが成果かどうか、問題点もあると思いますが、平成25年のFDシンポジウム，教育改善推進室，たまたま私が室長をしているのですが，その主催のテーマとしてこのようなことを掲げたのです。学生指導をメインテーマとして特別講演を開き，その後にテーマ別実践基調報告を行っていただきました。その一つとして，学年団再編についても報告させていただきました。その前に報告する資料として指導教員を経験された先生方に，学年団が再編されてどう変わりましたか，何か感想ありますか等を記載したアンケートがあります。その中の意見に，やはり目的どおり，学生指導に関して担任間の意思統一が図られたとか，学生にも指導内容が受け入れやすく，また連絡事項が伝わりやすくなったということがあり，このことは，学科が異なっても，ある意味で同じことを言っておられます。例えば，一つの行事に対して，ある学科とある学科が全然違う目的を伝えたら少しおかしくなります。そのような意味で学生にも受け入れやすくなったのではないかなと。全クラスの学生の様子がわかった。

共通の問題があれば，対応に動き易い等，良いことも書いていますが，精神的負担が軽減される，これも良いことですね。逆に問題点があります。会議が長く，時間拘束される。確かに毎週1回行っていますので，長い場合は3時間になりますけれども。ただ，学年主任として，2週間に1回にしましょうかと言ったことはあるのですが。皆さんの意向は，一番良いのは週1回行って短くやりましょう。週1回は顔合わせした方が良いのではないですかということを伺ったことがあります。

(5) 再編された学年団の感想

平成25年度 F Dシンポジウム における
「テーマ別実践基調報告および意見交換会」
での報告資料とするために
教員より聞いた意見・感想より抜粋

① 利点

- ア) 学生指導に関して担任間の意思統一が図られるようになった(学年会議を通じて)
- イ) 学生にも指導内容が受け入れやすく、また連絡事項が伝わりやすくなったのでは。(SHRやLHR, 学年集会を通じて)「週番制」も機能している
- ウ) 全クラスの学生の様子がわかる

15

- エ) 共通の問題があれば対応に動きやすい(課題提出, 補習, 授業中の携帯の指導などで実績)
- オ) 他の教員と情報共有, 意見交換しての指導
- カ) 個々の教員の精神的負担の軽減

② 問題点

- ア) 会議が長く、時間が拘束される
- イ) 学生とコンタクトする時間が減った
- ウ) クラスの個性が出しにくい

16

- エ) クラス毎に対応を変えたほうがいいのかもあるのではないかな?

- オ) 補習の実施, キャリア支援との連携, 会議など指導教員の負担が増えた

③ 提案

- ア) 学年団を構成する教員の科目のバランスを整える, また全クラス横並びで担当する教員を配置する
- イ) 会議のやり方, 会議時間の短縮
- ウ) 毎回の議題の軽重やキャリア支援との打ち合わせの方法の見直し

17

- エ) 留年者などへの対応の基盤としてはどうか
- オ) 担任まかせではなく関係する教員が協力する場へ
- カ) 行事や成績システムについて提案してゆく

18

問題点は、このような時間が設けられると、逆に学生とコンタクトする時間が減ってくる。また、クラスの個性が出しにくい。この辺に対しては、先ほど言いましたように2年の後半で少し個性が出せるような形にしていきたいなと、また、していけたかなと思っています。一緒のことですが、クラスの個性、クラスごとに対応を変えたりしていきたい。

提案として、このようなことが出てきました。次のことは校長先生にお願いしたことがあるかもしれませんが、難しいかもしれません。5人の先生が指導教員になりますが、科目のバランスをできるだけ揃えてほしいといいますが、例えば数学と英語ばかりで、その先生ばかりで5名が揃うのではなくて、理科、社会を偏りなく配置していただければ、学年で成績不振の学生が情報交換できるのです。そのようなことで、このような提案が出てきました。あとは少し細かいことです。

先ほど言いました留年生の対応がまだ試行錯誤です。これといった方法論が無く、模索している段階です。

これを設けましたのは、図が無かったのですね、私の資料は。今までの報告内容は再編の定義、目的、理由、学年団の活動ですね。それを会議内容とか、実際の内容の報告をさせていただきました。少し簡単に、今から2分程度で終わろうかと思います。資料も入っていますが、そのような学生指導を行う上でこのようなことを心に刻んで行う方が学生の心に通ずるんじゃないかということで紹介させていただきます。

なっとくしての学生指導

(1) 学生指導の必要性

(2) 学生指導の根底

20

人づくり支援という自覚です。この辺の項目は省略します。これは一つの考えで、いろいろ意見が出てくるとは思いますけれども、人間力の向上，このごろ人間力というのが出てきますけど，その向上のもととなるようなことを育てていこうという心を持っていないといけないのではないかということです。

3. 学生指導の必要性

(1) 人づくり支援

- ① より社会人らしくなるための協力と向上支援
- ② 社会の継続・維持・発展のため人材育成
- ③ 社会で有為な人間育成
- ④ 文化の継続・維持・発展のため人材育成

21

(2) 人間力の向上の素

- ① 成長への意欲
- ② 協調性と調和への努力
- ③ 知識と知恵を基にした良識・徳の希求
- ④ 自主性の涵養と修得
- ⑤ 社会で有為な人となる努力

22

そのようなことを念頭に入れて、学校そのものは全ての活動が本当は教員としては教育の場にあるということです。素に戻りたいとかもあるかわからないけれども、一つの接触、他愛ないすれ違いの挨拶もある意味では教育の場であるわけです。ただ、そのように構えなくても、互いに良くなっていこうという思いで接触していたら良いと思うのですけれど。そのような自覚も必要ではないかということです。いつでも教育的支援が必要だということです。

(3) 法律に謳う教育目標

「学校とは人格を高めるところ」

「教育基本法」より

- ・「第一章 教育の目的及び理念
- ・(教育の目的) 第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」

23

学生指導の内容をこの辺に書いていますけれども、先ほどの具体的な目標と少し変わりますが、このようなことも入れておく。今から法律を見て、法律なんかあまり読まないのがほとんどだと、忙しくてできないのですが、やはり学生指導は必要だと教員が自覚するためにはここまで戻ったほうが良いのではないかということで、資料として書かせていただきました。

教育は人格の完成だということです。人格というのは難しいということです。それでもこの辺、人を育てる、人格を完成するのが教育の目的だから、それを支援していかなければいけないということは頭に入れていかないといけないということです。

(4) 人格とは

- ① 思考・行動・言葉・肉体の総体である。
- ② 発展と調和への意思・力が高まる思考・行動・言葉・肉体を得る努力が人格の向上を促す。
- ③ 学校での学びはすべて人格向上に直結する。

24

(5) 学校での学びと指導

- ① 授業は知識の高まりという学びの場だけではない、あらゆる人間的学びがある。
- ② 授業は共通のことを集団で迫及し、協働する社会の模擬体験の場でもある。
- ③ 授業の場だけでなく、教員の注意・助言は人格向上の支援であり、教員自身の高まりにも繋がる支援である。そのような支援でないといけない。

25

4. 学校での学生指導

(1) 学生指導内容

- ① 基本的な生活および学習習慣の定着
- ② 礼＝社会的なマナーとして規程されている（授業の始まりと終わりの挨拶、質問の仕方、レポートの整えかたなど）方法に沿った動作や言行など
- ③ 畏敬と羞恥の涵養
- ④ 称賛の心、批評の心の育成
- ⑤ 権利と義務およびそれらの一体性の理解

26

(2) 学生指導と家庭教育

- ① 家庭で行なうことが基本で高等専門学校ではその行いを補助・支援する
- ② 先に生まれた者として行なうのであって、高専の教員だから行なうのではない
- ③ 大人としては当然で、高等教育機関と言えども、学校教員としても行なうべきである

27

これが先ほどカットしましたけれども、法律に対する、ある意味で人格とは何かと、こういうことを身につけた人たちだということも言えるのではないかなと。そういう意味で、人生観、世界観の形成をある程度教員も目指すべきだということです。

ここで学年団再編成の法的根拠があります。「教育を受ける者は心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。」だから、組織的に行われなければならないことで、再編は間違っていなかったと私は思っています。

(3) 法規に見る学生指導

① 人格規定

「教育基本法」より

「第一章 教育の目的及び理念

- ・(教育の目的) 第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。(再掲)
- ・(教育の目標) 第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

28

一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと

四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」

人生観・世界観の形成支援

29

② 学校・教員の使命

「教育基本法」より

「（学校教育） 第六条 法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。 2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

（教員） 第九条 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。 2 前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。」

30

「学校教育法」より

「 第十一条 校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

第十二条 学校においては、別に法律で定めるところにより、幼児、児童、生徒及び学生並びに職員の健康の保持増進を図るため、健康診断を行い、その他その保健に必要な措置を講じなければならない。 」

31

問題は家庭との連携ですが、先ほど飛ばしましたが、家庭ばかりに、例えば高等教育機関だからしつけは家庭に任せたら良いのではないかという考えも、もしかしたらあるかもしれないかもしれませんが、先ほど言いましたように、人格完成の支援をするためには学生指導が必要ということと、例えば保護者は子の教育に当然第一義的に責任を持つとか書いていますが、この下を見てください。「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は教育にそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力」も自覚しまして、先ほど活動報告には議事録は余りありませんでしたが、保護者との面談をできるだけ行うようにしています。

③ 家庭と学校

「教育基本法」より

「（家庭教育） 第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。 2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。」

（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力） 第十三条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」

32

以上、法律的な基盤とか、自分なりの個々の先生方の教育観といいますか、人生観，世界観かわかりませんが，ある程度形成する努力をしながら学生指導に当たるのが良いのではないかと考えています。

以上，報告を終わります。

【若原委員長】 金井先生，ありがとうございました。

それでは，最後の議題になりますが，学寮教育について，鈴木基伸教授，ご説明をお願いいたします。

【鈴木寮務主事（副校長）】 よろしく願いいたします。寮務担当の鈴木と申します。

本校学寮における人間教育



豊田工業高等専門学校 外部評価委員会
2014年3月14日（金）記念会館会議室

寮務主事 鈴木 基伸

これが本校を空から見た写真ですが，昨年の4月に1棟が増設され，7棟になりました。先ほど校長の紹介にもありましたように，51高専の中で一番寮生数を抱えている学校です。

豊田高専の学寮

★寮生数＝全国一（609名）

[資料1.pdf](#)

★「自治寮」に近い寮運営

- ・寮指導学生＝寮運営の主体者
- ・教職員＝側面支援

配付いたしました資料に全国高専学寮の寮生数一覧があります。ご覧いただけますように、本校学寮には609名という寮生がおり、また、現時点では、600名を超える寮は本校しかありません。それほど多くの寮生がいますと、さまざまな問題が起こるであろうと思われるかも知れませんが、本校は、現在に至るまで、比較的大きな問題もなく運営ができています。それは、やはりこれまでの教職員の努力のおかげと、何よりも寮生諸君の尽力のおかげだと思っています。

本校では「自治寮」という言葉が時々聞かれます。厳密に言えば、本校学寮を、「自治寮」と言い切ることはできないのですが、しかし、かなりの程度、寮の運営を寮生に任せております。例えば、点呼につきましては、各フロアのリーダーが点呼をとって当直教員に報告するわけですが、他高専の寮担当の方に、このことを話しますと信じられないような顔をされる場合があります。すなわちそんなに寮生を信用して大丈夫なのか、点呼簿を改ざんするようなことはないのか、というような心配をされる学校もあるわけですが、そのような問題もなく、学生がしっかりと運営をしてくれています。

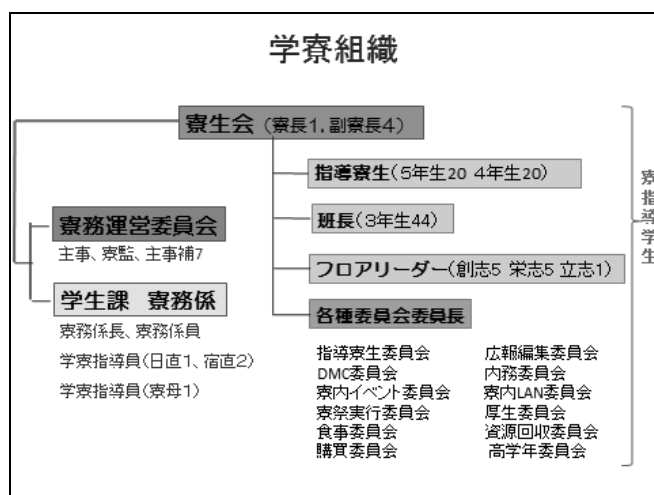
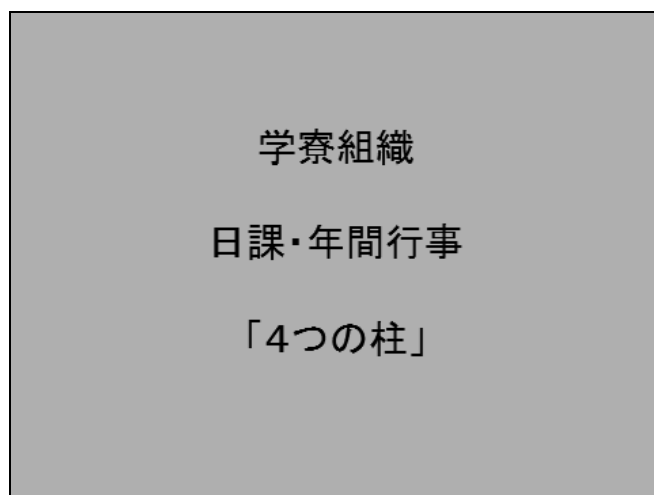
これは、一つは寮の指導学生たち自身がこの寮の運営を担う主体者であるという自覚やプライドが本校の学寮を「自治寮」に近いものにしているからだと思います。我々教職員は彼らを前面に立てて、側面支援あるいは後方支援という形で運営している、これが本校の学寮運営のスタイルです。

本校学寮の人間教育

- ・学寮組織、日課・年間行事、「4つの柱」
- ・寮指導学生の研修
- ・学寮における様々な連携・交流

きょうは本校の「学寮の人間教育」という話になりますが、ここにお示しした3つの点について触れながら、本校の人間教育を浮き彫りにしてまいりたいと思います。

まず「学寮組織，あるいは日課・年間行事，4つの柱」について申し上げたいと思います。続いて，「寮の指導学生の研修」について，最後に「学寮におけるさまざまな連携，交流等」について申し上げます。



最初のテーマですが，先ほど校長もスライドで説明いたしましたが，これが本校の学寮組織です。まず，寮生の組織としては，トップに寮生会があります。寮生会は寮長と副寮長－全員で5名の執行部で成り立っています。下部の組織として，ここにあるようなさまざまな委員会があります。それと，指導寮生，班長－彼らは低学年寮を担当するリーダーです。本校では低学年というのは1年生，2年生のことをいいますが，1年，2年の寮生のサポートをする寮生が指導寮生として各フロアに5年生1名，4年生1名，計2名おります。また，班長は3年生が務めますが，各フロア2名ないし，多いところで4名が担当しています。それから，3年生以上の高学年寮におきましては，フロアリーダーが，各フロアに1名ずついます。

以上が寮生の組織ですが，教員の組織としては寮務運営委員会があります。これは主事，それから寮監，主事補，計9名のメンバーで構成されています。また，学生課寮務係所属として，寮務係長，寮務係員，この2名は正規の職員ですが，それに非常勤として学寮指

導員（日直）が1名，学寮指導員（宿直）が2名，それに寮母が1名がいます。以上のような教職員のスタッフと寮生のスタッフとで寮を運営しております。

平日の日課		
低学年		
日 課	時 刻	
朝の 日 課	起 床	7:20
	グラウンド集合	7:27
	朝の点呼・朝体操	7:30～7:50
	食事・清掃	7:50～8:40
	施設・登校	8:40
	昼食時間帯	12:00～13:00
	夕 食	17:30～19:10
	入浴時間帯	17:30～19:50
夜 の 日 課	夜の点呼	20:00
	学習時間帯	20:00～22:30
	自由時間	22:30～23:30
	消 灯	23:30
高学年		
日 課	時 刻	
朝の 日 課	起 床	7:40～
	食事・清掃	
	施設・登校	
	昼食時間帯	12:00～13:00
	夕 食	17:30～19:10
	入浴時間帯	17:30～22:00
夜 の 日 課	点 呼	20:00（女子寮生） 22:00（男子寮生）
	天井灯消灯	23:30
	玄関施設	23:30

これが平日の日課ですが，低学年寮の寮生（低学年，班長，指導寮生）は，朝に体操を行っています。これまで多くの高専の学寮を見学しましたが，このような体操を以前は行っていたが，廃止したという学校が多く見られます。したがって，寮生が，朝なかなか起きてこなくて，朝食も摂らないので，寮の担当教員が寮内を回って起こしている学校もあるようです。しかし，本校の場合はそのようなことは皆無です。その理由は，朝，体操を行っているからです。朝7時20分に起床の放送が入りまして，グラウンド集合7時27分，7時半から約20分間の体操及びさまざまな諸連絡を行っております。そのまま食堂に食事に行きますので，摂食率はほぼ100%です。夕方は17時半から夕食と入浴ができます。実際は，部活を終えて，大体6時半ぐらいから夕食，入浴をとる寮生が大半です。夜の点呼が20時にありまして，特に低学年はそれまでに夕食と入浴を済ませなければいけませんので，大変忙しい生活となっております。点呼の後，20時から22時半までは学習時間帯となっており，自分の居室から出ることもなく2時間半勉強に集中をする時間が設定されています。そして，23時半に消灯という流れです。これが平日の日課となっております。





これは朝体操をするために各棟から小走りにグラウンドに向かっている様子です。この

ような隊形でグラウンドに集合して、ストレッチ体操を行います。終わった後、朝礼台の前に集まって諸連絡、あるいは一発芸を行ったりして、和やかな時間が流れます。これが食堂ですが、600名を超える寮生全員が同時に入ることはできません。320席という席数ですので、2回転で食事ができる形になっていますが、朝体操をしている間に高学年が食事をしますので、タイムラグが生じて朝の場合はあまり大きな混乱はありません。夕方も部活動があり、時間がずれますので混乱はないのですが、昼が一番大変で、昼は一斉に授業が12時10分に終わりますから、長蛇の列ができます。しかし、午後の授業開始の13時までには、全員が食事を終えていますので、大きな混乱もなく、何とか運営がなされています。

年間行事

- 4月 寮生総会
- 5月 寮祭
- 6月 流しそうめん
- 9月 部屋替え
- 12月 寮生総会、いも祭
- 1月 もち祭&新年会
- 2月 バレンタイン・イベント



寮ではさまざまなイベントがあり、イベントが行われるごとに寮生としての団結が強まってまいります。とりわけ5月の寮祭が非常に大きな行事で、3年生の班長を中心にさまざまな企画を練って、フロアごとの出し物とか模擬店とかステージ・イベントなどを行い、寮祭最後のフィナーレは大変に盛り上がります。この寮祭を通して、4月に入ってきた新入寮生も他の寮生との一体感と本校学寮の一員としての自覚が生まれます。そういった意味でも、寮祭は、非常に意義のあるイベントと言えます。



寮祭

これがドミトリー大賞です。フロア毎に技を競って、優勝したチームには3万円の焼肉券が贈呈されます。優勝を目指して頑張ることを通して団結が強まってまいります。



これは女子の演技です。ステージでさまざまなイベントを行ったり、このような模擬店を行います。最終日のフィナーレでは、このようにキャンプファイヤーを行い、最後は火の周りを踊りまわります。この2日間の寮祭で寮生たちの心は一つになります。





寮祭

「4つの柱」

- 朝体操
- 学習時間帯
- 指導寮生・班長制度
- アセンブリ

本校がずっとこれまで守ってきた「4つの柱」というものがありまして、これは先ほどの朝体操、これは年によっては、「朝体操をやめてほしい。」という意見が出るのですが、朝体操は、寮生の健康維持や学寮の日々の問題点把握等、重要な意味がありますので、今後も続けていきたいと思っています。それと学習時間帯、それに低学年を支える指導寮生、班長制度、さらに、月に1回行われる全寮生が集うアセンブリ、つまり、集会ですね、この4つを柱として運営をしています。

寮指導学生の研修

寮指導学生が1センチ成長すると、
低学年寮生は1メートル成長する。

それから、次に寮指導学生の研修について申し上げますけれども、やはりこれだけの多くの人数の寮生がいる場合にはリーダーの存在が欠かせません。私が読んだ本に、「親が1センチ成長すると子供は1メートル成長する」という言葉が書かれていました。私は、その言葉が大変に心に残りまして、これをもじって、私は、「寮指導学生が1センチ成長すると低学年寮生は1メートル成長する」というように日頃から彼らに呼びかけています。その意味で、私たち教職員が一番連携をとるのは寮の指導学生たちでありまして、彼らが成長するためにはどんな支援も惜しまないようにしようという姿勢でいます。

寮指導学生研修会(春)



平成25年度 寮指導学生

[20130328H25年度寮指導学生研修会\(春\)要項.pdf](#)

まず、春に寮指導学生研修会が行われますが、来年度は今月の末日から行われるのですが、ここでまず1年間の活動方針の検討や学寮ルールの確認、あるいは、各委員会の予算案の作成を行います。外部講師による研修も行っています。昨年度は、東日本大震災に遭われた教育後援会の理事さんから話を伺いました。それから、今年度は寮の施設・設備の保守をしている学寮指導員より寮内の施設・設備の問題点等の話をしてくださいました。来年度は豊田消防署から署員の方に来ていただいて、危機管理についてお話をさせていただくことになっています。

寮指導学生研修会(秋)



外部講師による合同研修

そのような研修会を春と秋に行っていますが、秋は外部施設で行っており、例えば、昨年
の場合は、美浜の少年自然の家で研修を実施しました。班長が1泊2日、指導寮生が1泊
2日、中日にこのような合同研修を行っています。合同研修の外部講師には、一流の方を
お招きし、一昨年度はプロの司会者による話し方の講座、昨年度はアイスランドの大使を
務められた方によるグローバルな人材のあり方についての講演をしていただきました。今
年度はコーチングの専門家によるコーチングのワークショップを開催しました。来年度の
講師も既に決まっていまして、NHKラジオの英語リスニング講座の講師の方に来ていた
いて、国際化について話をさせていただくことになっています。このように、寮のリーダ
ーたちがさまざまな研鑽を通して成長すること、これがやはり一番のポイントと捉え、寮指
導学生研修会を春と秋に行っております。



それ以外に、実は本日も行っているのですが、昨年度から赤十字の救急法講習会を行っ
ています。昨年は環境都市工学科の教員が中心となってこの講習会を実施しましたが、今
年度は寮独自で講習会を行っております。これは3日間の講習で、講習を受けますと認定
証が授与されます。実はこの講習会を受けた受講生のおかげで間一髪、1人の寮生の命が
失われるところを救われたということがありました。夏休み明け早々のことですが、朝体
操が終わって食堂の外で順番を待っている間に、1人の寮生が意識を失って倒れてしま
いました。そこに先ほどの赤十字講習を受けた寮生たちがいち早く駆けつけてきて、AED
を使って緊急の蘇生を行ってくれました。そのおかげで1人の寮生の命が救われました。
病院の方々も、その対応の的確さに驚いておられました。AEDにデータがきちんと保存
されていて、その後どのように対処すればいいかということも全てそのデータのおかげで
できたということでした。現在、その学生は元気に生活をしておりますが、このように偶
然、教職員が不在で、対応が遅れた際に、学生がこのような対応をしてくれて、人命が救
われたということがございました。そのような事例がありましたので、このような講習会
を今後も続けていきたいと考えています。

寮生間の連携・交流

- 日々の点呼
- 各棟ミーティング
- 班長ミーティング
- 役員会
- マテカ(MATECA)
- 留学サポート



最後になりますが、さまざまな連携及び交流についてお話をしたいと思います。

寮生は、日々の点呼、各棟ミーティング、班長ミーティング、役員会、マテカ、留学サポート等を通じて、さまざまな人たちと色々な形で交流しています。

日々の点呼は、毎日、朝晩行っているものですが、ここでは、単なる点呼だけでなく指導寮生、班長たちと低学年との、いろいろな交流が行われております。各棟ミーティングというのは毎週水曜日に寮のリーダーたちが棟毎に集まって、現在の寮の問題点等について、話し合う会合です。

班長ミーティングというのは、毎週水曜日に行われる班長の集まりです。班長は、次期指導寮生の候補者です。指導寮生の中で2人「班長長」という役職者がいまして、班長長は、ディベートや、ディスカッションや、スキットをさせたりして班長をリーダーに育ていきます。

また、役員会では、毎週日曜日に、寮生会の執行部と委員会の委員長が集まって打ち合わせ等をしております。

マテカというのは、数学とか物理といった理系科目が苦手な低学年寮生の勉強面をサポートする高学年寮生のグループです。

また、留学サポートにつきましては先ほど校長から話がありましたように、毎年たくさんの学生が留学に行きますが、それらの多くの学生が寮生ですので、留学から帰ってきた寮生が低学年に様々な形で留学のサポートをしています。留学するにはどのようなことに気をつければいいとか、どんな準備をすればいいかを助言してくれています。

寮生と教職員間の連携・交流

- 朝体操
- 指導寮生委員会
- 寮生会と寮務運営委員会との連絡会
- 高学年フロアリーダーとの意見交換
- 寮務係・看護師・学寮指導員・寮母との連携

また、寮生と教職員間の連携、交流ということでは、やはり朝体操—これも詳しくは資料に書かせていただきましたけれども、朝体操は、ただ体操をするだけの場ではありません。寮務主事と寮監は毎日この朝体操に参加していますが、そこで寮のリーダーたちと日々起こるさまざまな問題の報告を受けています。同様に、当直の先生方に何か問題があったかどうかを伺っております。したがって、朝体操は、リアルタイムで現在起きている寮内の問題点が掌握できる時間と言えます。

また、毎週木曜日の夜に開催する指導寮生委員会も主事と寮監が出席していますが、この委員会で低学年寮を中心とする様々な問題が意見交換されますので、この内容が翌週の寮務運営委員会に反映できるため、寮運営の生命線と言える委員会です。その他、ここにあります通り様々な連携が図られています。

他高専・他校種の学寮との交流



第6回 全国高等専門学校学生連合会(全寮連)会議



鈴鹿高専・久留米高専との3校合同交流会

平成23年度は、
海陽学園中等教育学校(全寮制)とジョイント・カンファレンスを開催

その他には、他高専、あるいは他校種の学寮との交流も盛んに行っています。これまでですと和歌山高専・沖縄高専・長野高専・久留米高専・鈴鹿高専を始め、多くの高専の方々が本校に来てくださったり、あるいは我々からお邪魔したりしました。あるいは平成23年度には海陽学園の中等教育学校、ここは全寮制の学校ですが、この学校の学寮リーダーの方々とジョイントカンファレンスを開催いたしました。

近隣との交流・地域貢献



地元西山区の住民との交流(「桜を見る会」西山区民会館にて 2013.4.7.)

最後になりますが、近隣との交流についてお話しします。昨年の3月、新寮ができた時に地元の西山区の区長さんがテープカットにいらっしゃったのですが、その際に、「4月に桜を見る会を開くから、皆さんも来てください」とおっしゃってくださいまして、指導

寮生，班長たちを連れて交流会に行っていました。また，本校の近くに認知症のお年寄りが住んでいらっしゃる「ひまわり邸」という施設がありますが，この左側の黄色いユニフォームを着ている方が所員の方ですけれども，この方々との時にお会いしたことがきっかけとなって，指導寮生，班長を中心にボランティア活動として「ひまわり邸」に月に1，2回お邪魔してお年寄りの方とお話をするという交流が始まりました。

**本校学寮の「人間教育」は、
学生(寮生)・教職員 双方の「人間教育」**

最後に申し上げたいのですが，「人間教育」とタイトルを付けましたけれども，もちろん寮生の成長がメインではありますが，寮生と関わる私たち教職員も彼らから学ぶことが非常に多くて，教職員，学生双方の人間教育であることを強く感じます。特に，最近では，若手教員が寮を担当することが多く，寮の担当をした若手教員が，その後，指導教員（クラス担任）となるという流れがここ3年ほど続いています。そうした意味でも，教員にもいい自己研鑽の場となっているのが本校の学寮教育ではないかと思っています。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

【若原委員長】 鈴木先生，どうもありがとうございました。

それでは，最初にご説明させていただきましたスケジュールに従いまして，少し休憩をとらせていただきまして，その間に外部評価委員の先生方にはいただいた資料を見て，少し論点を整理していただきたいと思います。

休憩は10分程度ということになっていますので，3時半ぐらいからでよろしいでしょうか。

では，3時半から再開ということで休憩に入らせていただきたいと思います。

（休 憩）

【若原委員長】 それでは，予定の休憩時間が終わりましたので再開させていただきますと思います。

それでは，事前に送付しました資料，先ほどいただきました説明，特に豊田高専の学校説明，また3名の先生方にご報告いただきました今回の評価課題などにつきまして，ご質問並びにご助言を伺いたいと思います。いかがでございましょうか。足立委員，お願いします。

【足立委員】 同窓会の足立でございます。

まず資料1の稲垣先生のご報告ですが、一気通観のプログラムですね。産官学の今後の進め方、今後への取り組みということを少しご説明いただけるとありがたいのですけれど。

【若原委員長】 済みません。まず先ほどの説明の中で、金井先生からご説明いただいた時に、机上配付資料についての説明が抜けていたようですので、補足をいただきたいと思います。まずこれをお伺いしてから、今の質問に戻りたいと思います。

【金井教授】 失礼します。机上配付資料をご覧ください。

これはなぜ机上配付資料としたかといいますと、現在、教育改善推進室で単位を取らない学生の特徴を分析しているところです。その効果的な指導を考えていこう、あるいは上手くいったら提言しようということで、調査を進めております。その調査の途中報告が一昨日、会議に資料として出ました。これはちょうど学年団の取り組みの再編前と再編後の一つの資料となるということで、早速この報告に使っていいかということについて校長に了承を得ました。

1枚目を見てください。

簡単な見方を説明して、これが一つの学年団再編の成果とも、まだ長い目で見ないとわからないのですが。ちょっとした短期間ですけれども、成果とも言えるのではないかとということでご報告させていただきます。

1枚目の一番下の、各学科の資料は一旦とばしまして、学年全体のことを紹介します。まず、1年ですね。それは何の棒グラフかといいますと、平成22年度、ブルーの長さがCの単位科目数ですね。1年生は200名定員です。それに1人当たり何科目かを履修して単位評価を得ています。だから、大体Cの評価の項目は900弱あったということです、全体で。Fの単位科目が大体200あったということです。そのようにご覧ください。平成22年度は再編の前の学年です。再編した後の1年経過した平成23年度、これが再編した、1年間指導を終えた1年生のCとFを足した、そのような評価のある科目数です。学生数ではありません、科目数です。そうしますと、平成22年度、再編の前は1,100程度の科目数が再編後には700弱の科目数に減っているということで、あと3年間、ずっと再編後の学年になりますけれども、そのようにご覧ください。

右側の2年生は、当然23年度の1年生から再編しておりますので、2年生の再編は平成24年度からになります。平成23年度の再編前の学年ですね。同じく1,200ちょっとのCとFの科目数で、平成24年度、再編後はちょっと減っているのではないかと。ただ、さらにまた戻るかもわかりませんが、この3、4年間の資料を見る限りは少し効果が出ているのではないかなということです。

もう1つ、これは見方だけお話しします。その2は、入学年度ごとの集計になっています。かつ学科ごとを色分けしています。棒グラフの長さはFとCの科目数を表すのは同じです。参考にしていただければと思います。ありがとうございました。

【若原委員長】 ありがとうございました。

それでは、今の机上配付資料の補足説明も参考にして質問をお願いします。

それでは、先ほどの質問の続きということで、一気通観のご質問についてお願いします。

【稲垣教授】 地域共同テクノセンターの稲垣です。ありがとうございます。

このプロジェクトは、平成21年度に文科省の事業に採択されました。21年度、1年目は準備の期間に充てまして、平成22年度から1期生を受け入れました。22年度、23年度、24、25と続きまして、それで5年間で補助金は終わります。今年度が最終年度でした。

今年度は移行期ということで、これまでほとんど非常勤の特命教授の方に頼っていた部分をできる限り我々で担当しようと思いました。そして、来年度の全く補助金が無くなるという状態と上手く結びつけることを検討しました。それが自立化という意味です。来年度からは完全に文科省からの補助金は無しということです。

そのために、今年度は特命教員1名、技術補佐員3名に加え、常勤の教員5名に担当をお願いしました。それも、副校長、テクノセンター長、それから専攻科の指導教員といった教員で担当しようと、意識を変えるところから行ってまいりました。しかし、学校だけでは到底実施できませんので、先ほど紹介したとよたイノベーションセンター、豊田市、商工会議所と連携して実施していこうということです。

幸いにも我々の熱意が通じまして、来年度、この一気通観のプロジェクトに豊田市から年間900万円の補助金をいただくことができました。この補助金により、今年度の非常勤スタッフの人件費は確保できるかと思います。もちろん我々が主導でやっていきますが、材料費及び修理費等の諸経費もかかりますので、その費用に充てたいと思っています。何とか自立化に向けたいいスタートが切れたかな、と思っています。

それから受講料については、今までは無料だったのですが、年間で1名5万円という受講料を設けました。豊田市から多額の補助金を受けているということで、市外の企業の方は10万円という設定にさせていただいております。

それから、3Dプリンターを最近4台購入しました。来年度は、これを有効に使っていききたいと思います。もちろん機械加工がメインですが、機械加工では精度が出ないような部分に関してはこのプリンターを有効に使えたら、さらに効果的ではないかと思っています。

それから、「3Dスキャナー」といって、2つのカメラを使ってステレオで撮った画像をもとに三次元データを生成する装置を購入しました。テーブルの上に物を置いて回転させるだけで三次元データがとれるという大変な優れものです。ドイツから輸入したのですが、これも是非使いたいと思います。そしていろいろと新しいものを使いながら、次世代の製造技術を体験してほしいと思っています。このような体験は、受講者が会社に戻った時に、ここに使えないか、テクノセンターに行けばこの機械があるので、使ってみようか、というように、産学連携の活動に結び付いていけば幸いです。

【足立委員】 ありがとうございます。

【若原委員長】 他にはいかがでしょうか。

【笠井委員】 いずれも素晴らしい取り組みで感心しました。是非このまま続けていただきたいと思います。

まず、今説明していただきましたが、私はCとかFという意味がわからないのですけれども、少し教えていただけますか。

【金井教授】 失礼いたします。

本校は、本日の資料にもありますけれども、非常に良い成績がAです。その次、Bです。普通がCです。A、B、Cまでが単位が取れているのです。Fは、単位が取れていないということです。CはFに近いですから、評価として。Cは単位は取っているけれども、ぎりぎり取ったという意味があるのです。

【笠井委員】 DとかEはないわけですか。

【金井教授】 ないですね。Fはfailureですね、多分。Cの次はDですから。failureなので、順番に来たのではない。Cで終わっています、評価のローマ字は。

【笠井委員】 ということは、A、Bの人が増えたという。

【金井教授】 いいようにとればそうです。留年生の分析、例えば、何とか留年せずに進級します。ただ、Cを多く取っている学生は失礼な言い方ですけども、留年予備軍になってしまいます。ぎりぎり取っている場合も考えられますから、Cというのは。そういう意味でCも入れて集計したということです。

留年に関わるというのは、つまりF単位科目が多くなると留年になります。何単位か詳しいことはこの場ではお話ししませんが、Fだけでも留年するかしないかの集計はいいのですが、やはりCも集計して、連続的な留年が起らないように学年指導していきたいので、そのような集計をしましたけれども、よろしいでしょうか。

【笠井委員】 はい。それで引き続いてですが、先生にお願いしたいのですが、最初の再編成をした目的が、子供たちに基本的な生活習慣とか、学習習慣を身につけさせたいというために編成をし直したと思うのですが、その成果、学習の成果は上がっているかと思いますが、基本的な生活習慣についての成果というのは3年ぐらい取り組まれたと思うのですが、何か出ていますでしょうか。

【金井教授】 済みません、それに関する調査は行っていないのです。ただ、遅刻は少なくなったと思いますので、集計したいとは思いますが、まだ行っていません。

ただ、これは先生方の好意あるアドバイスですけども、授業態度が良くなったとお聞きしたことがあります。後々やはり集計を考えられるのは、遅刻数とか、未届けの欠席数、あるいは保健室、つまり悩み等の相談件数等を調査対象にして進めていきたいと思っています。

再編の理由である生活習慣、基本習慣について質問されました。それは以前も行っていたと思います。それが個々の教員の裁量で行われていました。再編後は、その情報共有、あるいは協調して、あるいは互いにアドバイスを受けられる、そのような意見交換ができるというのは便利ですね。再編のメリットです。その前から既に指導教員はおられますので、協働してもう少しパワフルに実施しようということで充実という言葉を使わせていただいています。よろしいですか。

【笠井委員】 はい、わかりました。是非、継続して続けていただきたいと思います。

【金井教授】 はい、よろしくお願いします。

【笠井委員】 違う質問をしてよろしいですか。寮の人間教育を実施されておられるということで、これも素晴らしい取り組みだと感心しました。やはり伝統の力がかなりあるのではないかと思います。寮に入らずに通学しているという方はどのぐらいいるのでしょ

うか。

【鈴木寮務主事（副校長）】 およそ1,100名の学生がいて、600名が寮生ですので、約500名が通学生となります。

特に1年生の場合は、希望すれば、全員入寮を認めていますので、1年生5学科トータルでも十数名のみ通学生で、あと全員寮生という状況です。

【笠井委員】 本当に素晴らしい取り組みだと思いますので、是非これも継続いただきたいと思いました。

【鈴木寮務主事（副校長）】 ありがとうございます。

【笠井委員】 それからもう1つ、最初のご報告ですが、ものづくり一気通観エンジニアは、豊田高専、この豊田地区だけの取り組みなのか、もしくは、全国的にも行われているのかということと、また名称が素晴らしいと思うのですが、どなたが考えられたのでしょうか。

それから、地域に出前講座等を行っていただいています。これはいつ頃から始まって、また、出前講座については、豊田市の小・中学校があまり利用されていないようですが、どのぐらいアピールしておられるのかということなのですが。

【稲垣教授】 まず、ものづくり一気通観ですけれども、もともとの事業は、「地域再生人材創出拠点の形成」という、地域を再生する人材をつくろうという趣旨の事業に応募をしました。だから、それぞれが地区ごとに、うちの地区はバイオ系とか、うちの地区は農業系とかいうようにいろいろな人材を育成するプロジェクトが立ち上がっています。豊田地区はこのような土地柄ですので、製造業で行おうということになりました。

それが全国で5年間募集がありまして、53プロジェクトが採択されています。そのうちの一つになりますが、高専で採択されたのは全国で6校です。平成18年から平成22年度までで終了ですから、21年度に採択された本校は、最後のほうです。これまで、自立化に向けて年間900万円という補助金をいただいていたのは全国で一、二を争うということで、国からも大変期待されています。今後とも頑張りたいと思っています。

「一気通観」という名前が出てきたのは、10年くらい前だと思うのですが、もっと前かもしれません。仕事をやっている、どうしても自分のラインの自分の担当のところだけしか見られなくなってしまう。それではいけないということで、最初は一気通観の「通観」は、普通の「貫」を書いていたらいいんですが、ある時からそれよりも「観る」という字を当てたほうがいいということで浸透してきました。ですから、トヨタグループ系の人たちはかなり普通に使っている言葉かと思います。それが世間には物珍しいと、そこも採択の一つになるであろうという我々の読みもありました。

それから出前授業ですが、今年は愛知県全部の小・中学校に案内を送りました。だから、例年は近いところだけですが、今年は愛知県全域から要請があつて、豊橋地域からも依頼があり、行くのも大変でした。豊田市があまり無いのは、たまたまかと思います。公開講座にはたくさんの豊田市の中学生が来てもらっていますので、かなりアピールはしていると思います。今後もっとアピールするにはどうしたら良いかということを考えなければならないと思います。

補足ありますか。

【齋藤教授】 豊田市の小・中学校へはパンフレットをお送りしておりますし、教育委員会にもお送りしてお願いしております。今後ともよろしくお願いします。

【笠井委員】 本当に素晴らしいプログラムですので、是非利用させていただきたいと思いますし、また、一気通観も先日、議会で説明がありまして、議会は19日が閉会日ですが、そこで最終議決される見込みですので、是非この一気通観も続けていっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【稲垣教授】 こちらこそよろしくお願いします。

【笠井委員】 どうもありがとうございました。

【若原委員長】 それでは酒井委員、お願いします。

【酒井委員】 私の質問に短くていいので答えていただけたらと思います。

学校の教育はいろいろな形があって、授業という言葉が使われたり、講義という言葉が使われたり、あるいは話し合い形式のような、対話形式のようなものが使われたり、小学校のスタイル、中学校のスタイル、高校のスタイル、あるいは日本のスタイル、海外のスタイルといういろいろなものがあると思いますが、学年で先生が集まられる中で、どのような指導スタイルを高専教育の参考にしましょうかというような話はあるのでしょうか。

【金井教授】 モデルみたいなことですか、学年指導の。

【酒井委員】 そうです。これが一番というものは決めつけられないかもしれませんが。

【金井教授】 参考ですか。

【酒井委員】 そうですね。ほかのものをみてみて、やっぱり豊田高専のやり方は良かったとか、他を見てみて、あそこも少し取り入れたらというような将来の計画があるのでしょうか。

【金井教授】 将来ということですか。

【酒井委員】 はい。

【金井教授】 過去のことを少しお話しさせていただきますと、気になりました他の高専ですね、鈴鹿とか岐阜をお伺いしたら、頑張っている先生方は個々ではおられる。ただ、まだ学年団を強力に組織化していることはないということをお伺いしています。

もう1つ、そういう学年団の試行といいますか3カ年の間に、先ほどお話ししましたように教育改善推進室で学生指導をテーマにしたシンポジウムを開きました。そういう啓蒙は続けたほうが良いとは思っています。

その学年団の今までの経緯、私はここへ来る前、10年間高校の教師をしていまして、ここへ来る直前は学年主任をしていまして、私は高校の感覚を持ち込まないで高等専門学校独特の学年団をつくりたいと思っていたのですが、何か出ているかもわかりません。そういう高等専門学校の学年団は初めてだと思います。もう少し調べていかないと他の高専、もっと遠い北海道や東北の高専をまだ調べてないので、調べていかないといけないですけども、まず実践して反省して、それを繰り返している。まだまだ試行の段階が拭い切れないと。先生方の意識もまだアンバランスで統一されたものでもない。学生指導はこの程度でいい、いやもっと行うべきだ、その意見はまたいろいろあると思うのです。言われ

ましたように、やはり他の高専の状況を今後調査して、多分、教育改善推進室も協力するかわかりませんが、情報収集です。

先ほどの保健室とか出席回数も、今後の調査資料として分析をしていかないと。正直言いまして、担当として試行錯誤で模索してずっとやってきたというのが実感です。ある程度落ちついた段階に入ってきているのではないかということで、言われましたことを今後進めていきたいなと思います。よろしいでしょうか。

【酒井委員】 ありがとうございます。

私の経験の中から話をさせていただきます。スポーツのコーチングをしている場面を1つ思い浮かべて下さい。学生たちの練習にひとつの列があって、ボールを打つ順番待ちをしながら、シュート練習をしている場面です。練習の順番待ちの列が余り長過ぎると後ろでぺちやくちゃ話す人が出てきます。安全性は確保しなきゃいけないですけど、同じゴールに向かって2つの列に分けて、右からも左からもシュート練習したら何が変わるでしょうか。忙しく練習する場面が増えて自然と無駄口が無くなります。自然と集中してくるのです。叱らなくても練習が流れに乗ってリズムにのってそれを応用してくると自然に集中できていくのだと、というお話を日体協のプロの講師の方から学んだことがあります。練習方法を考えたこともありました。授業とはかけ離れているかのように感じられるかもしれませんが、何か学生にとって興味が自然と出てくるような方法を模索していただけないかと思っております。

もう一つ質問があります。

一気通観エンジニアのテクノセンター関係のお話を詳しく教えていただきまして、大変ありがとうございます。

新聞等に報道されていて、非常に成果があるところがわかるのですが、一緒に参加しているわけではないので、わからないところを教えてください。最初はアイデアのみの製品を、実際作ってみて失敗して、最終的にそこそこのものになっていたり、より改良されて素晴らしいものになっていくにはそれなりの過程があると思うのです。企業の中では、デザインレビューとか、プロダクションレビューとか、チームのレビュー、プロジェクトレビューとか、いろんな言葉があります。その中でも段階があって、プレリミナリーレビューとか、インターナルレビューとか、クリティカルレビューとか、さらにいろいろな用語があります。そのレビューごとに何をするかというと、多くの企業では、プレゼンテーションを行っています。企業の人間は社会人で、それを完成しなければいけないと給料がもらえないかという危機感や、自分のやりたいポストに残れないかもしれないという危機感があるので、一生懸命プレゼンテーションを行っていると思います。

学生たちが開発半ばでプレゼンテーションを行い他人からのレビューを受けるとしたら、その準備は難しいでしょうか。私が考える一つの方法としては、役割を最初から話す人、聞く人というふうに決めておいて、聞いていて最後に質問する人はそれぞれの人に役割を与える。例えばあなたは技術者、あなたはエンジニア、あなたは生産技術者、あなたは品質管理です、QAです、あなたは現場で生産する人の立場です、あなたは現場で生産する人をスケジュールどおりに動かす工場長の立場ですというように役割分担をさせておくと、

学生でも自分が企業人になったように思い込み、普段話さない子でも話し出しやすいのではないかと思います。そのような取組みは何かありますか。

【稲垣教授】 学校ではなかなかデザインレビューという言葉は使わないのですが、このプロジェクト授業では最初から学生たちにはデザインレビューという言葉を使って実施しています。何か行うたびに、班で決めるたびに、デザインレビューをする。それは徹底させています。その辺は企業の方がもともと持っているノウハウを活用しています。

専攻科の学生ということもあって、もともとモチベーションが高い。それから、本講座を受講する企業の方は、モチベーションが高いので、特に我々があなたはこれ、あなたはこれと言わなくても、班の中で順番に自分たちで決めて、順番にプレゼンをするようなことを行っています。今のところ、あまりこちらが作為的に何かすることはなく、うまくいっています。デザインレビューは毎月1度ぐらいの割合で実施しています。

【酒井委員】 例えば機械工学科の目、電子の目、情報の目、それから環境工学、建築の目というように、なりきる役割を交代して意見をかわすという場面もあるとよいかと思います。社会に出て企業にいらっしゃる方、公務員さんで市役所や県庁にお勤めの方も一緒かと思いますけど、現場監督の立場とか、品質管理者の立場とか、プロジェクトを何が何でもスケジュールどおりにしなきゃいけない立場とか、それぞれの立場や役目があるので、普段よく発言する子にもその子が発言しなさそうな役目を無理にでも与えて、その立場の人が話しそうなことをわざと話しなさいというような、ロールプレイングを実施されることもおすすめします。

【稲垣教授】 ありがとうございます。

【酒井委員】 寮の関係ですが、鈴木先生、いつもお世話になっております。寮では、4本の柱があって、それを崩さずにやってきたから上手くいっていますとおっしゃるところは私も共感しております。

学校に1年生が入ってきたら、その1年生の子たちが希望する限りは全員が入れるということも豊田高専のシステム上の大きな特徴だと思います。それを継続しているからこそ、今時の子たちがそれほど団体生活に慣れているわけではないにもかかわらず、寮生活を好きになっていくのだと思います。寮に残りたくて仕方がないような子たちが大勢育っていくことはとても大切な事だと思います。是非ともこのシステムを続けていただきたいと思います。校長先生、よろしくお願いいたします。

【若原委員長】 それでは、よろしくお願いします。

【鈴木委員】 最後に少しだけ、質問ではなくて、意見というか感想だけ述べさせていただきます。

金井先生の学年団も、非常に良い活動だと思いますし、ここに書かれているように、やはりそれぞれの学科の先生毎にいろいろな指導内容とか連絡内容が違っていると、学生同士がどうしても連絡といいますか、いろいろな場面で部活等を通じて私たちのクラスではこんなことを担任の先生がおっしゃっている、いや私たちは聞いてないとか、そのようなところで不信感とまでは言いませんが、そういったことも考えられますし、先ほどのいろいろな習慣をするにしても指導法の面においても統一をされているということが非常に良いとい

うことを思いました。是非続けていただきたいのと、それから各行事の目的とか意義を必ず伝えるということも非常に良いかと思っております。私たち社会人においても、時間が無いと、面倒くさいと、これをやれと言うんですけど、やる意義ですね、なぜそういうことをやるかというのを伝えないと、その後の創意工夫というか発展をする上では、やはり一つの行動をするにしても、なぜやらなきゃいけないかというところを若い時代からしっかりと教えていただくと、より良い人間形成になるかと思っております。

それから、鈴木先生の寮のご報告ですね。今、酒井さんがおっしゃったように、体操とかそのような4本柱。特にお願いしたいのは、学生が辛い、やめたいというような、特に朝体操だと思うのですが、是非残していただきたいと思います。私の出身学校は、学生が集まらないから、辛いのはやめて、例えば、冬のマラソン大会もやめてしまおうとか、そのような話を聞くのです。非常に寂しい思いをしますけど、やはり社会に出ますと辛いことはいっぱいありますので、今、会社で困っていますのは、辛いことに直面すると、やっぱりメンタルでどうしても避けたいとか、こういう若い時代にそういった、体操すればいいかということは別かもしれませんが、そういった辛いことに対してもどうやって向き合っていくか、それに対してどう乗り越えていくかというのは非常に大事だと思いますので、是非続けていただきたいなということと、それから寮生指導の研修会もやはり指導する者があるべき姿というのをこのような研修を通じて学んでいただくと、社会に出てからも非常にリーダーシップをとるには良い場かと思っておりますので、是非このようなことを通じて、引っ張れる人間といいますか、指導できる人間をたくさん作っていただくとありがたいなと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

【若原委員長】 ありがとうございます。

最後になりましたが、私から少しだけお願いと最後のまとめという形で。

先ほども足立委員から質問がありました一気通観ですが、是非受講生の追跡調査を行っていただいて、その効果をしっかり把握していただき、今後継続するときにPDCAサイクルを回していただけるようにすると、さらによいプログラムになるのではないかと感じます。

それから、レビューはもう既にされているということですので、こちらは是非継続をお願いしたい。

もう1つ、ここでお願いしたいのは、実は私の研究室で行っている方法ですが、自分が使うツールを自分で設計製作して、次の年にそれを使って自分が研究をすることで、設計者が次のフェーズでユーザーになる。使ってみて問題があると直すということです。こういったことをやられているかもしれないですけども、課題の中に入れていただけると、技術だけ持ってきて作って効率化というだけでなく、やはり最後はお客様が使って、売れるものですから、そういった認識を持ってもらえるようなプログラムを少し入れていただけると良いのかなと感じました。

それから学年団ですけど、これは非常に良い取り組みだと思います。私も高専卒業生ですけど、このような組織的な取り組みは全く無かったものですから、必要なことがあったら、先生のところに行って聞かないと教えてくれないという環境で育ちましたので、非常に良

いかと思います。これも追跡調査をしていただいて、問題点を把握し、だんだん良くなっていくようにすれば、豊田高専モデルとして全国の高専、あるいは全国教育界に広げていけるぐらいのことを目指していただくとますます良くなるのではないかと感じました。

3番目の寮の活動ですね。本日は触れておられなかったですけれども、寮生の中で留学生という方はどのような扱いをされているかについて、少し教えていただきたい。

【鈴木寮務主事（副校長）】 本校には国費留学、それからマレーシア政府の留学生がおりまして、多い時で十数名の留学生がいます。最近は10名を下っていますけれども、留学生はアパートに住むことを意思表示しない限りは寮に入ることになっています。

新しくできた創志寮という寮は、全室個室の寮ですが、留学生は、その創志寮に住んでいます。3年生だけはまだ本校に慣れていないため同じ学科、学年の同性の学生がチューターとして、同じフロアに生活することになっています。去年度までは古い寮で、2人部屋で生活していたのですが、今年度からは個室になりましたので、隣同士の個室で生活しています。

【若原委員長】 事情はよくわかりました。

提案ですけれども、豊田高専は留学する学生さんの比率が10%を超えており、グローバル化という意識は非常に高いと思いますが、留学したことがない学生さんにとっては、聞いた話と目にするのは違いますので、留学生との活動を通して、留学生の母国の文化とか考え方を勉強する場を設けていただけると、ますます良くなるのではないかと思います。

【鈴木寮務主事（副校長）】 ありがとうございます。

留学生も寮祭等で模擬店を出店したり、あるいはこうよう祭に参加したり、なるべく日本人の学生と交わるような機会を設けています。日々の寮での掃除も一緒に行ったり、あるいはキャリア支援関係では、留学生が講師となって在校生に自国のことをプレゼンしたりするような場を設けていますけれども、寮生活において、彼らがさらに日本人寮生と交流するシステムを作っていきたいと思っています。ありがとうございます。

【若原委員長】 もう1つ、これは、校長先生へのお願いですけれども、寮の活動、学生の活動という形で捉えていただきたいのですが、昨今の省エネルギー活動を考えた時に、高専生は技術に通じている。実際も知っている。特に学生寮は、相当消費エネルギーが大きいと思います。寮生の役員、あるいは寮生の中から省エネルギー策を提案してもらい、それを先生方が審査して、実効性がありそうであればやらせてみるというような、ある意味で学校運営に対しても提案があれば受け入れるというようなことを考えていただく余地はございますでしょうか。

【高井校長】 寮の中で学生たち、先程、鈴木先生がいろいろないくつかの委員会があるという話で、多分そのようなこともいろいろ議論をされていると思うのですが、いわゆるごみの収集も含めて、彼らの意識は結構高いので、是非そのようなエネルギーを使うということにターゲットを絞っても、また新しい提案が出てくるかなと。

実は、今年からエアコンが付いていますので、彼らが使おうと思えば、エアコンは使えるのですけれども、そのような意味でも自己負担になりますので、意識さえ高まれば負担も少なくなるのだろうし、また、学校も助かるということですので、是非また検討させて

いただきたいと思います。ありがとうございます。

【若原委員長】 ありがとうございます。

一通りご意見を伺いましたが、その他まだ言い忘れたことがございましたら。

【足立委員】 足立です。

先ほど資料1のことだけについて、お伺いしましたけれども、やはり私も寮のことが気になりまして、寮生間の連携、交流の中で寮の役員、もちろん関わっていらっしゃる先生方も本当に大変なことだと思います。この役員の学生たちも毎週水曜日ミーティング、それから役員会が毎週日曜日にあると。さらにまたそういった学生だからこそ、マテカにも恐らく積極的に参加をされているのではないかと思います。これは先輩であり、社会人でもあり、企業人としてもここまでなかなか、ミーティングの細かい内容までわかりませんが、ここまで頑張っている学生たちがいるのだということで、鈴木先生を始め、先生と学生とが一緒になって行っておられると、運営されておられると、これはまた素晴らしいことですよね。600人といったら、本当に600人以下の村と称するものも幾つかあるはずですから、一つの大きな自治でもありますし、またその中でご苦労なり、健闘ぶりというのは、ただただ感心するばかりです。是非、今後も大変でしょうけれども、より良い生活環境、それから学生生活が送れるよう、みんなが力を出し合って進めてもらえたらいいなと期待しております。そのような面では、子供を預ける親御さんたちも本当に安心して豊田高専の寮に預けられるというようなことにつながっていくものと思います。

ただ、1点だけ、昨今、東南海地震も含めて有事のときの体制ということで資料を見させていただきましたら、いろんな組織もきちんと設立されています。年2回の訓練もなされているということでしょうけれども、我々企業も定期的に、特にこの時期は回数もふえております。特に企業の場合ですとBCPとか言われて、それからまた先に事業継続のことまでいろいろ課せられて、本当に時間ごとに区切って誰が何をすべきかというようなことを行っています。地震等は、起こらなければ一番いいことですが、もし起こった場合、特にまた夜間ですとかお休みの時、そのあたりも何かの機会に想定されて、こんな場合はどうだろうという課題も幾つか出てこようかと思います。これらを逐一積み重ねて整理なり標準化していただければ、より安心・安全な寮生活に持っていけるのではないかと思いますので、大変とは思いますが、よろしく願いいたします。

【鈴木寮務主事（副校長）】 ありがとうございます。

そのような危機管理と、健康面が、寮担当者としては、一番心配な部分でありまして、先ほども少し申し上げましたけれども、今回春の研修会に豊田市の消防署員の方に来ていただいて、まず事前に、私どもが作成した「非常時の際のフローチャート」と「防災避難訓練の実施要綱」をプロの目で精査していただき、それをもとに全体の場で講演していただくと考えています。学校での避難訓練の場合は救助袋等を使って訓練があるのですが、寮生の場合これまでそのような訓練が行っていませんので、もう少し実際の場面を想定した訓練をこれから行っていきたいと思っております。ありがとうございました。

【若原委員長】 ほか、特段ございますでしょうか。

無いようでしたら、簡単に総括をします。

今回、評価の議題としていただきました3つの案件について、各委員から非常に良い取り組みということで、是非続けていただきたいということがあったと思います。

その他、さらに良くするために幾つかのコメント等ございましたが、これはできれば勘案していただいて、より良い取り組みに発展していただきたいということでお願いしたいと思います。

以上で本日の外部評価委員の総括という形にさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

以上で議事を終了します。

報告のまとめ方につきましては、事務からご説明いただきます。

【総務課長】 今回もこの評価の報告書を作成する予定でございます。

また、来年度になると思いますが、原稿ができ次第、委員の皆様にお送りしますので、内容等について修正等ございましたら、またよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【若原委員長】 以上で議事を終了いたします。

では、司会を高井校長先生にお返しします。

【高井校長】 本校の高専の特徴ですけれども、いわゆる高校生に相当するような年代の学生から、大学生に相当するようないわゆる成人のところまで幅広い子供たちといますか、学生が学ぶということで、一つはエンジニアとして世の中に出ていくための教育というのがありますし、それから一方では、非常に大きいのは人間として一番成長する時期に本校で学生を預かっているという2つの側面があります。本校では先ほどの寮の教育を含めて、全人的な教育を高専の使命としてやらざるを得ないということです。ほとんど親代わりのような形で、いろいろな問題を抱えてはいるんでしょうけれども、そういう学生たちを含めて、本校の先生方はいろんな試み、あるいは指導をしていると思います。

今回、いただきましたいろいろな提言を含め、将来的にまだこれから行わなければならないところについては、次回にご報告をさせていただきたいと思います。本日は、本当にお忙しいところをお越しいただきまして、どうもありがとうございました。

【総務課長】 以上をもちまして、平成25年度豊田工業高等専門学校外部評価委員会を終了します。ありがとうございました。

豊田工業高等専門学校
「自己点検・評価並びに外部検証・外部評価報告書」No.12

No.1	平成 6 年 5 月	発行
No.2	平成 7 年 5 月	発行
No.3	平成 9 年 1 0 月	発行
No.4	平成 1 0 年 1 2 月	発行
No.5	平成 1 2 年 2 月	発行
No.6	平成 1 3 年 3 月	発行
No.7	平成 1 5 年 5 月	発行
No.8	平成 1 8 年 5 月	発行
No.9	平成 2 0 年 5 月	発行
No.10	平成 2 2 年 1 0 月	発行
No.11	平成 2 4 年 1 0 月	発行
No.12	平成 2 6 年 1 0 月	発行

発行 豊田工業高等専門学校
愛知県豊田市栄生町 2 - 1
TEL (0565)36-5905
〒471-8525